

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
1	1	人文社会科学部(共通科目)	北東北研究(Study of North Tohoku)	1, 2	必修科目	2	前期	水曜日 1・2時限	上條 信彦, 大橋 忠宏, 白石 壮一郎, 武井 紀子, 片岡 太郎	地域志向科目	レベル5	人文社会科学部での研究を進める出発点として、各専攻で修得する専門知識・技能にもとづく実践力・応用力を身につけるために、多様な課題に対する積極的な関心を獲得すること	北東北の歴史、文化、社会、現代的課題について積極的な関心を深め、多分野の教員により意欲的かつ清新な視点からの講義を展開する。	上條信彦 1 青森県における埋蔵文化財とその調査 2 北東北の遺跡からみた縄文のくらし 3 北東北の遺跡からみた縄文社会 武井紀子 1 陸奥・羽田地域の歴史的特徴の比較 2 北東北と都の都鄙間交通 3 北東北と北方交易 片岡太郎 1 北東北の漆工技術 2 北東北の遺跡保存と活用 3 東北地方における文化財防災と地域連携 白石壮一郎 1 戦後社会変動と北東北の人口地域移動 2 高度成長期における上京者の情景 3 上京・リターンと家業・家族 大橋忠宏 1 都市/地域問題:弘前の空間計画を例に 2 津軽地方の公共交通の現状と課題 3 地域間高速交通網整備と北東北	【予習】各回のテーマについて関心を持ち講義にのぞむようにする。 【復習】各回の講義内容を振り返り、関連する事柄を調べるなど、各自積極的な復習を必要とする。	学際・新領域	-	-	特になし。	講義時に各担当教員から指示される。	8割以上の回に出席の上、5人の教員が提示する課題のうちいずれか一つを選びレポートを提出する。	講義形式	毎回、それぞれのテーマについて、各教員からの講義形式で進める。	特になし。	【担当】武井: 333号室 火10:00-12:00	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし。
2	2	人文社会科学部(導入科目)	美術史(Art History)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	足達 薫	-	レベル5	美術史学における基本的な方法論(様式分析、イコノグラフィ[図像学]、イコノロジー[図像解釈学]、社会史、精神分析)及びそれらの方法に基づく分析手法を、具体的なテキストの読解及び解説を通じて学ぶ科目です。具体的な分析例を批判的に考察し、各方法の限界と可能性を省察していきます。	美術史学における基本的な方法論(様式分析、イコノグラフィ[図像学]、イコノロジー[図像解釈学]、社会史、精神分析)及びそれらの方法に基づく分析手法を、具体的なテキストの読解及び解説を通じて学ぶ科目です。具体的な分析例を批判的に考察し、各方法の限界と可能性を省察していきます。	3回目以降は各テキストの批判的分析を中心とします。 1回目:美術史学の最前線——今何が問われているのか 2回目:美術史学の形成——近代以前の美術史に関する諸問題 3回目:クリスとクルツ『芸術家伝説』(1)美術の起源 4回目:クリスとクルツ『芸術家伝説』(2)美術家に関する神話 5回目:パノフスキー『イコノロジー研究』(1)3つの解釈レベル 6回目:パノフスキー『イコノロジー研究』(2)盲目のクビド 7回目:パノフスキー『イコノロジー研究』(3)ミケランジェロと新プラトン主義 8回目:パノフスキー『象徴形式としての遠近法』(1)ルネサンス以前 9回目:パノフスキー『象徴形式としての遠近法』(2)ルネサンス 10回目:バクサンドール『ルネサンス絵画の社会史』(1)注文契約書が語るもの 11回目:バクサンドール『ルネサンス絵画の社会史』(2)美的カテゴリーの再構成 12回目:パノフスキー『とめどなく笑う』 13回目:ダニエル・アラス『何も見えない』 14回目:シアマン『オンリー・コネクト』 15回目:ボルツォーニ『クリスタルの心』	【予習】毎回取り上げるテキストの読解【復習】講義での解説を踏まえた小エッセイ	芸術関連	思想関連	歴史学関連	テキストをコピーで配布します。	リストを配布します。	平常評価(授業への参加度):授業でとりあげるテキストに関する小エッセイを毎回提出してもらいます。評価の30%。期末評価(理解度の確認):いずれかのテキストに関する分析的レポート。評価の70%。上記を合算して成績評価を行います。	講義	各回でとりあげたテキストに関する小エッセイを提出してもらい、次の回にフィードバックします。	ヨーロッパ美術に関するテキストを取りあげるため、ヨーロッパの美術に関する基本的知識が必要となります。	水曜13:00~14:00、人文社会科学部3階、芸術史研究室。	kaorucci ※) hirosaki-u.ac.jp ※はアットマークです。	なし。
3	3	人文社会科学部(導入科目)	考古学(Archaeology)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	上條 信彦	地域志向科目	レベル5	考古学における基礎的理論と資料化の技術を習得すること	型式論、領域論、流通論、社会論の4つをテーマに関連する課題を出し、文献を購読し、発表討論を行います。	【授業内容予定】 受講者のテーマに関連する論文を選定します。論文を読みこなすだけでなく、関連する文献にあたり、論文の書かれた知識や背景、現在の視点における批判を見出します。 第1回 ガイダンスとテキストの選定 第2回 年代決定について 第3回 形態的分析 第4回 分布と時間 第5回 遺跡と遺物・1 第6回 遺跡と遺物・2 第7回 資料の機能を探る・1 第8回 資料の機能を探る・2 第9回 遺物の属性分析(土器編) 第10回 遺物の属性分析(石器編) 第11回 食料を検討する・1 第12回 食料を検討する・2 第13回 食料を検討する・3 第14回 人間の行動・1 第15回 人間の行動・2	文献検索能力を高めるため、実習室・図書館、学外にある全ての資料を対象とします。	考古学関連	歴史学関連	博物館学関連	特になし	特になし	発表内容と、論文に関する調査など取り組む姿勢を評価します。	講義	演習内容に沿って、学生が調査発表し、相互に討議を行います。また、史跡・博物館や埋蔵文化財センター・歴史民俗資料館などで実物資料を調査することがあります。	考古資料を解釈するために、人類学・経済学・自然科学など幅広い内容を扱う一方、これらの学問を以下に考古学に応用していくかの思考を重視するため、専門的な内容になります。	215号室(上條) 月~金随時、10:00~13:00、17:00~がつかまりやすいです。	HP: http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijo/ 発掘の様子が見られます。HPアドレス: kamijo(あつと) hirosaki-u.ac.jp (あつと)を@に変換してください。	特になし
4	4	人文社会科学部(導入科目)	宗教学・民俗学(Science of Religions and Japanese Folklore)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	山田 巖子	-	レベル5	文化資源と文化政策について民俗学の蓄積から多角的に検討する力を身に付けること	マイノリティの持つローカルな文化の背景を日本文化史から位置づけ、文化政策について批判的に検討する。	発表の準備と内容の修正、補足が必要	民俗学関連	文化人類学関連	博物館学関連	ジェーン・マリー・ロー『神舞い人形』	授業中適宜指示します。	発表と議論で評価します。	講義及び演習	概要を講義した後、発表担当を決めて発表する。	特になし	月曜日12時~13時	itsukoあつと hirosaki-u.ac.jp	特になし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
5	5	人文社会科学部(導入科目)	哲学 (Philosophy)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	今井 正浩	-	レベル5	欧米の古代哲学・思想史関係の英文の論考の精読を通して、古代ギリシア哲学・思想史についての専門的理解を深めること 主題の設定の仕方や議論の進め方など、論考の形式的な側面にも留意することによって、論証のための技術や論を組み立て方等に関する技能を習得すること	本講義は、西洋古典古代(Classical Antiquity)における「心」の哲学(Philosophy of Mind)の展開に関する英文の論考を精読を通して、西洋古代哲学の思想文化史的特質を明らかにすることを目的としています。	西洋古典古代の「心」の哲学をテーマとした英文の論考を取り上げ、初期ギリシア哲学からプラトン・アリストテレス、ヘレニズム期の哲学をへて、アウグスティヌスとキリスト教思想にいたるまでの「心」の哲学の展開を丹念に辿ります。 第1回 導入—西洋古典古代における「心」の哲学の概観 第2回 初期ギリシア哲学における「魂」概念(1) 第3回 初期ギリシア哲学における「魂」概念(2) 第4回 ソクラテスの哲学における「魂」概念(1) 第5回 ソクラテスの哲学における「魂」概念(2) 第6回 プラトンの哲学における「魂」概念(1) 第7回 プラトンの哲学における「魂」概念(2) 第8回 アリストテレス哲学における「魂」概念(1) 第9回 アリストテレスの哲学における「魂」概念(2) 第10回 ヘレニズム期以降の哲学における「魂」概念の展開 第11回 エピクロス派 第12回 ストア派 第13回 新プラトン主義 第14回 アウグスティヌスとキリスト教思想 第15回 総括 なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってくる場合は、その都度説明をします。	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます(なお、予習・復習は、最低でも各2時間とることが必要です)。	思想関連	歴史学関連	Modrak,D.K.W., Classical Theories of Mind, in Zeyl, D.J.(ed.), Encyclopedia of Classical Philosophy (London, Chicago, 1997, pp.344-349.	授業中に、適宜、紹介していく予定です。なお、この授業で教材として使用する予定の Modrak の英文論考の論末には、専門的な参考文献が多いため、関心のある方はあらかじめ参照しておいてください。	平常評価(授業への参加度)(50パーセント)＋学期末に提出するレポートの採点(50パーセント)を合算して評価します。	講義	基本的に講義形式の授業ですが、英文の専門論文の精読等を前提として、質疑応答や討論の時間を組み込むなど、学生諸君との双方向的な授業の要素を取り入れます。	受講にあたって、古典ギリシア語・ラテン語の知識は問いませんが、語学の知識が理解を一層深めることは言うまでもありません。 日本語で書かれた代表的な古典ギリシア語・ラテン語の基礎文法書を紹介しますので、ぜひ挑戦してみてください。 (1)水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店刊, 1990年) (2)田中利光著『ラテン語初歩/改訂版』(岩波書店刊, 2002年)	毎週月曜日の午後4時～6時をオフィスアワーの時間帯として設定します。	Eメールアドレス masahiro@hhirosaki-u.ac.jp	なし	
6	6	人文社会科学部(導入科目)	倫理学 (Ethics)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 1・2時限	○横地 徳廣 原 克昭	-	レベル5	倫理学の古典テキストの読解を通じて、諸事象を哲学的に考察する仕方等を学ぶこと	日本と西欧の倫理思想史の一場面に注目し、テキスト読解を通して哲学的概念と社会的事象の相関関係を解釈します。	配布テキストを授業前後に読むことが準備学習になります。	思想関連	文学関連	歴史学関連	コピーで配布されるか、各自で指定テキストを購入します。	適宜、紹介されます。	平常評価(読解参加): 100% 内訳は、日本倫理思想史 50%、西洋倫理思想史 50%です。 上記をもとに最終的な成績評価が行われる予定です。	演習	読解しながら、段落ごとに要旨をまとめていきます。	特になし	オフィスアワーは在室時です。日本倫理思想史研究室および西洋倫理思想史研究室まで。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは 人社414 研究室に掲示されます。	特になし	
7	7	人文社会科学部(導入科目)	文芸基礎論 (Literary Foundation)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 7・8時限	泉谷 安規	-	レベル5	20世紀の代表的小説といわれるマルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』を読むことで、人間にとって芸術とは何かという問題を考えたいこと	20世紀、あるいはフランス文学を代表するといわれるマルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』を読んで、人間にとって芸術とは何か、小説や絵画や音楽を読み、見て、聴くとはどういうことなのか、あるいは時間とは、記憶とは、人間同士の関係とは、などなど、人間にとって生きることの意義を考えていきます。もちろん、これらすべてを15回の授業で扱う余裕もなく、またブルーストの小説がその答えを与えてくれるわけでもありません。しかもこの小説は全7篇、邦訳にして14巻もある大長編小説です。しかしながら、ブルーストの小説を読むことは、こうした人間の生というものを再び考える、別の角度から考えるヒントを与えてくれます。授業でブルーストの作品に触れて、その一端でも見つけられたらばと思います。授業では、『失われた時を求めて』の最初の作品『スワン家のほうへI』をテキストとして読んでいきます。	1. イントロダクション(ブルーストについて) 2. 冒頭:誰が語っているのか? 3. 眠りと記憶 4. 身体と時間 5. コンプレのエピソード(1-1):就寝劇への執着 6. コンプレのエピソード(1-2):母親への愛情とその代償 7. フレット・マドレーヌの挿話からコンプレへ 8. 幼年期の記憶のコンプレ(2-1):増殖するコンプレの町 9. 幼年期の記憶のコンプレ(2-2):言葉とともに変容するコンプレ 10. 幼年期の記憶のコンプレ(2-3):二つの散歩道と二つの方向 11. 幼年期の記憶のコンプレ(2-4):ヴァントウイユ嬢、同性愛と父親殺し 12. 幼年期の記憶のコンプレ(2-5):ヴァントウイユ嬢、サディズムと悪 13. 幼年期の記憶のコンプレ(2-6):ヴィヴァンヌ川 14. 再び冒頭の語り手へ(第一部の終わりで、ようやく始まる物語) 15. まとめ	予習は、下記の教科書を読んでおくことです。復習は、授業内で取り上げた箇所を再読して、書かれていることについて自分でよく考えてみてください。	文学関連	-	マルセル・ブルースト『失われた時を求めて』1 スワン家のほうへI』吉川一義訳、岩波文庫。	開講時に指示します。	平常点(授業への参加度)50パーセント、期末時のレポート50パーセントで評価します。	演習形式で、教科書を読んでいます。	特にありません。	木曜日7・8時限	なし			
8	8	人文社会科学部(導入科目)	日本語学 (Japanese Linguistics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 9・10時限	佐藤 和之	-	レベル5	日本人に身近にある外国語との関係から日本語の特徴を学び、「ことば(言語)」の役割について考えること	「日本人のほぼ全員が日本語を話す」という日本語の最大特徴から、日本語の言語特徴を見つけ、その特徴の成立理由を明らかにする方法について講義する。	毎回、講義の終わりに次回講義の予告をするので、そのことについて下調べをしてから授業に臨んでください	言語学関連	地理学関連	教育学関連	講義中に適宜紹介します	講義中に適宜紹介します	レポートによります	講義	事前調査をした発表とそのことへの講義形式です	言語学関係の基本図書や論文をできるだけ多く読むことが求められます	研究室に在室のときは随時可能です。 火曜日11時50分から13時00分は確実に相談にのることができます。	http://human.c.c.hirosaki-u.ac.jp/ko/kugo/	特記事項はありません	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
9	9	人文社会科学部(導入科目)	アジア文学 (Asian Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	○尾崎 名津子, 渡辺 麻里子	地域志向科目	レベル5	日本古典文学についての基礎的事項を学び、理解を深めること 青森の古典文学についての理解を深めること 日本近現代文学についての基礎的事項を学び、理解を深めること 青森の近現代文学についての理解を深めること	・日本古典文学における和歌について、『古今和歌集』仮名序を通じて基礎的事項を学ぶ。 ・津軽藩主の所持本の歌集について学ぶ。 ・日本近現代文学の展開を理解しながら、青森に関わる作家の表現の特徴を学ぶ。	第1回 ガイダンス 第2回 和歌とは何か 第3回 和歌の歴史 第4回 『古今和歌集』の意義 第5回 勅撰和歌集の編纂 第6回 津軽藩主と和歌 第7回 和歌についてのまとめ 第8回 日本近現代文学と青森ゆかりのひびと 第9回 太宰治の生涯と創作 第10回 太宰治の中の葛西善蔵 第11回 太宰治『津軽』の中の弘前 第12回 太宰治『津軽』における故郷 第13回 寺山修司の生涯と活動 第14回 寺山修司と母 第15回 寺山修司『田園に死す』	予習は、次回予告されていることについて、プリントを読んだり、図書館で調べたりなど準備すること。また復習は、配布された資料について読み直し、理解を深めておくこと。	文学関連	思想関連	芸術関連	購入は不要。必要に応じて関係資料を配布する。	※以下の書籍は全て弘前大学附属図書館に所蔵されている。 ・有吉保『勅撰和歌集入門—和歌文学理解の基礎—』勉誠出版、2009年 ・谷知子『和歌文学の基礎知識』角川選書、2016年 ・太宰治『津軽』新潮文庫など ・郡千寿子、仁平政人編『寺山修司という疑問符』弘前大学出版会、2014年	授業の予習状況、理解度、試験・レポートなどを総合的に判断する。	講義	講義形式。必要に応じて、演習を加えることがある。	予備知識は必要ありませんが、予習・復習を欠かさず、毎回の内容について、理解を深めてください。	在室時は随時。事前にメール連絡をいただけるかと確実です。	尾崎名津子 ozaki@hiroaki-u.ac.jp 渡辺麻里子 mwtat@hiroaki-u.ac.jp ◎を@に替えて下さい。	特になし。
10	10	人文社会科学部(導入科目)	アジア地域学 (Asia in Regional Science)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	李 梁	地域志向科目	レベル5	弘前で生んだ明治時代の代表的言論人、思想家陸羯南の政論と山田兄弟との関係について文献と実地踏査によって理解すること	弘前を中心とする津軽の教育実状と精神風土	1. 開講の辞—津軽の精神風土と在府町の住人達 2~10. 陸羯南著『近時政論考』(岩波文庫7454—7455) 輪読 10~13. 陸羯南と山田兄弟 14~15. 山田兄弟と近代中国(同文書館の在学と孫文革命の支援) 16. 総括	事前にあたえられた課題や文献精読の担当部分を読み込み、関連事項についての調べたうえ、要点よく報告してもらうよう要求します。	思想関連	歴史関連	言語関連	特になし	その都度紹介します。	授業参加の態度と期末レポートで半々に評価します。	講義又は演習	演習形式	近代中国革命史への予備知識が望ましい。	木曜日正午から午後一時まで。その他の時間帯でも随時対応いたします。	popo@hiroaki-u.ac.jp Tel&Fax:0172-39-3955	特になし。
11	11	人文社会科学部(導入科目)	言語基礎論 (Language Fundamentals)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	ハトラー, アラスティア	-	レベル5	This course of language fundamentals is to be primarily concerned with the activity of taking language expressions apart, an enterprise known as PARSING. By parsing language, we get to reveal properties of the underlying grammar system.	The course will introduce techniques for parsing expressions of English. The same techniques will also be applied to Japanese. This will give background for further explorations of on-line treebank resources with thousands of parsed sentences to see.	Lessons will be of a practical nature engaging in the parsing activity.	言語学関連	思想関連	-	Parsing English by Alastair Butler	See e.g.: http://languagetools.info/grammarpedia/ http://www.compling.jp/ajb129/. Other references will be provided during the course.	In course participation 30%, exercises 30%, final report (a grammatical case study) 40%.	演習	Classes will be given in English.	毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で問うかにするように努めましょう。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hiroaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし	
12	12	人文社会科学部(導入科目)	欧米地域学 (European Regional Science)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時限	齋藤 義彦	-	レベル5	EUの歴史の中でEU基本法とEU基本憲章に具体的に示されている統治思想と人権思想を個別に検討することにより、EUの仕組みと働きを理解し、国際社会の中でのその特別な役割を専門的な視点から考察する能力を獲得すること	EUの発展の歴史を創設時から現在まで通観し、資料に現われるEUの特徴についての理解を深める。また個別国家の枠組みを超える未完のプロジェクトとしてのEUの可能性と限界を分析する。	[予習]各回のテーマについてあらかじめ予備的な理解をすること [復習]各回のテーマの理解を深めるために追加的な資料に当たること	政治学関連	歴史学関連	法学関連	辰巳朝嗣編『EU 欧州統合の現在』創元社、2012年	授業での成果(30%)と中間・期末レポート(70%)を総合評価します	演習	演習形式	特になし	月曜日7・8時限または昼休み時間	yosihiko(at)hiroaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし		
13	13	人文社会科学部(導入科目)	欧米文化論 (European Cultural Traditions)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	○小野寺 進, 堀 智弘	-	レベル5	欧米文化の理解を通じて、国際的に活躍できる教養や行動力を養成すること	現代社会の基盤を形成しているヨーロッパやアメリカなどの英語文化圏の歴史・文化の本質を、各地域の言語・文化・政治・社会を通じて探求します。今年は、物語の理論(小野寺進)とアメリカの奴隷制文化(堀智弘)について考察します。	授業中に指示します(小野寺)。毎回、テキストの指定された範囲を読んでもらうことが求められます(堀智弘)。	文学関連	歴史学関連	思想関連	プリントを準備します(小野寺進)。Narrative of the Life of Frederick Douglass. (Yale UP Critical Edition)(堀智弘)。	講義の中で適宜紹介、あるいはプリント等を配布します(小野寺進、堀智弘)。	レポートによって評価します(小野寺進)。担当、授業参加、レポートによって評価します(堀智弘)。	講義	講義形式(小野寺進)。講義と演習と織り交ぜます(堀智弘)。	受講にあたって特段の予備知識は必要としませんが、19世紀に書かれた英語のテキストを読解しますので、相応の英語力は必要となります(堀智弘)。	水曜日3・4時限(小野寺 進) 火曜日12:00~13:00(堀智弘)	susumu(at)hiroaki-u.ac.jp, horitomo(at)hiroaki-u.ac.jp *(at)は@に置き換えてください。	特になし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
19	19	人文社会科学部(導入科目)	地域企業 (Regional Company)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 1・2時限	○保田 宗良, 黄 孝春, 大倉 邦夫, 熊田 憲	地域志向科目	レベル5	地域企業の経営戦略を複数の視点で洞察することにより、地域や国際社会で求められる社会経済面での諸政策の立案、実施等につながる専門能力を修得すること 北東北の優良企業の成功要因を把握することにより、地域や国際社会で求められる社会経済面での諸政策を実施できる、実践力・応用力を修得すること	地域企業の経営戦略を、マーケティング、アジアでの展開、ソーシャル・ビジネスやコミュニティ・ビジネス、地域イノベーションの視点で検討します。北東北の優良企業の成功要因を包括します。地域や国際社会で求められる課題解決力の修得を意図して、講義を展開します。	1 マーケティングの基礎理論 2 地域企業のマーケティング活動 3 地域企業の流通戦略 4 小活 (以上 保田担当) 5 農産物(りんご)の流通 6 地方卸売市場と農協 7 りんご商人とりんごの輸出 8 りんごのブランド化 (以上 黄担当) 9 企業と社会の関係性に関する基礎理論 10 ソーシャル・ビジネス 11 コミュニティ・ビジネス 12 小活 (以上 大倉担当) 13 地域資源によるイノベーション 14 地域農業におけるイノベーション 15 小活 (以上 熊田担当)	各教員が、毎回具体的な学習を指示します。	経営学 社会学	社会学 社会学	-	使用しません。	講義時間に紹介します。	レポート6割、平常点4割 担当教員が 出題したレ ポートのテ マ4題から2題 選択して、提 出してください。 平常点も 加えます。	演習	通常のゼミ形式で進めます。議論を進めながら知識を整理します。	北東北企業の動向に、関心を有することが不可欠です。	保田 木曜日 12時～12時30分 黄 水曜日 12時～13時 大倉 金曜日10時20分～11時50分 熊田 火曜日 11時50分～12時40分	保田 yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください。	りんごは、青森県産を対象としています。
20	20	人文社会科学部(導入科目)	社会調査設計 (Social Research Design)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	曾我 亨	-	レベル5	社会調査の方法を学び、私たちの社会を見極める基礎的な技術を身につけること	私たちの社会は多様で複雑です。これを理解するには、実際にフィールド(現場)に出て、人びとの関わりを学ぶことが大切です。社会調査は、社会で起こっている様々な現象やしくみを明らかにするために、人と出会い、データを収集し、分析し、それをまとめる方法です。本授業では社会調査の設計の仕方について体系的に学びます。	①イントロダクション (1)研究デザイン ②質的研究のプロセス ③研究設問 ④フィールドへのアクセス ⑤サンプリング戦略 ⑥いかに質的研究をデザインするか (2)口頭データ ⑦半構造化インタビュー ⑧データとしてのナラティブ ⑨フォーカス・グループ ⑩口頭データ収集法の概観 (3)観察と媒介データ ⑪観察とエスノグラフィ ⑫ビジュアル・データ:写真、映画、ビデオ ⑬データとしてのドキュメントの利用 ⑭質的オンライン研究:インターネットを使う ⑮観察と媒介データの概観	テキストの該当箇所を予習してきてください。レジュメなどを作成する必要はありませんが、事前に分からない言葉などは調べてきてください。復習は求めませんが、自身の調査設計に授業で得た知見をフィードバックするようにしてください。	社会学 社会学	文化人類学 社会学	心理学 社会学	ウヴェ・フリック著『新版 質的研究入門』春秋社 (第3部から第5部までの内容をあついています)	特になし	授業への参加とエクササイズ の提出レポートによる	講義	講義と演習形式。教材に記されたエクササイズに答えてもらい、教員と討議します。	1回目の授業で、受講者の知識を確認し、受講生の興味関心などにあわせて授業内容を適宜変更することがあります。この授業は、大学の学部教育において、「社会調査」に関わる講義・実習等を1科目以上履修済みであることを念頭に進めます。	月曜日12時から12時40分まで	sogap[at]hirosaki-u.ac.jp [at]の部分を変換してください。	特になし
21	21	人文社会科学部(導入科目)	量的調査分析 (Quantitative Research Analysis)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	花田 真一	-	レベル5	社会科学における実証研究で利用されるデータ解析手法や統計分析のためのソフトについて習熟すること	社会科学における実証研究で用いられるデータ解析手法について、統計分析ソフトRを用いて実際にデータ解析を行いながら学んでいきます。	【予習】各回の理論的な背景を復習しておくこと 【復習】各自に関心のあるデータで講義内容を試してみることに	社会学 社会学	経済学 社会学	応用数学 社会学	山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎(2008). Rによるやさしい統計学 オーム社	授業で適宜紹介していく。	発表と議論の内容に基づいて評価を行う。	講義	担当する学生が分析手法とRの使い方について発表し、それにもとじて展開していく。	各自ノートパソコンを準備し、講義に持参してください。また、学部卒業レベルの統計学の知識があるという前提で授業を行います。そのため、統計学の知識に不安のある受講生は、その部分を自習する必要があります。	火曜日14:30-15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講者の関心や理解度に応じて内容を変更する場合があります。	
22	22	人文社会科学部(導入科目)	質的調査分析 (Qualitative Research Design)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 1・2時限	○諏訪 淳一郎(国際連携本部)、杉山 祐子、白石 社一郎	-	レベル5	社会調査の中の質的調査について、その目的、方法、考え方を理解すること。それによって、社会のしくみを見極める基礎的な力、考える力を身につけること	社会調査は、私たちの社会で起こっているさまざまな現象やしくみを明らかにするために、現場で実際に人と出会い、データを収集し、分析し、それをまとめていく科学的な方法です。本講義では、社会調査のうち質的調査分析を中心に、その目的や方法、考え方について学びます。	次回分の内容を教科書を読みながらできる範囲で理解しておく(予習)。講義等の内容を各自で振り返り、レポート作成に役立てる(復習)。	社会学 社会学	文化人類学 社会学	-	『よくわかる質的調査(技法編)』谷富夫ほか 編 ミネルヴァ書房	授業中に適宜紹介します。	授業参加とレポート評価を基本にします。	演習	授業内容を踏まえた学生間の討論を中心とします。	特になし	授業の最初の回に連絡します。	なし	特になし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
23	23	人文社会科学部(導入科目)	国際関係学(International Relations)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	フルート・フォルカー	-	レベル5	国際関係(論)の歴史、理論、構造と課題の科学的理解を得ること	授業の内容と日程を参照	1) 国際関係論への入門、テキストの紹介 第2回～第4回 国際関係の歴史 2) International Relations before the Second World War(第2次世界戦争以前の国際関係) 3) International Relations after the Second World War(第2次世界戦争以降の国際関係) 4) International Relations after the Cold War(冷戦以降の国際関係) 第5回～第9回 国際関係の理論 5) Realism(リアリズム / 現実主義) 6) Liberalism(リベラリズム / 国際協調主義) 7) Marxism and Neo-Marxism(マルクス主義とネオマルクス主義) 8) Neo-Realism and Neo-Liberalism(ネオリアリズムとネオリベラリズム) 第9回～第12回 国際関係の構造 9) International Organizations and NGOs(国際機関とNGO) 10) United Nations(国際連合) 11) International Law(国際法) 12) Regionalism(リージョナリズム / 地域統合) 第13回～第15回 グローバルな課題 13) International Security(国際社会の安全保障) 14) Nuclear Deterrence and Proliferation(核抑止論と核拡散) 15) Human Rights(人権)	専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必要。予習: 毎回事前に指定の1章を準備すること。復習: 授業で取り上げたテキストについての考察・議論に基づいて、指定のテーマについてのレポートの提出(2～3回)	政治学関連	歴史学関連	社会学関連	Jeffrey Haynes et al.: World Politics, International Relations and Globalization in the 21st Century (2nd Edition, London et al.: Sage, 2017)	【参考文献】 佐々木裕太『国際政治史 - 世界戦争の時代から21世紀へ』名古屋大学出版会 2011年 大芝亮『国際政治理論 - バズル・概念・解釈』ミネルヴァ書房 2016年	予習: 毎回事前に指定の1章を準備すること。 復習: 授業で取り上げたテキストについての考察・議論に基づいて、指定のテーマについてのレポートの提出(2～3回)	演習	対話形式(日本語)で専門的な英語文献分析。 第2回から毎回の授業の前に15-20ページ程度の上記のテキストの部分を準備することが必須です。	専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必要。	木曜日3・4時限(昼休みを含む)または予約で随時	fuhrt(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし
24	24	人文社会科学部(導入科目)	国際経済学・経営学(International Economy and Management)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 5・6時限	○森 樹男、桑波田浩之、内藤周子、小谷田 文彦、細矢 浩志	-	レベル5	国際経済に関する現状を理解し、その背後にある理論を理解できるようになること	国際経済や国際経営に関わる現状を理解したり、その背後にある基礎的な理論について、英語で学ぶ授業です。オムニバスによる授業で、担当教員の専門分野に関わるトピックを取り上げていく予定です。	【予習】指定された資料等を読んでください。 【復習】講義で学んだことの理解を深めるために、関連の論文を探して読んでみてください。	経済学関連	経営学関連	適宜、資料を配付します。	適宜、資料を配付します。	各担当教員ごとに指示する課題と授業への参加状況により評価します。	毎回のテーマに関する解説を行うほか、テキストの内容をもとにディスカッションを行います。	特になし	木曜 17時40分～18時30分(科目主任 森)事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし			
25	25	人文社会科学部(導入科目)	海外事情学(Overseas Studies)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	澤田 真一	-	レベル5	現代の国際社会における多文化共生にかかわる基礎的な知識を習得するとともに、「差異」に起因する「差別」の問題についての様々な資料やデータに基づき、論理的で綿密な考察を行うことを通じて、人間社会の実態を複眼的に捉え、多文化共生社会の実現につなげるのできる能力を養うこと	「差異」と「共生」をキーワードに、多文化共生社会を構築していくための思想と、NGO、国家、国連による様々な取り組みについて考察します。毎回講義内容に関連した英語のテキスト、論文を読んでいきます。	各回の授業終了時に復習点、次の予習点についてお知らせします。(予習・復習は、各2時間程度行う必要があります。)	思想学関連	文学関連	授業時にプリントを配布します。	授業時に適宜紹介します。	平常評価(授業への参加度): 20% 中間評価(レポート): 30% 期末評価(期末試験): 50% 上記を合算して、最終的な成績評価を行います。	講義形式ですが、授業中に受講者は意見を述べることが出来ます。	特になし	金曜日7・8時限	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	特になし			
26	26	人文社会科学部(導入科目)	日本事情学(Japanese Studies)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 1・2時限	泉谷安規、加藤 恵吉、原 克昭	-	レベル5	日本の倫理・歴史・経済経営などの特色を踏まえながら、現在および将来の日本像について総合的な知見を深めること	文化・社会・制度等、日本における諸側面についての検討と考察。	加藤: 日本の経営・会計事情について学部レベルのテキストと新聞などを事前に読んでおくこと 泉谷: 各講義ごとにあらかじめ資料を配布するので、必ず事前に読んで授業に臨むことが必要 原: 各講義ごとにレジュメ資料を配付する	思想学関連	言語学関連	経営学関連	加藤: 講義で使用する資料及びレジュメは配布する 泉谷: 各講義で使用する資料等を配布する 原: 各講義ごとにレジュメ資料を配付する	加藤: 『体系現代会計学 各巻』中央経済社 本学図書館に所蔵 泉谷: オギユスタン・ベルグ『風土の日本 自然と文化の通感』ちくま学芸文庫(とくに第1部) 原: 『日本思想史ハンドブック』新書館	各教員の評価を合計して最終評価とする 加藤: 講義における発言等とレポートまたは試験 泉谷: 講義における発言とミニレポート 原: 各テーマごとの受講シート・小レポート	加藤: 講義及びゼミナール形式併用 泉谷: 講義及びゼミナール形式併用 原: 講義及びゼミナール形式併用	特になし	加藤: 月曜12:00～12:40 泉谷: 木曜14:20～15:50 原: 木曜15:00～17:00	-	特になし		

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
27	27	人文社会科学部(導入科目)	日本社会(Japanese Society)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 9・10時	○児山 正史, 平野 潔, 成田 史子, 吉村 顕真, 河合 正雄, 古村 健太郎	-	レベル5	留学生が日本社会のさまざまな側面について理解を深め、論じられるようになること	日本社会のさまざまな側面について、各分野を専門とする教員が、講義などを行います。	第1回 イントロダクション(全担当教員) 第2回 働き方改革(1)労働時間規制(成田史子) 第3回 働き方改革(2)同一労働同一賃金原則(同上) 第4回 民法上の実親子関係(吉村顕真) 第5回 現代における生殖補助医療と親子関係(同上) 第6回 親権と児童虐待(同上) 第7回 市民生活と刑事法(平野潔) 第8回 生命倫理と刑事法(同上) 第9回 国民の司法参加と裁判員制度(同上) 第10回 刑務所の中(河合正雄) 第11回 日本国憲法の基本(同上) 第12回 日本の政治(1)政治参加(児山正史) 第13回 日本の政治(2)政党と政治家(同上) 第14回 日本の行政(同上) 第15回 親密な関係の国際比較(古村健太郎)	予習または復習を行う必要があります。具体的には各教員が説明します。	法学関連	政治学関連	社会学関連	各教員が指定します。	各教員が指定します。	授業への参加度などを総合的に評価します。具体的には各教員が説明します。	講義	基本は講義形式です。演習形式で行うこともあります。	特にありません。	授業代表者(児山): 金曜日7・8時限(他の日時でも可)。	授業代表者(児山): koyamatd@hiroasaki-u.ac.jp	特にありません。
28	28	人文社会科学部(導入科目)	日本経済(Japanese Economy)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 3・4時	○池田 憲隆, 小谷田 文彦, 飯島 裕胤, 高島 克史, 森 樹男, 熊田 憲	-	レベル5	日本の経済・経営に関する学術の最新研究動向を理解し、受講生自身の研究を展開するうえでの手がかりを得ること	各担当者は自分の専門分野から日本の経済に関わるトピックを取り上げ、それに関する最新の研究情報の紹介と問題点の考察をおこないます。	第1回 ガイダンスとイントロダクション(池田憲隆) 第2回 日本経済の長期的概観(池田憲隆) 第3回 日本経済の現状(1)(池田憲隆) 第4回 日本経済の現状(2)(池田憲隆) 第5回 日本の金融システム(飯島裕胤) 第6回 日本の資金循環(飯島裕胤) 第7回 競争への公的規制(小谷田文彦) 第8回 技術革新と経済政策(小谷田文彦) 第9回 日本の経済発展と技術政策(熊田憲) 第10回 日本企業のイノベーション(熊田憲) 第11回 日本企業の海外進出(森樹男) 第12回 外資による日本企業の買収(森樹男) 第13回 日本の起業制度(高島克史) 第14回 ベンチャー企業の成長戦略(高島克史) 第15回 まとめと補遺(池田憲隆) なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	予習については第1回の授業で説明します。また、毎回の授業内容と論点を確認する復習が必要です。	経済学関連	経営学関連	法学関連	教科書は使用しません。	授業内容に応じて、参考書・論文・資料を適宜指示します。	基本的に平常点で評価しますが、与えられた課題(レポート等)による場合もあります。	講義	基本的には講義形式ですが、演習形式をとることもあります。	受講生と相談の上、曜日・開講時間の変更があります。	木曜日13:00～14:00(池田)	nikeda(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
29	29	人文社会科学部(総合科目)	情報処理(Computer Science)	1, 2	選択科目	1	前期	金曜日 7・8時	○内海 淳, 花田 真一	-	レベル5	人文社会科学部に必要となる数値処理および文字テキスト処理の基本的技術を習得すること	数値処理、文字テキスト処理に関する知識や技術を具体的な事例を使って理解する。	【予習】事前に配布する講義資料等を読んでおく 【復習】各自の研究関心に応じたデータに、講義で学んだことを当てはめてみる	情報科学関連	情報工学関連	-	授業時に指示するか、コピーを配布する。	授業時に指示する。	授業への準備状況、レポートなどの課題の成果を総合的に判断する。	演習	授業は2名の教員(花田・内海)によるオムニバス形式の演習形式でおこなう。	受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。	花田: 月曜日 14:30～15:30 内海: 水曜日 12:00～12:40	花田: shanada(at)hiroasaki-u.ac.jp 内海: utsumi(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	
30	30	人文社会科学部(総合科目)	日本語・日本語論文作成技法(Japanese Thesis Technique)	1, 2	選択科目	1	後期	火曜日 3・4時	小山 宣子(国際連携本部)	-	レベル5	日本語の書き言葉の基本を修得した学生が、論文で使われる主な表現を学ぶことを通して、基本的な論文の文型を文法的に理解し、音読したり書いたりすることができるようになること なお、教科書は文型辞典のようなもので、後から表現を調べて使うことができる	11月から8回開講の予定。 毎回、教科書を読んで、教師が内容を解説し、それぞれの表現を学びます。	第1回 研究の対象と背景を表す表現 第2回 先行研究の提示 第3回 研究目的と研究行動の概略 第4回 方法 第5回 結果の説明 第6回 検証型の考察 第7回 論証型の考察 第8回 結論の提示と研究結果の評価	予習: あらかじめ、教科書の内容を読み、疑問を明らかにします。 復習: 習った範囲について、重要なポイントのまとめを作成します。	言語学関連	-	-	二通・大島他2009『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会	なし	小テスト 40% 予習・復習 30% 授業への参加度 30%	講義	講義と質疑応答。授業の初めに復習のため小テストがあります。	日本語の書き言葉や、「てにをは」、自動詞他動詞等の学習が必要と思われる学生は、以下の本をマスターしてから受講してください。この内容を理解していることが受講の前提です。10月の最初にテスト(本の最初に確認テストがあります)で到達度を確認し、達していないと認定された学生は、11月の開講までに、この本の内容を十分修得しなければなりません。小森・三井2016『レポート・論文を書くための日本語文法』くろしお出版	未定	nobuko(アットマーク)hiroasaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(3副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
31	31	人文社会科学部総合科目	英語論文作成技法(English Thesis Technique)	1, 2	選択科目	1	前期	月曜日 9・10時	木村 宣美	-	レベル5	エッセイの構造・パラグラフの構造・学術論文の基本構造を理解し、英語論文作成法の基礎を身に付けること	英語論文の検討及び『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告を通じて、英語論文作成のための基礎を学ぶ。	第1回 導入 第2回 英語論文の基本構造: 英語論文の作成 第3回 英語論文の基本構造: 英語論文の基本構造の検討 第4回 『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告 エッセイの構造: エッセイの構成要素(序論・本論・結論)① 第5回 『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告 エッセイの構造: エッセイの構成要素(序論・本論・結論)② 第6回 『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告 パラグラフの構造: エッセイとの共通点と相違点、トピック文とトピック支持文 第7回 『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告 パラグラフの構造: 結び文、序の文、トピックとサブトピック 第8回 『やさしく書ける英語論文』の読解及び報告 学術論文の基本構造: 序論・本論・結論	【予習】教科書の読解及び内容の報告に基づき、授業が展開されるので、予習として、教科書を精読することが求められる。 【復習】各自作成した英語論文を、教科書の読解及び内容の報告に基づき得られた知識を活用して、改訂する作業が行われるので、授業内容の復習が求められる。	言語学関連	-	-	藤本滋之 2002『やさしく書ける英語論文』松松社	上村妙子・大井恭子 2004『英語論文・レポートの書き方』研究社 迫柱・徳永聡子 2012『英語論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会 吉田知子 1998『アカデミックライティング入門 - 英語論文作成法』慶應義塾大学出版会	【授業のテーマ及び到達目標】がどの程度達成できるかという観点で、平常評価(質疑応答(発言)(20%)・発表(30%)・レポート(50%))の結果を総合して、評価する。	演習	演習形式(英語論文の検討及び英語論文作成法の内容の報告)	この科目を受講する際に、各自が執筆した英語論文を用意することが必要です。英語論文作成法を学ぶ上で、英語で書かれた学術論文を数多く読むことが重要です。	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし
32	32	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	日本歴史論(Japanese History)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	武井 紀子	-	レベル5	文献の講読を通じて、日本の歴史を考える上での様々な視点を学ぶこと。また、日本史研究の論点の見つけ方を身につけるとともに、史資料に基づいた論理的な考察を行うことができるようになること	石母田正『日本の古代国家』(岩波文庫)第三章「国家機構と古代官僚制の成立」の講読および関連史料の読解を通じて、古代日本の歴史を考える上での諸問題について学びます。	1~2 ガイダンス 石母田正『日本の古代国家』、大化の改新について 3~6 第一節 「過渡期としての天智朝」 7~9 第二節 「政/要ハ軍事ナリ」天武・持統朝 10~12 第三節 「東洋的専制国家 天皇制と太政官制」 13~15 第四節 「古い型の省と新しい型の省」 おおよそ一節を3~4回に分けて輪読していきます。各回とも、まず本文の輪読を行い、文献中に出てくる史料の原文を読みながら議論し、関連する参考文献や補足説明を加えていきます。上記の大まかな計画をもとに、具体的に読み進めていくペースは参加者と相談しながら決めていく予定です。	【予習】毎回、次週に読み進める分のテキストを事前に読み、分からない用語などについては辞書で調べておくこと。 【復習】その日に読んだ部分のテキストを読み直し、内容の把握に努めること。配布したプリント等を見直すこと。	歴史学関連	考古学関連	思想関連	石母田正『日本の古代国家』(岩波文庫、2017年)第一章・第二章部分 森公章編『日本の時代史2 倭国から日本へ』(吉川弘文館、2002年) 早川庄八『日本古代官僚制の研究』(岩波書店、1986年) そのほか、授業中に適宜紹介します。	授業への参加度と平常評価(40%)、学期末レポート(60%)により評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的な参加を総合的に判断します。	演習	担当者を決めて文献輪読をもとに、講義形式による補足説明、関連論文の講読を組み合わせます。	特になし。予備知識は必要としないが、難解な話も含まれるため、『日本歴史』などの七世紀の通史を合わせて読むことをおすすめします。	火曜日10:00-12:00、そのほか研究室(人文333)在室時には、いつでも来てかまいません。	n-takei(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えて下さい。	特になし。	
33	33	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	中国歴史論(Chinese History)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	荷見 守義	-	レベル5	中国の歴史について、史資料やデータにもとづき論理的で綿密な考察を行うことをつうじて、人間社会の深層を明らかにする能力を養うこと	○中国明代の外交と官僚制度について、中国語文献を通読して、批判を加えて行く。 ○内容については院生が分担して各章を読み進めることとする。	第1回 ガイダンス 第2回~第15回 明代の外交と官僚制度について、中国語文献を読み進める。明代の外交について(7回) 明代の官僚制度について(7回) 第15回目にレポートを提出すること。	【予習】事前の予習は必須です。 【復習】授業中の課題については必ずこなして下さい。	歴史学関連	-	-	場合によってプリントを配布します。	授業時間において適宜、紹介します。	平常評価70% 授業への参加度によって評価します。 期末評価30% レポート	講義	講義と演習の折衷形式ですが、演習が主体となります。	学部レベルの中国史に関する知識があることを前提とします。	月曜日11:50~12:40	hasumim(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に変換すること。	なし
34	34	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	中国思想文化論(Introduction to Chinese Thought and Culture)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 7・8時限	李 梁	-	レベル5	「清明上河図」を読むこと	中国北宋時代に描かれた「清明上河図」を文献とプリントの美術絵を通して読み解く	1. 宋代という画期 2. 唐宋変革史観をめぐって 3. 宋代「近世説」とはなにか? 4. 皇帝としての宋徽宗 5. 張拓端「清明上河図」の収蔵流転(宋本、明仇英本と清院本)について 6~10 「清明上河図」精読 10~15 清院本の画家たちと「清明上河図」 16. 総括と報告	授業関連の課題があたりまえに、授業前に調べたうえで、授業中に発表してもらいます。	思想関連	歴史学関連	芸術関連	指定しない	(下記の図書は大学図書館、あるいは李研究室所蔵あり) 1. 斯波義信『中国都市史』、東京大学出版会、2002年。 2. 伊原 弘編『清明上河図をよむ』、勉誠出版、2003年。 3. 大西國太郎ほか『中国の歴史都市』、鹿島出版会、2001年。 4. 市川宏雄『文化としての都市空間』、千倉書房、2007年。 5. 辻 惟雄『日本美術の歴史』、東京大学出版会、2005年。 6. 橋 東勝主編『清院本 清明上河図』、天津人民美術出版社、2008年。	普段の出席(60%)と最終レポート(報告40%)を総合して評価します。	演習	演習方式	宋代という中国文化の爛熟時代の知識について、すこしでも知っておくことが望ましい。	木曜日正午から午後一時まで。その他の時間帯では臨時応変に対応します。	popo@hirasaki-u.ac.jp	なし
35	35	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	西アジア史論(Eurasian History)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	亀谷 学	-	レベル5	近世・近代の西アジア地域におけるイスラーム以前の古代史への視角や、西欧諸国がどのように中東地域の古代的史物を扱ったかについて、具体的な知識を身につけるとともに、その地域を分析するための方法について考察すること	エリオット・コラ『相反する複数の古代: エジプト学、エジプトマニア、エジプトの近代』(Elliott Colla, Conflicted Antiquities: Egyptology, Egyptomania, Egyptian Modernity, Duke University Press, 2007.)の講読を中心としつつ、あわせてイスラーム社会に関連する文献を読み、議論を行う。	上記の文献の講読を中心に、中世イスラーム時代から現代に至るまでの中東におけるイスラーム以前の古代的史物の扱いについての展開を追いつつ、近代西洋の「考古学」や「オリエンタリズム」がどのような影響を与えてきたか、またその中で西アジア地域の人々がどのようにそれに巻き込まれ、あるいはそれを利用してきたかについて考察する。 第1回 イントロダクション 第2回 クルアーンと古代 第3回 中世イスラーム世界における古代学 第4回 大英博物館のエジプト彫像室 第5回 「メンフンの頭の装飾」 第6回 「オジマンディアス」 第7回 相反する複数の古代 第8回 イスラームのファラオとエジプト学の出現 第9回 アンティカハーネ 第10回 ファラオとしての自分たち 第11回 二人のファラオ 第12回 ツタンカーメン墓の発見: 考古学、政治、文学 第13回 「アラブの目覚め」 第14回 ファラオ主義の後のファラオ主義: クトゥブとマフフーズ 第15回 まとめ	文献講読が中心となるので、各回の内容を予習することが必要となる。	歴史学関連	-	-	Elliott Colla, Conflicted Antiquities: Egyptology, Egyptomania, Egyptian Modernity, Duke University Press, 2007. 山中由里子編『 <u>驚異</u> の文化史』(名古屋大学出版会、2015年)	授業における報告・理解度による平常点と期末課題により評価する。	演習	文献の講読とそれについての解説を織り交ぜる形で行う。	西アジア史・中東地域に関する基礎的な知識があることが望ましい。	水曜日13:00-14:00	kameya.m(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし。	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
36	36	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	西洋歴史論 (European History)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	中村 武司	-	レベル5	長い18世紀のイギリスにおける政治文化を学ぶことで、グローバル化と共生の時代にふさわしい歴史理解を修得すること	この講義では、長い18世紀のイギリス海軍(the Royal Navy)を文化史的アプローチから考察することで、イギリスの議会や選挙をめぐる政治文化、記念行為がもつポリティクス、帝国をめぐる認識などの諸問題を解明することを試みます。そのさい、(1)セント・ポール大聖堂における海軍の英雄の顕彰と(2)ウェストミンスター選挙区における海軍士官の連続当選という2つの事例にたぐい、当時のイギリスで広範にみられた海軍の「神話」のありようを考察することとします。	第1回: イントロダクション 第2回: 財政海軍国家イギリス 第3回: 18世紀イギリスのアイデンティティ、帝国、海 第4回: ネルソン提督の表象と海軍感謝祭 第5回: ネルソン提督の国葬とモニュメント建立 第6回: 18世紀イギリスの政治文化とモニュメント 第7回: イギリスの軍人のバンテオンの創出 第8回: 帝国の殉教者たち 第9回: 19世紀前半のセント・ポール大聖堂とコモレションの文化 第10回: 18世紀イギリスの議会・選挙区・海軍士官 第11回: ウェストミンスター選挙区と体制支持派の海軍提督 第12回: 「旧き腐敗」とラディカリズム 第13回: 急進的なウェストミンスター再考 第14回: コクリン卿とイギリス海軍の「神話」 第15回: まとめ——ルール・ブリタニアの時代	予習: 必要におうじて、授業中に指示します。 復習: かならず授業内容の復習を行うようにして下さい。参考文献を確認したり、授業で分からなかった点を自ら調べたりすることで、授業内容への理解を深められるよう心がけて下さい。	歴史学関連	-	-	教科書は使用しません。配布するレジュメに即して授業を進めます。	D. アーミティジ(平田雅博ほか訳)『帝国の誕生——ブリテン帝国のイデオロギーの起源』(日本経済評論社、2005年) L. コリー(川北稔監訳)『イギリス国民の誕生』(名古屋大学出版会、2000年) E. P. トムソン(市橋秀夫・芳賀健一訳)『イングランド労働者階級の形成』(青弓社、2003年)	平常評価(レスポンス・ペーパーの執筆):50% 期末評価(課題レポートの執筆):50% 上記を合算の上記を最終的な成績評価を行う予定ですが、出席回数全講義回数の3分の2に満たない場合は、あるいは期末の課題レポートを提出しなかった場合は評価の対象としませんので、注意して下さい。	講義	特になし	毎週木曜日、12:00-12:40(人文社会科学部 校舎407号室: ヨーロッパ史研究室) 研究室を不在にしていることでもありますので、事前メールにて予約することを勧めます。	Eメール・アドレス: take_nk@hirosaki-u.ac.jp HPアドレス (research map): http://researchmap.jp/read0106710	特になし	
37	37	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	民俗学 (Japanese Folklore)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	山田 巖子	-	レベル5	民俗信仰を国際的な比較研究の目的、言説、習俗、物質など異なる資料から分析する方法を獲得すること	オシラ神信仰の新しい研究論文から各テーマにあわせた論文を選び、発表、協議する。	発表準備と発表箇所 の予習が必要。発表後は、修正意見をふまえた補色発表の準備が必要。	民俗学関連	文学関連	博物館学関連	なし	『お伽草子本地物語と韓国神話』(金貨金著 三弥井書店)他 授業中に適宜資料を配付する	発表内容と議論によって評価する。	演習	概要の授業をした後、分担を決めて発表する。	なし	月曜日12時~13時。	itsukoあとしrosaki-u.ac.jp	なし	
38	38	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	西洋考古学 (Archaeology of the Ancient West)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	宮坂 朋	-	レベル5	ローマ時代の文化芸術全般を学術的知見と科学的手法を用いて、多角的に理解すること ②各種の文化資源を適切に取り扱うための専門的能力・技術を獲得するとともに、その価値を的確に見極めるための眼識を養うこと ローマ考古学で習得した多角的な文化財に関する知識・技能を文化資源の学術的評価や利活用に関する国・地方自治体の文化振興のための施策につなげる能力を養うとともに、持続可能社会を実現するための資料とすること	①ローマ時代の文化芸術全般を多角的に理解するため、古代末期に関する包括的な英文の研究書を講読する。 ②各種の文化資源を適切に取り扱うための専門的能力・技術を獲得するとともに、その価値を的確に見極めるための眼識を養うこと ③おもにローマを中心とした古代地中海世界の各地域の繁栄と衰退の契機についての分析を行い、持続可能社会の実現に向けた、文化資源の学術的評価や利活用に関する国・地方自治体の文化振興のための施策につなげる能力を養う。	授業計画 第1回: 導入 第2回: 講義: 研究史と方法論 第3回: 講読と発表: Theory and Practice in Late Antique Archaeology 第4回: 方法論に関する議論 第5回: 講義: 技術論 第6回: 講読と発表: Technology in Transition A.D. 300-650 第7回: ローマ時代の技術論に関する議論 第8回: 講義: 交易 第9回: 講読と発表: Local Economies?: Production and Exchange of Inland Regions... 第10回: ローマ時代の交易に関する議論 第11回: 講義: 宗教など 第12回: 講読と発表: Religious Diversity in Late Antiquityなど 第13回: ローマ時代の宗教などの文化に関する議論 第14回: まとめの講義 第15回: まとめの発表 第16回: 定期試験 (内容は学生の関心や進度に合わせて変更の可能性があります)	予習: 課題図書を読み、発表の準備を行うこと。 復習: 討論の内容を文章でまとめておくこと。	考古学関連	歴史学関連	芸術学関連	Late Roman Archaeology, 2003-2019, Brill.	授業中に適宜資料を配付する。	授業への参加度(50%)と定期試験(50%)	講義	テキストは英文ですが、講義は日本語で行います。	火曜日5/6限目	研究室電話番号 0172-39-3243 メールアドレス tomo@hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	受講希望者は4月11日に講読のテキストのコピーを取りに来て、各自で精読し、発表の準備をしてください。	
39	39	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	日本考古学 (Japanese Archaeology)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 5・6時限	上條 信彦	地域志向科目	レベル5	考古資料の分析に必要な知識および分析視点や技術について習得すること	縄文時代から弥生時代の青森県内の考古資料を通じて、どのように生業や社会の復元を行っていかかといった方法論を実践的に学習します。	授業前に担当者が選定します。実物を使います。	考古学関連	歴史学関連	博物館学関連	『発掘調査の手引き』(文化庁発行)	特になし	技術の習得度(5割)および作業に対する取り組み姿勢(5割)で評価します。	演習	体やPCを使った実践的内容になります。	深い討議するためには論文を読むだけでなく、関連分野についての知識が要求されます。	215号室(上條) 月~金随時、10:00~13:00、17:00~がつかまりやすいです。	HP: http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kamijio/ 発掘の様子が分かります。HPアドレス: kamijio(あつと)hirosaki-u.ac.jp (あつと)を@に変換してください。	発掘調査に関しては本実習中に別途連絡しますが、費用負担は発生しません。	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
40	40	人文社会科学専攻総合文化社会研究コース	文化財調査・研究論 (Cultural Property Research Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 1・2時限	関根 達人	地域志向科目	レベル5	多角的な視点から歴史事象を考察する力を養うこと	書籍の講読を通して、考古学とその関連分野の連携について学びます。	第1～8回 関根達人2016『モノから見たアイヌ文化史』吉川弘文館 第9～15回 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー464	教科書を予習し、要点を事前にまとめ、毎回の授業で提出を求めます。	考古学関連	歴史学関連	-	関根達人2016『モノから見たアイヌ文化史』吉川弘文館 関根達人2018『墓石が語る江戸時代』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー464	関根達人2014『近世の蝦夷地と北方交易』吉川弘文館 朽木量2004『墓標の民族学・考古学』慶應義塾大学出版会	課題(要約)と意見・質問・感想など授業に対する姿勢で評価します。	講義	テキストを読みながらの授業です。	毎回必ず意見・質問・感想などを求めます。	水曜日 1・2時限目	sekine@hirosaki-u.ac.jp	なし
41	41	人文社会科学専攻総合文化社会研究コース	文化財科学 (Scientific Study on Cultural Properties)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	片岡 太郎	地域志向科目	レベル5	国内外の文化財の歴史文化的評価と利活用に関し、自然科学的手法を使った分析理論と方法を習得すること。また、文化財を後世に伝えるための保存理論と方法を習得すること	考古学をはじめとする文化財研究の最前線で常用される文化財科学研究(年代測定、産地同定、材質・技法、古環境、保存科学、探査、情報システム、防災など)について解説する。各専門領域の重要論文を読み解き、受講者と教員のディスカッションを通じて文化財の自然科学調査から得られた分析結果を考察する。また、文化財の本質を深く理解し、次代へと継承する能力を養う。	授業計画 受講者は、講義とともに、文化財科学の研究分野(年代測定、産地同定、材質・技法、古環境、保存科学、探査、情報システム、文化財防災など)からテーマを1つ選択し、関連する論文についての発表をしていただきます。 第1回: ガイダンス — 文化財科学の研究分野について — 第2回: 年代測定(1)放射性年代測定法 第3回: 年代測定(2)年輪年代学 第4回: 産地同定(1)安定同位体分析法 第5回: 産地同定(2)蛍光X線分析法を使った産地同定 第6回: 材質同定(1)蛍光X線分析法を使った材質同定 第7回: 材質同定(2)樹種鑑定 第8回: 技法研究(1)X線写真の応用 第9回: 技法研究(2)X線CT観察の応用 第10回: 技法研究(3)X線写真とX線CT像を使ったコンピュータ画像解析 第11回: 保存科学(1)保存倫理 第12回: 保存科学(2)考古資料の保存 第13回: 保存科学(3)遺構の保存 第14回: 防災と文化財レスキュー(1)緊急的な文化財の保全 第15回: 防災と文化財レスキュー(2)中長期的な文化財の保全	必要に応じて資料を配布しますので、必ず目を通して下さい。	学際・新領域 博物館学関連	考古学関連	授業中に適宜資料を配布する。	文化財保存科学ノート(沢田正昭、近未来社)ほか、授業中に適宜紹介する。	授業に対する姿勢(50%)、期末レポート(50%)	演習を主体とする講義	受講者は、講義とともに、文化財科学の研究分野(年代測定、産地同定、材質・技法、古環境、保存科学、探査、情報システム、文化財防災など)からテーマを1つ選択し、関連する論文についての発表をしていただきます。	受講にあたっては特段の予備知識は必要としません。	水曜日(14:30～16:00)	taro@hirosaki-u.ac.jp	なし	
42	42	人文社会科学専攻総合文化社会研究コース	文化資源論 (Cultural Resources)	1, 2	選択科目	2	前期集中	集中講義	植月 学 (非常勤講師)	-	レベル5	法制度で保護された文化財・文化遺産に重きを置いてきた従来の文化財行政について学ぶこと 有形・無形を含む多様な文化資料を資源として見直し、学術研究や人類文化の発展のために活用する文化資源論について学ぶこと 文化資源を保存しつつ、地域の課題解決のために活用する意義と方法について実践例により理解し、今後の展望を考えること	授業内容に記載の各テーマに沿った実践例や論文をもとに受講者が発表をおこない、講師が解説を加える。発表後には討論を通して、課題や解決方法を考えていく。	第1～2回 イントロダクション 文化財保護の歴史 文化財と文化資源 弘前の文化資源 第3～9回 文化資源の諸相 遺跡・考古資料、食文化、産業、祭礼、町並、文化的景観、生物 第10～14回 文化資源活用の未来 博物館、教育、観光、地域振興、保存と変容 第15回 まとめ 以上のテーマは参考例であり、受講生の関心に応じて変更することもあり得る。	毎回の発表課題論文を事前に読み込んで、自分なりの意見、疑問点などをまとめておくこと	博物館学関連	-	授業時に指示する。	明治大学博物館・南山大学人類学博物館編 2013『博物館資料の再生』岩田書院 山下晋司編 2014『資源化する文化』(資源人類学第2巻)弘文堂 他、随時紹介する。	発表および討論への参加姿勢、レポートにより総合的に評価する。	講義	主に演習形式。分担当を決めて準備し、担当者が発表をする。質疑・討論も行う。	実際にフィールドに出て、様々な文化資源の保存と活用の現場に触れることで、討論に積極的に参加できるように、日頃から留意してほしい。	なし	なし	なし	なし
43	43	人文社会科学専攻総合文化社会研究コース	芸術史論 (History of Art)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 7・8時限	足達 薫	-	レベル5	美術作品に関する分析方法を体系的に身につけること 美術作品に関するアカデミックな文章力を身につけること	○美術史学の方法による作品分析の基本的方法を講義します。 ○講義を踏まえて、受講者それぞれの関心に基づいた資料調査及び中間発表を行い、1本の論文を執筆します。	[予習]毎回取り上げるテキストの読解、プレゼンテーション準備 [復習]講義での解説を踏まえた小エッセイ	芸術学関連	思想学関連	歴史学関連	授業で指示します。	授業で指示します。	平常点(プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度)を総合的に判断します。30% 最終課題(取り組みの最終成果として、論文を提出してもらいます。70%) 上記を総合して判断します。	演習	講義では教員による具体的な解説を行い、プレゼンテーションでは受講者による発表と質疑応答を行います。ディスカッションでは教員による問題提起を踏まえた検討が行われます。	美術史に関する基本的知識が必要です。	水曜日 13:00～14:00、人文社会科学部3階、芸術史研究室。	kaorucci ※) hirosaki-u.ac.jp ※はアットマークです。	なし。	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
44	44	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	西洋古典学(Western Classical Studies)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 3・4時限	今井 正浩	-	レベル5	西洋古典古代の倫理思想に関する英文の論考の講義を通して、専門の学術論文を原典で読解する力を養い、それによってヨーロッパの歴史文化の源流の一つとしての西洋古典古代の歴史文化全般についての基本的な理解に向けて、資料読解等の実践的なスキルを身につけること	西洋古典古代の倫理思想に関する比較的読みやすい英文論考の購読をおして、叙事詩人ホメロスからキリスト教の大思想家アウグスティヌスにいたるまでの西洋古典古代の倫理思想の展開を丹念に辿ります。	西洋古典古代の倫理思想に関する比較的読みやすい英文の論考を取り上げ、叙事詩人ホメロスからキリスト教の大思想家アウグスティヌスにいたるまでの西洋古典古代の倫理思想の展開を丹念に辿ります。 第1回 西洋古典古代の倫理思想の展望 第2回 キリシヤの詩人たち—ホメロスから悲劇詩人まで—(論考読解・発表・討論) 第3回 初期キリシヤの思想家たち(1)ピュタゴラス派(論考読解・発表・討論) 第4回 初期キリシヤの思想家たち(2)ヘラクレイトス、エンペドクレス、アナクサゴラス(論考読解・発表・討論) 第5回 ソフィスト思潮(論考読解・発表・討論) 第6回 ソクラテス(1)(論考読解・発表・討論) 第7回 ソクラテス(2)(論考読解・発表・討論) 第8回 プラトン(1)(論考読解・発表・討論) 第9回 プラトン(2)(論考読解・発表・討論) 第10回 アリストテレス(1)(論考読解・発表・討論) 第11回 アリストテレス(2)(論考読解・発表・討論) 第12回 ヘレニズム期の思想家たち—エピクロス派とストア派—(論考読解・発表・討論) 第13回 プロティノスと新プラトン主義(論考読解・発表・討論) 第14回 アウグスティヌスとキリスト教(論考読解・発表・討論) 第15回 総括 なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってしまう場合は、その都度説明をします。	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます(なお、予習・復習は、最低でも各2時間とることが必要です)。	歴史学関連	思想関連	-	Gill, C. J., Classical Ethical Thought, in Zeyl, D. J.(ed.), Encyclopedia of Classical Philosophy (London, Chicago, 1997), pp.221-229.	授業で教材として使用する予定の Christopher, J. Gill 英文の論考の論末に専門的な参考文献が多数紹介されています。	平常評価(授業への参加度)(50パーセント)＋学期末に提出するレポートの評点(50パーセント)を合算して評価します。	演習	専門の英文の論考を中心に、講義の要素を一部に取り入れた演習形式の授業です。	受講にあたって、古典ギリシア語・ラテン語等の知識は問いませんが、語学力が理解を深めるのに役立つとは言ってもありません。日本語で書かれた代表的な古典ギリシア語・ラテン語の基礎文法書を紹介しますので、ぜひ挑戦してみてください。 (1)水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店刊, 1990年) (2)田中利光著『ラテン語初歩』改訂版』(岩波書店刊, 2002年)	毎週月曜日の午後4時～6時をオフィスアワーの時間帯に設定しています。	Eメール アドレス masahiro@hirosaki-u.ac.jp	なし
45	45	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	日本倫理思想史論(History of Japanese Ethical Thought)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 7・8時限	原 克昭	-	レベル5	日本倫理思想史を時代縦断することで歴史的展開の理解を深化させること 日本倫理思想史をジャンル横断することで学術的展開の視座を修得すること	日本倫理思想史をめぐる前近代(古代～近世)と近現代の時代的位置差を見極めることによって、日本の文学・歴史・宗教・文化に対する理解の深化と拡大をめざす。具体的には、時間倫理・生命倫理・宗教倫理・生活倫理にわたる大枠テーマを設定し、それぞれ日本特有の歴史認識・芸術文化・信仰史・思想文芸に関する文献をとりあげ、原典精読および先行研究の再検討を展開する。その過程において、時代縦断的に日本倫理思想史学研究に必要な学術的視座と方法論の修得をめざすと同時に、学域横断的に日本思想史文献の読解力・思索力の涵養をはかってゆく。	第1回 開講ガイダンス—日本倫理思想史の射程 第2回 基礎知識と情報共有Ⅰ—日本倫理思想史の基本的概念 第3回～5回 基礎知識と情報共有Ⅱ—基本文献講読 ・和辻哲郎『日本倫理思想史』(抜粋) ・丸山眞男『忠誠と叛逆』(抜粋) ・末木文美士『日本思想史の射程』(抜粋) 第6回～9回 講読演習Ⅰ ・時間倫理に関する思想文献資料 ・生命倫理に関する思想文献資料 第10回～14回 講読演習Ⅱ ・宗教倫理に関する思想文献資料 ・生活倫理に関する思想文献資料 第15回 日本倫理思想史の総括 ※その他、ジャンル・時代を問わず、履修者の関心テーマに合わせて対応してゆきます。	配布された基本文献論文および講読文献資料に事前に目を通しておいてください。また、学期末に講読内容をふまえたレポートを仕上げてもらいます。	思想関連	歴史学関連	文学関連	レクチャー資料・基本文献論文・講読文献資料ともに、プリントを配布します。	・和辻哲郎『日本倫理思想史』一～四(岩波文庫, 2011-2012年) ・丸山眞男『忠誠と叛逆—転換期日本の精神的位相』(ちくま学芸文庫, 1998年) ・末木文美士『日本思想史の射程』(敬文舎, 2017年)	平常評価(授業・講読への参加度50%)および期末評価(レポート50%)による総合評価とします。	講義	講義(基礎知識と情報共有)＋基本文献講読＋思想文献輪読を進めます。	日本の思想・文学・歴史・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持ちあわせていれば、予備知識の有無は問いません。ひろく「日本学」研究の基盤として活用してください。	木曜日15:00～17:00/その他、在室時に随時対応します。研究室: 人文社会科学棟402 (日本倫理思想史研究室)	harakiあつと hirosaki-u.ac.jp	なし
46	46	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	西洋倫理思想史論(Western History of Ethics)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	横地 徳廣	-	レベル5	受講生は以下のヘーゲル解釈テキストを読む。 R. B. Brandom, Tales of the Mighty Dead: Historical Essays in the Metaphysics of Intentionality, Harvard University Press, 2002 この読解を通じ、諸事象を哲学的に考察する仕方を修得すること	受講生のみなさんはロバート・ブランドム『大いなる死者の物語』の英語テキストを読みます。今回は彼のプラグマティックなヘーゲル解釈を学びます。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1 ガイダンス(読解箇所と担当の決定) 2 テキスト読解と解説 (1)世界 3 テキスト読解と解説 (2)世界 4 テキスト読解と解説 (3)世界 5 テキスト読解と解説 (4)世界 6 テキスト読解と解説 (5)ホーリズム 7 テキスト読解と解説 (6)ホーリズム 8 テキスト読解と解説 (7)ホーリズム 9 テキスト読解と解説 (8)ホーリズム 10 テキスト読解と解説 (9)ホーリズム 11 テキスト読解と解説 (10)客観性 12 テキスト読解と解説 (11)客観性 13 テキスト読解と解説 (12)客観性 14 テキスト読解と解説 (13)客観性 15 テキスト読解と解説 (14)まとめ	配布テキストを授業前後に読むことが準備学習になります。	思想関連	歴史学関連	-	原書の一部がコピーで配布されます。	適宜、紹介されます。	平常評価(訳読参加): 100% 上記をもとに最終的な成績評価が行われる予定です。	演習	訳読しながら、段落ごとに要旨をまとめます。	特になし	オフィスアワーは在室時です。西洋倫理思想史研究室(人社414)まで。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人社414研究室に掲示されます。	なし
47	47	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	日本近代文学(Modern Japanese Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 5・6時限	尾崎 名津子	-	レベル5	日本近代文学研究に必要な調査の方法を理解すること 近代現代の文学作品の読解法を理解すること 日本近代文学に関わる知識を習得すること 文学と思想の接続のありようについて、見識を深めること	『女性の語り』を実現していると思われる文学作品や、女性の書き手による文章の分析を通して、内容の理解を深める。 同時に、それらの分析の積み重ねを通して、近代日本と現代におけるジェンダーバイアスの質的変遷を学ぶ。	第1回 「女性の語り」とは何か 第2回 「女性作家の文体」はあるのか 第3回 樋口一葉の文体 第4回 田村俊子『生血』の文体 第5回 『青鞥』の文体 第6回 岡本かの子の文体 第7回 林美美子の文体 第8回 女性文芸雑誌の文体(1)—『女子文壇』の場合 第9回 女性文芸雑誌の文体(2)—『若草』の場合 第10回 少女雑誌の文体 第11回 文体という異性装 第12回 太宰治『葉桜と魔笛』 第13回 太宰治『女生徒』 第14回 太宰治『十二月八日』 第15回 まとめ	[予習]各回で扱う作品を事前に読了しておくことが必要。 [復習]各回の内容を徐々に積み重ねながら展開するため、毎回の内容を各自で振り返り、不明点は早期に解消することが必要。	文学関連	思想関連	社会学関連	樋口一葉『にこりえ・たけくらべ』(岩波書店, 1999年)など。より具体的に授業で紹介する。	飯田祐子『彼女たちの文学』(名古屋大学出版会, 2016年)など。その他の必要な文献については授業で紹介する。	平常点(授業への参加度)50% 発表内容50% 上記を合算し総合的に判断する。	演習	最初の3回ほどは講義形式に近いが、基本的には履修者各自の発表と質疑応答によって進める。	高校卒業程度の文学史の知識があることが望ましい。また、授業中の積極的な発言を求める。	月～金の昼休み。但し不在にすることもありますが、事前にメールで連絡をもらえると確実です。	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
48	48	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	日本古典文学 (Classical Japanese Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	渡辺 麻里子	-	レベル5	変体仮名(仮名のくずし字)を読めるようになること 『天狗の内裏』という作品を通じて、天狗、夢告、兵法伝授、地獄極楽訪問譚、未来記などといったモチーフを学び、日本古典文学の基礎知識を習得すること 津軽と義経伝承、津軽の藩医・渋江抽斎など、津軽の文化を学ぶこと 古典文学の調べ方を学び、自分なりに問題意識を持って掘り下げ、発表が出来るようになること 質疑を通じて、議論の深め方を学ぶこと	・弘前市立図書館岩見文庫蔵『天狗の内裏』を中心に、室町時代の物語を考察する。 ・『天狗の内裏』は、多くの伝承が盛り込まれた源義経の一代記である。 ・発表は、『天狗の内裏』のくずし字を学習・翻訳するところからはじめ、語釈、解説を行う。 ・発表後、参加者で討論し、読解を深める。 ・古典の諸文献の扱い方、読解の仕方を学ぶ。 ・また、発表や討論を通じて、室町時代の物語を読み味わい、古典世界の人々の生き方を学ぶ。	第1回 ガイダンス 第2回 『天狗の内裏』解説1—義経について— 第3回 『天狗の内裏』解説2—内容構成について— 第4回 『天狗の内裏』解説3—伝本について— 第5回 『天狗の内裏』解説4—渋江抽斎について— 第6回 くずし字について 第7回 演習1—上巻・冒頭— ・担当者が発表を行う。 ・受講者の間で質疑、ディスカッションを行う。解説を行う。 第8回 演習2—上巻・義経の発願— 第9回 演習3—上巻・毘沙門天の導き— 第10回 演習4—上巻・天狗の内裏到着— 第11回 演習5—上巻・天狗との確執— 第12回 演習6—上巻・大天狗の救済— 第13回 演習7—上巻・天狗の神通力— 第14回 演習8—上巻・天狗と兵法— 第15回 『天狗の内裏』まとめ 第16回 試験・レポート	次回の範囲についてプリントにもとづき予習すること。復習は、配布された資料を読み直し、理解を深めること。また演習担当の際は、発表資料を作成し、準備すること。	文学関連	思想関連	芸術関連	・『増補改訂 変体仮名集』(伊地知鉄男編、新典社)その他、適宜、授業時にプリントを配布する。	授業時に適宜案内する。	・発表とレポート、試験を総合的に評価する。 ・試験では変体仮名を読み、授業で取り組んだ内容への理解を問う。	演習	・発表は担当を決めて発表する。	特にありません。くずし字は、これまで学んだことがなく、全く知らなくても大丈夫です。内容及び開講時間は、受講者の希望等により、変更することもあります。	木曜日5/6限。在室時は随時。事前にメールをいただけることを確認してください。	mwata@hirosaki-u.ac.jp @を@に変えて下さい。	特になし。
49	49	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	中国言語文化論 (Chinese Language and Culture)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	植木 久行 (非常勤講師)	-	レベル5	中国古典語の読解力を高め、古い訓読方式も理解して、高度の専門知識を習得すること 唐代の盛時の文化を広く理解し、古典を読み解く総合力を習得して、文化の振興に寄与する実践力を身につけること	唐代の盛時—玄宗李隆基の開元・天宝年間(713~756)の逸話を収めた唐末・五代の王仁裕『開元天宝遺事』3巻を、訓点付きの和刻本(江戸の寛永16年[1639]刊本の影印)に拠りつつ、曾胎芬点校『開元天宝遺事』の文字と対校しながら考究し、深く掘り下げて全文3巻を理解する。『開元天宝遺事』は、社会風俗や年中行事の記述に富み、「牽紅糸娶婦」「花上金鈴」「解語花」などの興味深い話を多数収める。	第1回 オリエンテーション(演習の目的と概要の説明) 第2回 『開元天宝遺事』のテキストと序文の読解 第3回~第5回 開元遺事「玉有太平字」「掃雪迎賓」「鸚鵡告事」「敲氷煮茗」などの読解 第6回~第8回 天宝遺事上(「花上金鈴」「照病鏡」「金衣公子」「看花馬」「知更雀」「射団」)などの読解 第9回~第15回 天宝遺事下(「探官」「撤去燈燭」「鼎妖破肝」「泥金帖子」「水筋」「鷄声斷愛」「銷魂橋」「歌馬杯」「伝書燕」「解語花」「乞巧樓」「紅汗」「擊鑑教月」「百枝燈樹」「有脚陽春」)などの読解(全文読解の終了)	配付教材の該当箇所を予習することが必要です。	文学関連	言語関連	-	和刻本漢籍隨筆集(汲古書院刊)に収める『開元天宝遺事』をコピーして使用し、対校用に曾胎芬点校本のコピーも配付します。	曾胎芬点校『開元天宝遺事』(『安祿山事跡』と合刊、中華書局、唐宋史料叢書、2006年所収)。弘前大学附属図書館蔵。	授業への参加度(評価全体の30%)、訓読・解釈担当(評価全体の30%)、および局、唐宋史料叢書、2006年所収)提出の期末レポート(評価全体の40%)を総合して、成績評価を行う予定です。	演習	受講生に少しづつ訓読・解釈してもらい、問題点を検討します。	特になし。	なし。	なし。	なし。
50	50	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	中国社会学論 (Chinese Society)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	城本 るみ	-	レベル5	中国/台湾で生起している少子高齢化の現状や背景、その課題が理解できること 個々に独立した問題としてではなく、アジアという枠組みのなかで比較可能な視座をもてるようになること 現在の問題を過去からのつながりで見つめる視点を獲得できること 修得した知識に基づいて、地域や国際社会の振興に役立つ能力を養うこと	○中国/台湾の少子高齢化に関する文献資料を読み、現状やその背景、課題について読み解く。 ○中国/台湾の現状およびアジアの全体像を理解し、それがもたらす影響を検討し、共生社会におけるこれからの日本のあり方を考察する。	第1回: 導入 第2回: アジアにおける少子高齢化の現状 第3回: 中国における人口抑制政策の背景と実施 第4回: 中国における人口抑制政策の影響 第5回: 中国における高齢化の課題 第6回: 中国における福祉改革の方向性 第7回: 中国における介護労働の特徴 第8回: 台湾における少子化の特徴 第9回: 台湾における高齢化の課題 第10回: 台湾における福祉改革の方向性 第11回: 台湾における介護労働問題 第12回: 台湾における介護労働の担い手 第13回: 中国/台湾の少子高齢化問題の比較 第14回: アジアの少子高齢化が日本に与える影響 第15回: 総括	(予習)発表担当者は自分の担当する範囲について、他の文献や論文等も参照しながらよく調べてレジュメを作成する。当日発表担当でない者は、テキスト資料を読み込んで事前に質問事項を整理しておく。(復習)当日の討論内容について、疑問を残さないようにもう一度よく調べて考える。	社会学関連	-	-	教員が資料を事前配布する。	『福祉のアジア—国際比較から政策構想へ』(上村康裕著 名古屋大学出版会 2017) 『アジアにおける高齢者の生活保障』(金成垣・大泉啓一郎・松江咲子編 明石書店 2017) 『東アジアにおける後発近代化と社会政策』(李蓮花著 ミネルヴァ書房 2011) 『東アジアの社会保障』(埋橋孝文・木村清美・戸谷裕之編 ナカニシヤ出版 2009) 『現代中国の移住家労働者』(大橋史恵著 御茶の水書房 2011) 『介護現場の外国人労働者』(塚田典子編著 明石書店 2010) その他、授業中に適宜紹介する。	授業における報告や質疑応答(50%)、授業終了後のレポート(50%)	演習	事前に配布された資料を読み込んでレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。またその発表に対する質疑応答を行い、討論形式で授業を進めていく。	特になし。	火曜・水曜 12:00-12:40	rum(at)hirosaki-u.ac.jp *(at)を@に置き換えてください。	特になし。
51	51	人文社会科学部文化科学研究科総合文化社会研究コース	英文学B (English Literature B)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 9・10時限	小野寺 進	-	レベル5	文学作品を原書で読解すること 英語運用能力を向上させること	19世紀から現代にかけてのイギリス小説を読解し、イギリスの文化や時代的特徴の理解を深める。今年にはヴィクトリア朝時代の作家チャールズ・ディケンズの Hard Timesを読解する。	授業計画に基づく予習。	文学関連	思想関連	-	Charles Dickens, Hard Times (Norton Critical Edition)	適宜紹介いたします。	授業でのパフォーマンス(20%)およびレポート(80%)。	演習	輪読式による演習	十分な予習が必要です。	水曜日 3・4時限	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp *(at)は@に置き換えてください。	なし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
52	52	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	英文学C (English Literature C)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	澤田 真一	-	レベル5	英文学作品を原書で読むことを通じて、英語運用能力を向上させるとともに、異文化理解についての洞察を深めることのできる能力を養うこと	プッカー賞を受賞したロイド・ジョーンズの小説『ミスター・ピップ』の読解を通して、植民地主義のもたらした功罪について考察します。	第1回: イントロダクション 第2回: pp.1~25を読解する。 第3回: pp.26~50を読解する。 第4回: pp.51~75を読解する。 第5回: pp.76~100を読解する。 第6回: pp.101~125を読解する。 第7回: pp.126~150を読解する。 第8回: pp.151~175を読解する。 第9回: pp.176~200を読解する。 第10回: pp.201~225を読解する。 第11回: pp.226~256を読解する。 第12回: 作品の解釈 第13回: 原作の映画の鑑賞 第14回: 映画の解釈 第15回: まとめ 定期試験	授業計画に基づく予習を行う必要があります。	文学 関連	思想 関連	-	Lloyd Jones, Mister Pip, Dial Press (ISBN 978-0-385-34107-3)	授業時に適宜紹介します。	平常評価(授業への参加度): 20% 中間評価(レポート): 30% 期末評価(期末試験): 50% 上記を合算して、最終的な評価を行います。	講義	講義形式ですが、内容の理解度を確認しながら授業を進めていきます。	十分な予習が必要です。	金曜日7・8時限目	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	なし
53	53	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	英文学D (English Literature D)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	畑中 杏美	-	レベル5	イギリス小説を読むことを通じて、英語の運用能力を高めるだけでなく、社会制度についての専門的な知識を習得すること 階層社会といわれるイギリスにおける社会と個人とのつながりを、作品を通して理解し、様々なバックグラウンドを持った人々が共生するイギリス社会についての知識を深めること	・帝国の解体や、大戦がもたらしたイギリス社会の変容が、小説舞台においてどのように表現されるのか読み解く ・扱った作品が書かれた時代について、歴史的な流れを把握し、その時代の価値観や機運が文学にもたらした影響について考え、議論する	毎週、予習箇所を指示しますので、必ず予習をしてください。また、授業後に、興味を持った点について調べて復習をしてください。	文学 関連	言語 学関連	-	初回授業時に指示します。	Virginia Woolf, Selected Essays, Ed. David Bradshaw, OUP, 2009. そのほか、配布する資料などを含め、授業時に適宜示す。	平常点(20%)、授業での口頭発表(40%)、レポート(40%)によって評価する。	演習	予習箇所についてまとめたレジュメを作成してもらい、それをもとにディスカッションをします。	受講にあたって特別な予備知識は必要としません。	初回授業時に指示します。	初回授業時に指示します。	なし	
54	54	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	米文学 (American Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 9・10時限	堀 智弘	-	レベル5	アメリカ文学の短編小説を読むことを通じて、米文学の代表的な作家に親しみつつ作家に関する基本的知識を身につけるとともに、英語で書かれた小説の読解力を向上させること	19世紀から世紀転換期あたりまでの代表的なアメリカの小説家の短編小説を一回につき一人の割合で読み、各作家の作風に親しむとともに、作者を取り巻く歴史的社会的背景を考えます。	毎回指定された作品を読んで授業に臨むことが求められます。	文学 関連	思想 関連	芸術 関連	Paul Negri, ed., Great American Short Stories (Dover) その他、必要に応じてプリントを配布します。	授業のなかで紹介いたします。	各回の担当、授業参加、期末レポートを総合的に判断して評価します。	演習	学生の担当とした演習形式です。	受講にあたっては特段の予備知識は必ずしも必要ではありませんが、毎回英語で文学作品を読むことが求められるため、相応の英語力が必要となります。	火曜日12:00~13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。	なし	
55	55	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究科総合文化社会研究コース	現代アメリカ論 (Contemporary Social Problems in the U.S.)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 1・2時限	南 修平	-	レベル5	第2次世界大戦から21世紀に至るアメリカ合衆国の歴史や社会の特性を理解すること 専門書の精読などにより英語の運用・読解能力を向上させること	20世紀後半から現在までのアメリカ合衆国の現代史をグローバルな観点から学んでいく。	予習: 毎回のアサインメントを読むことはもちろん、注釈で出てくる重要な関連文献にもできるだけ目を通すこと 復習: 難しかった部分を読み直すとともに、それらに関連する文献にも目を通して理解の範囲を深め、広げる努力をすること	歴史 学関連	政治 学関連	社会 学関連	Joshua B. Freeman, American Empire: The Rise of a Global Power, the Democratic Revolution at Home (New York: Viking, 2012).	Glenda Elizabeth Gilmore and Thomas J. Sugrue, These United States: A Nation in the Making, 1890 to the Present, New ed. (New York: W.W. Norton & Company, 2016).	課題への取り組みと講義内でのパフォーマンス(50%) 最終レポート(50%)	講義	毎回担当者がテキストの要旨を報告することに加え、担当外の受講生は範囲内で重要と思われる事項を調べ、その報告を補う役割を担う。必要に応じて、より専門的に強調すべき部分について担当教員が講義形式で補足する。また、関連文献や資料を積極的に紹介・提供し、それらを使った学習の場も適宜設ける。	アメリカ史に関する知識の有無は問わないが、初学者の場合は講義外でより基本的な文献を読むことで不足する部分を補う必要があると思われる。また、アメリカ史研究の専門書の読解に必要な十分な英語力が求められる。	火曜日9・10時限。ただし不在の場合もあるため、出来るだけ事前にアポイントメントをとることが望ましい。	初回講義にて伝える。	特になし。	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文化)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形態	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
56	56	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究コース	フランス言語文化論 (French Language and Culture)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 3・4時限	熊野 真規子	-	レベル5	文化研究の一アプローチをより深く理解すること フランス語文の読解力を向上させること	ソシュールの思想を中心に、現代言語論の原文の抜粋を講読形式で読み進め、翻訳では失われてしまうニュアンスを確認しながら、文化研究の一アプローチをより深く理解します。	・導入: 言語研究史概観(1回) ・ランゲージ/ラング/パロール(2回程度) ・共時態/通時態(2回程度) ・連辞/範列(1~2回程度) ・シニフィアン/シニフィエ(2回程度) ・第一次分節/第二次分節(1~2回程度) ・恣意性(1~2回程度) ・形相と実質(2回程度) ・意味と価値(2回程度) 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	言語学関連	思想関連	-	プリントを配布します。	開講時に紹介します。	講読形式をとるため、授業参加度、予習の準備度などを総合的に判断して評価します。	演習	導入+講読形式14回	フランス語既習者であること。予習済みであっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。	火曜日 17:30-18:30	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし	
57	57	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究コース	フランス文学 (French Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 7・8時限	泉谷 安規	-	レベル5	フランス語の正確な読解ができること 20世紀フランス文学・思想の重要な一つのキーワードである「言語」を通して、その意義と問題性を理解できること	フランスの文芸批評家ジャン・ポーランの著作『タルブの花』を読解・批評して『文学はいかにして可能か』という著作を書いたモーリス・ブランショ。この二つの著作を読んでいくことによって、20世紀における「言語」の新たな認識とその影響を中心に、文学と思想を読みなおしていきます。	1. イントロダクション 2. 20世紀のフランスの文学、思想、言語をとりまく状況について 3. ジャン・ポーラン、モーリス・ブランショについて 4. ジャン・ポーラン『タルブの花』を読む(1) 5. ジャン・ポーラン『タルブの花』を読む(2) 6. ジャン・ポーラン『タルブの花』を読む(3) 7. ジャン・ポーラン『タルブの花』を読む(4) 8. 『タルブの花』についての暫定的まとめ 9. モーリス・ブランショ『文学はいかにして可能か』を読む(1) 10. モーリス・ブランショ『文学はいかにして可能か』を読む(2) 11. モーリス・ブランショ『文学はいかにして可能か』を読む(3) 12. モーリス・ブランショ『文学はいかにして可能か』を読む(4) 13. 『文学はいかにして可能か』についての暫定的まとめ 14. この二つの著作の影響と重要性について 15. その後の、ジャン・ポーラン、モーリス・ブランショの活動(結論に代えて)	予習は、下記の教科書を読んでおくことです。復習は、授業内でやったことをよく覚えておくことです。必要に応じて、事前の下調べをしておくかもしれません。	文学関連	思想関連	-	モーリス・ブランショ / ジャン・ポーラン『言語と文学』(書肆心水)とフランス語の原文が教科書ですが、おそらくどちらとも入手困難でしょうから、こちらでコピーを配布します。	開講時に指示します。	平常点(授業への参加度)50パーセント、期末時のレポート50パーセントで評価します。	演習	上記の教科書(フランス語と翻訳)を読んでいきます。	フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでいない人、あまり自信のない人はあらかじめ申し出てください。	木曜日 7・8時限	なし。	
58	58	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究コース	一般言語学 (General Linguistics)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 5・6時限	山本 秀樹	-	レベル5	特定の個別言語ではなく、古今東西を問わず世界の人類言語全般に共通する視点から、種々の言語現象について、論理的な考察、分析を行うための一般言語学的な専門知識、技能を身につけること	人類言語一般を研究するための基礎となる考え方や手法について考察していきます。	第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 一般言語学研究的の概要 第3回 通言語的な概念 第4回 通言語的な概念の定義 第5回 人類言語に共通する特性の研究 第6回 人類言語に共通する特性の種類 第7回 人類言語に共通する特性に対する説明原理 第8回 他の視点による研究 第9回 人類言語一般を扱うための階層 第10回 人類言語の様々なタイプ 第11回 人類言語の音韻的タイプ 第12回 人類言語の形態的タイプ(古典的研究) 第13回 人類言語の形態的タイプ(現代の研究) 第14回 人類言語の統語的タイプ 第15回 まとめ	毎回の授業内容を復習した上で、次回扱うプリントの内容をよく読んでおくてください。	言語学関連	-	-	授業で配布したプリントを使用します。	バーナード・コムリー著(松本克己・山本秀樹訳)『言語普遍性と言語類型論』1992年(ひつじ書房) 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』2003年(溪水社)(いずれも附属図書館蔵)	毎回の授業における参加度や出来具合およびレポートを総合的に評価を行います。	講義	研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していきます。	原則として種々の言語や言語学の知識を持っていることが望まれますが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがあります。	金曜日 12時から13時	hideyama(at)hirosaki-u.ac.jp	特になし
59	59	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究コース	言語文書処理論 (Language Document Processing Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 7・8時限	内海 淳	-	レベル5	文字に関わる幅広い知識を身につけると同時に、IT時代における文字の利用の問題点を理解すること	言語の重要な表現手段である文字を、音韻面およびコンピュータとの関わり方の二つの観点から考察します。	1: 言語音声のシステムの基礎 2: 音韻論の基礎 3: アルファベット(ローマ字・キリール文字など) 4: インド系文字 5: 漢字 6: かな 7: ハングル 8: 国際音声声母 9: 文字集合規格とエンコーディング 10: ASCII 11: ISO8859 12: 日本語の文字コード 13: 諸外国の文字コード 14~15: UNICODE	【予習】事前に指定する資料等を読んでおく 【復習】各自の研究関心に応じたデータに、講義で学んだことを当てはめてみる	言語学関連	情報科学関連	情報工学関連	必要に応じてプリント等を配布します。	・Florian Coulmas Writing Systems, Cambridge University Press ・ユニコードの Web Site (http://www.unicode.org/)	通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。	講義	講義形式に、演習形式を取り入れて行います。	受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。	水曜日 12:00から12:40	utsumi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
60	60	人文社会科学部文化科学研究科文化科学研究コース	統語論 (Syntax)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	木村 宣美	-	レベル5	構造と範疇を意識した文献の精読を通じて、コミュニケーションツールとしての外国語(英語)の運用能力の一部である読解力の向上を図ること 統語論(生成文法理論)の基礎を身につけること 英語焦点倒置 (English Focus Inversion) の特性を理解すること	Culicover, Peter W. & Susanne Winkler. 2008. English Focus Inversion. Journal of Linguistics 44, 625-658 を精読する。	第1回 Introduction(導入) 第2回 Comparative Inversion: CI is not SAI: VP ellipsis(動詞句削除) 第3回 Comparative Inversion: CI is not SAI: Predicate ellipsis(述語句削除) 第4回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Parasitic gaps(寄生空所) 第5回 Comparative Inversion: The subject is 'low': Multiple wh-questions(多重WH疑問文) 第6回 Comparative Inversion: Licensing subject in situ(主語の認可) 第7回 Comparative Inversion: British CI(イギリス英語における比較倒置) 第8回 The Information Structure of English Focus Inversion: The phonology of low subject in CI(低い主語の音韻) 第9回 The Information Structure of English Focus Inversion: Semantics of contrastive focus and CI(対照共生の意味論) 第10回 The Information Structure of English Focus Inversion: Contrastive focus requirement on subject in CI(対照強勢の要件) 第11回 The Information Structure of English Focus Inversion: Ellipsis in CI(削除) 第12回 More Focus Inversion Constructions: So-goes(So goes構文) 第13回 More Focus Inversion Constructions: Inversion after so and as(soとasの後の倒置) 第14回 More Focus Inversion Constructions: Locative Inversion and Apparent SAI(場所句倒置文) 第15回 Summary and Conclusions(まとめ)	【予習】授業の内容予定に従い、文献(Culicover, Peter W. & Susanne Winkler. 2008. English Focus Inversion. Journal of Linguistics 44, 625-658)の精読が予習として求められる。 【復習】文献の内容を深く理解し、レポートを作成するために、復習が求められる。	言語学関連	-	-	精読する文献は、授業用資料として配布する。	外池滋生 2019. 『ミニマリスト日英語比較統語論』開拓社 Chomsky, N. 1995. The Minimalist Program. The MIT Press. 畠山雄二・本田謙介・田中江扶 2015. 『日英比較構文研究』開拓社 Rochemont, M. S. 1978. A Theory of Stylistic Rules in English. Doctoral Dissertation, University of Massachusetts. Rochemont, M. S. 1986. Focus in Generative Grammar. John Benjamins Publishing Company. ※ 必要に応じて適宜紹介する。	【授業としての具体的到達目標】がどの程度達成できているかという観点で、平常評価(質疑応答(発表)(20%)・発表(30%))・レポート(50%)の結果を総合して、評価する。	演習	演習形式(文献講読及び解説)	統語論(英語学:生成文法理論: Minimalist Program)の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の専門教育科目『英語学B』及び英語学演習B及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。	火曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
61	61	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	意味論 (Semantics)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	木村 宣美	-	レベル5	モダリティ(modality)と命題(proposition)を峻別する認知意味論の基礎を身につけること	意味論的概念「既定性」に基づく言語分析を通じて、認知意味論への理解を深める。	第1回 導入:文の構造と機能 第2回 既定性と機能論的文構成 第3回 叙実的前提と既定的前提 第4回 ITとSOの相互補完性 第5回 非叙実述語と既定性 第6回 文主語の既定性 第7回 「主節現象」と既定性 第8回 補文格上げと既定性 第9回 補文話題化と既定性 第10回 事例研究 第11回 補文削除と既定性 第12回 否定辞繰り上げと既定性 第13回 意味論的概念としての既定性 第14回 既定性と談話 第15回 既定性と統語論	[予習]【授業の内容予定】に従い、文(中右実 1983.『文の構造と機能』(安井 稔・中右実・西山佑司・中村捷・山梨正明 1983.『意味論』大修館書店)の精読が予習として求められる。 【復習】 文の内容を深く理解し、レポートを作成するために、復習が求められる。	言語学	-	-	中右実 1983.『文の構造と機能』(安井 稔・中右実・西山佑司・中村捷・山梨正明 1983.『意味論』大修館書店)	阿部潤 2018.『生成意味論入門』開拓社 太田朗 1980.『否定の意味』大修館書店 大室剛志 2017.『概念意味論の基礎』開拓社 中右実 1994.『認知意味論の原理』大修館書店 中村捷 2003.『動的意味論』開拓社	【授業としての具体的到達目標】がどの程度達成できているかという観点で、平常評価(発言)(20%)・発表(30%)・レポート(50%)の結果を総合して、評価する。	演習	演習形式 (文献講読及び解説)	意味論(英語学・意味論)の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。	火曜日5・6時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし
62	62	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	日本語史方法論 (Japanese Language History)	1, 2	選択科目	2	後期集中	集中講義	川瀬 卓 (非常勤講師)	-	レベル5	日本語の歴史を捉えるための方法を身に付けることある論に対して、過不足ない理解をしようとして、問題点を指摘する思考法を身に付けること	ことばの歴史を明らかにする方法について、多面的、総合的に概説した大木一夫 (2013)『ガイドブック日本語史』ひつじ書房を読み進めていきます。また、言語変化や文献の扱いに関わるその他の論文も数本読みます。	第1回 第1章 ことばは変化する——歴史言語学序説 第2回 第2章 ことばはなぜ変化するのか 第3回 小柳智一 (2013)『言語変化の段階と要因』『学芸国語国文学』45 第4回 第3章 信頼できるテキストを求めて 第5回 第4章 文献にあらわれた言語の性格(1)——作品成立時の言語の姿にせまる 第6回 第5章 文献にあらわれた言語の性格(2)——言語の位相差と地域差 第7回 第6章 文献による言語の歴史 第8回 吉田永弘 (2012)『平家物語と日本語史』『愛知県立大学説林』60 第9回 第7章 文献以前の言語の姿をさぐる 第10回 第8章 言語の地域差と言語の歴史(1)——比較方言学とその方法 第11回 第9章 言語の地域差と言語の歴史(2)——言語地理学とその方法 第12回 第10章 方言による言語史と文献による言語史 第13回 第11章 言語の体系性と言語の歴史——内的再建 第14回 第12章 社会のなかの言語と言語変化 第15回 日高水穂 (2006)『第5章 文法化』『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店 ※授業の進度に応じて、内容を変更することがあります。	[予習]集中講義です。あらかじめ教科書と(16)授業の内容予定に挙げてある文献を入手し、授業開始時までに全て読んでおいてください。 【復習】講義期間中は毎日授業内容の要点を見直すようにしてください。また、必要に応じて参考文献にあたり、理解を深めてください。	言語学	文学	-	大木一夫 (2013)『ガイドブック日本語史』ひつじ書房	随時紹介する。	授業の参加度(30%)、レポート(70%)	講義及び演習	受講生と討論しながら進めていく。	日本語学、言語学に関する基本的知識があることが望ましい。	なし	ksuguru.posaune42(at)yahoo.co.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
63	63	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	社会言語学 (Japanese Sociolinguistics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 7・8時限	佐藤 和之	-	レベル5	ことば(日本語)を客観的に分析説明できる調査方法と説明方法を習得すること。このことにより、国語教員や日本語教員、公務員、出版社や新聞社、放送事業会社などで活躍する人材を育てること	この講義では、人間や社会、文化といったものの成立や変容過程をことばに関連づけて気付き、その気付きに至るさまざまな背景を根拠に基づいて説明すべく、調査、研究する方法を学ぶ。さまざまな背景とは学生が所属する専門領域からの科学的根拠であったり、さらに言語現象を説明するのに必要な社会学、都市学、人類学、心理学、統計学といった分野である。	方言との関係から、今年度とはくに共通語や標準語の成立事情を講義する。共通語は「どこで話される」ことばで、「誰が話す」ことばか。いつ頃、自然発生的に生まれた日本語なのか。このことばの答を求めて、江戸語や東京語と関連づけながら考える。 1. 人間と言語 2. 言語の発生と成立 3. 国民、国家、国語、民族、宗教 4. 日本語の諸相 5. 国語研究と日本語研究 6. 社会言語学的研究手法の設定(1) 7. 社会言語学的研究手法の設定(2) 8. 社会言語学的研究手法の設定(3) 9. 言語の衰退と変容(1) 10. 言語の衰退と変容(2) 11. 異言語の需要(1) 12. 異言語の需要(2) 13. ビジンとクレオール語の成立(1) 14. ビジンとクレオール語の成立(2) 15. 方言、民族語、標準語、国語、公用語 16. 試験	講義中での意見を表すための資料を用意する必要あり	言語学	思想	文学	講義中に適宜資料を配布	講義中に適宜紹介	講義中の発表とレポートによる	講義	映像資料や音声資料を活用した対話型の講義形態	この授業は「ことば」とその使い手である「人間」、人間の集合体である「社会」といった概念を強く意識して講義するため、学生の所属する専門領域に関連づけた言語学的意見を求められることに注意を要す	研究室に在室のときは随時可能	http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/ko-kugo/	特記事項なし
64	64	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	情緒社会学 (Emotional Sociology)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	羽濑 一代	-	レベル5	対人関係やその構造に関する専門的知識の習得、ならびに、英語文献を十分に読解する能力を養成すること	情緒=感情をてがかりとして、社会集団を理解する方法を修得します。とくに、「友情」感情と社会規範との関連を考察します。	学生に関心によって、具体的な内容は変わりますが、基本的には人間関係と、その構造が個人と集団のパフォーマンスにどのような効果を持つのかについて、海外の文献を原著で購読します。教材は、書籍の場合もあれば、単一の論文である場合もあります。 第1回 情緒社会学とは 第2回～第14回 下記の文献の中から選択し、講読。 第15回 考察 以下は講読対象の例ですが、履修学生の興味に応じて何を読むかは変わります。 Scott, J. (1991). Social network analysis: a handbook (2nd ed.). London: Sage Publications. Burt, S. (1992). Structural holes: the social structure of competition. London: Harvard University Press. Putnam, R. (2000). Bowling alone: the collapse and revival of American community. Simon & Schuster, NY.	A.ギデンズ、(1992-1995、訳書)『親密性の変容—セクシュアリティ、愛情、エロティシズム』而立書房を読んでください。	社会学	-	-	適宜、指示します。	適宜、指示します。	学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行います。	演習	学生の発表を主として、教官によるコメントと討議を行います。	基本的な社会学の知識を前提とした授業となります。	月曜日12時～12時半	ichiyo@hirosaki-u.ac.jp	なし
65	65	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	生態人類学 (Ecological Anthropology)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	曾我 亨	-	レベル5	生態人類学の調査スタイルを理解すること 現代的なテーマへのアプローチ方法を理解すること 東アフリカの牧畜社会について理解すること	生態人類学は、人々の生業に焦点をあてて分析する学問です。文化に焦点をあてる文化人類学や、社会の成り立ちに焦点を合わせる社会人類学とは異なる調査スタイルを持っています。この授業では、生態人類学による東アフリカ牧畜社会に関する論文集『遊牧の思想』を講読し、私たちは全く異なる生活を送る牧畜民が、激動のアフリカをどのように生きているかを知ることで、生態人類学が現代的なテーマをどのように扱うかを学びます。	1. イントロダクション 2. 牧畜民の自己肯定的な生き方 3. 牧畜民の「ねだり」に隠された意味 4. 複雑な家畜の所有制度 5. 難民となった牧畜民の経済活動 6. 嫉妬農耕民との比較 7. 国家に頼らない牧畜民の生き方 8. 牧畜社会と暴力 9. 敵と友のはざまに生きる 10. 男らしさを相対化する 11. 伝統の便宜な使い方 12. 観光業に従事する「マサイの戦士」 13. 生業戦略の多様化 14. 大富豪となった牧畜民 15. まとめ	テキストの該当する場所を予習してきてください。分からない語句などは、あらかじめ調べてください。	文化人類学	学際	地理学	太田至・曾我亨(編)『遊牧の思想』昭和堂	特になし	授業への参加、質問と議論による	演習	毎回、本を一章ずつ読み、内容を深く理解するために、教員と質疑・討議します。	人類学は総合学問であり、哲学・地理学・社会学・心理学・開発学・政治学・経済学・農学・畜産学・社会医学など広い分野に関心をもちつての受講を歓迎します。	月曜日12時から12時40分まで	sogap[at]hirosaki-u.ac.jp [at]の部分@に置き換えてください。	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
66	66	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	社会心理学A (Social Psychology A)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 1・2時限	日比野 愛子		レベル5	人間心理をめぐる社会的環境に注目する社会文化心理学(sociocultural psychology)の専門的知識を習得すること。英語文献を十分に読解する能力を養うこと。	社会文化心理学(sociocultural psychology)に関わる書籍の輪読を行なう。海外の文献を原著で講読する。使用テキストの内、第一部(Theoretical and Methodological Issues)、第二部(Part II. Action, Objects, Artefacts and Meaning)の中から10章を講読していく予定である。なお使用テキストのみならず、関連書籍・論文(英文)の講読も随時行なう。	第1回 ガイダンス 第2回 The human psyche lives in semiospheres 第3回 Psychology as the science of sensemaking: A semiotic-cultural framework for psychology 第4回 Knowledge and experience: interobjectivity, subjectivity and social relations 第5回 Against 'mediationism': both cognitive and sociocultural 第6回 Sociocultural psychology and interpersonal psychoanalysis: the semiotic space in the consulting room 第7回・第8回 小括 第9回 Spirited psyche makes up artefacts. Semiotic dynamics of experience in the shaping of objects, agency and intentional worlds 第10回 Making social objects: the theory of social representation 第11回 Beyond the distinction between tool and sign: objects and artifacts in human activity 第12回 The sociocultural study of creative action 第13回 Symbolic resources and imagination in the dynamics of life 第14回 小括 第15回 全体のまとめ	各回で取り上げる章についての精読が予習として必要です。また、担当者は発表準備も必要となります。	心理学 学問 関連	思想 関連	Alberto Rosa and Jaan Valsiner, The Cambridge Handbook of Sociocultural Psychology, Cambridge University Press; 2 edition (2018)	適宜紹介します。	授業中の発表、議論内容を評価する。	講義	学生の発表を主として、教員によるコメントと討議を行なう。	特になし	火曜 14時20分 - 15時50分 / 水曜 12時 - 12時30分		なし	
67	67	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	社会心理学B (Social Psychology B)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	古村 健太郎		レベル5	心理学の理論を用いた授業実践や予防的介入について理解し、実際に授業を行うことができる能力を身につけること。	心理学の理論を用いた授業実践や予防的介入が、これまで数多くなされてきた。本授業では、その中から学校における自殺予防教育であるGRIP(川野・勝又, 2018)とメタ認知の育成(深谷, 2016)を取り上げ、これらに関わる書籍を講読することで先行研究の成果や授業実践の方法を学ぶ。その後、実際に授業を行う。	第1回: オリエンテーション 第2回 自殺予防教育GRIP(1): GRIPの概要 第3回 自殺予防教育GRIP(2): マインド・プロファイリングとマインド・ポケット 第4回 自殺予防教育GRIP(3): KINO(キノ)―他者との間で感情のやりとりを経験する 第5回 自殺予防教育GRIP(4): シナリオコンテスト①―相談の基本を学び、身近で相談できる大人を探す 第6回 自殺予防教育GRIP(5): シナリオコンテスト②―自殺リスクを抱えた友だちの相談にのる 第7回 メタ認知の育成(1): メタ認知について 第8回 メタ認知の育成(2): オンライン・メタ認知の育成 第9回 メタ認知の育成(3): オフライン・メタ認知の育成 第10回 メタ認知の育成(4): メタ認知の育成に関する授業実践のまとめ 第11回 授業実線の準備(1) 第12回 授業実線の準備(2) 第13回 授業実線 第14回 授業実践の振り返り 第15回 心理学を用いた授業実践についての議論	自発的に授業内容に関する心理学の先行研究や書籍を読み、知識を蓄えてください。また、統計解析や英語文献などについても扱うので、統計学や英語などの勉強も自主的に行ってください。	心理学 学問 関連		川野健治・勝又隆太郎(2018). 学校における自殺予防教育プログラム。GRIP―5時間の授業で支えあえるクラスをめざす。新曜社 深谷達史(2016). メタ認知の促進と育成: 概念的理解のメカニズムと支援。北大路書房	授業で紹介する	授業での発表、議論、予習復習の度合い、授業実践の内容を総合的に評価する。	演習	受講生が発表を行い、その発表に基づき議論を行う。また、授業実践では、実際に大学生や大学院生を対象に授業を行う。	統計学や心理学について学部卒業レベルの知識があるという前提で授業を行います。そのため、これらの知識に不安のある受講生は、その部分について自習する必要があります。	火曜日5・6時限		なし	
68	68	人文社会科学部 文化科学研究科 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	応用言語学 (Applied Linguistics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	ハトラー, アラスティア		レベル5	This course of applied linguistics will focus on the area of Corpus Linguistics. Corpus Linguistics is the study of linguistic phenomena through collections of machine-readable texts: corpora. These are used to investigate a large number of issues, for example: historical developments of a language, grammatical structures, how word frequencies reflect differences between cultures, gaining criteria for evaluating language learners' lexical proficiency, etc. This course aims to provide an introduction to methods for using existing corpora, e.g., search and processing techniques, as well as skills for providing corpus data with additional linguistic information, called 'annotation'.	In the first half of the course, emphasis will be on exploring existing corpora. In the second half of the course, students will be tasked with developing their own (small-scale) corpus resource.	Week 1: Accessing existing corpora: the Brown Corpus, the BNC, CHILDES, the NPCMJ. Week 2: Exploring corpora with part-of-speech tagging. Week 3: Exploring corpora with morphological analysis. Week 4: Exploring corpora with syntactic annotation (part 1). Week 5: Exploring corpora with syntactic annotation (part 2). Week 6: Exploring corpora with syntactic annotation (part 3). Week 7: Approaching corpus building (part 1). Week 8: Approaching corpus building (part 2). Week 9: Time for corpus construction. Week 10: Time for corpus construction. Week 11: Time for corpus construction. Week 12: Time for corpus construction. Week 13: Time for corpus construction. Week 14: Time for corpus construction. Week 15: Time for corpus construction.	Students should be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してください。	言語 学問 関連	文化 人類 学 学問 関連	学際 ・ 新 領 域	There is no set textbook. Reading material will be documented for the corpora explored.	References will be provided during the course.	In course participation 20%, midterm test 30%, and corpus constructed 50%.	演習	Since this is an applied linguistics course, lessons will be of a practical nature. This will involve practising the techniques and skills introduced.	毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で明らかにするよう努めましょう。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(3副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
69	69	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	現代ヨーロッパ研究 (Modern Europe)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	奈蔵 正之	-	レベル5	ヨーロッパ地域からフランスを取り上げ、20世紀～21世紀におけるフランスの現代史・外交史・政治史について確実な理解を得るとともに、各時代における世界情勢やEUの状況などについても考察を行うこと	第二次世界大戦から2019年までに至る、フランスの現代史・外交史・政治史を柱に据え、それとの関連で、その当時のヨーロッパ情勢やヨーロッパ統合の流れ、EUの誕生と変遷などを把握していきます。Brexit(英EU離脱問題)の行方によっては、そちらにある程度時間を割くことになるかもしれません。	第1回:第二次世界大戦とフランス 第2回:戦後のフランスと第四共和政、その時期のヨーロッパ 第3回:アルジェリア危機とフランス 第4回:フランス第五共和制の誕生 第5回:ド・ゴール時代のフランスとヨーロッパ 第6回:EC誕生とフランス 第7回:ポンピドゥー、ジスカール・デスタン時代のフランスとヨーロッパ 第8回:ミッテラン時代のフランスとヨーロッパ 第9回:EU誕生とフランス 第10回:シラク時代のフランスとEU 第11回:イラク戦争とフランス 第12回:サルコジ政権のフランスとEU 第13回:オランド政権のフランスとEU 第14回:マクロン政権の誕生と、フランスおよびEUの現在 第15回:Brexitとフランス	授業で指示します。	政治学関連	歴史学関連	-	現時点では特に決まっていません。受講生と相談して適宜テキストを選ぶこともあります。	授業中に適宜支持されます。	平常の授業活動、および、数回の小レポートを合算して評価されます。	講義	受講生が多くないので、ゼミ形式に近い形になります。毎回簡単な課題を提示し、それについて調べてきたことを次の授業で発表し、それを足がかりにディスカッションを行い、必要となる知識や情報を教員が補います。	1)受講生の持つ予備知識に応じて、授業内容の難易度、専門性が変化します。かならず専門性の高い事柄について研究するような授業になることもあれば、基礎的な知識の習得をめざす平易な授業になるかもしれません。 2)受講生全員がフランス語既修者の場合、フランス語の文献や新聞記事の抜粋が使用されることがあります。	月曜7・8時限 それ以外の時間でも随時受け付けますので、まずメールに よってアポイントメントを取って下さい。	nagura@hiroasaki-u.ac.jp	特になし
70	70	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	ドイツ論 (German Studies)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 9・10時限	齋藤 義彦	-	レベル5	近代ドイツの歴史の展開を記録した史料を検討し、歴史的な条件から近代ドイツを理解・考察することにより、日独比較の専門的な視点と実践的な能力を獲得すること	欧州及び国際社会の中でのドイツの役割に留意して、資料に現れる近代ドイツの内政と外交についての理解を深める。また日本の近代化に果たしたドイツの役割について分析する。	(1)近代ドイツ史とドイツ連邦共和国 (2)30年戦争と連邦制 (3)英仏戦争とドイツ (4)フランス革命とドイツ (5)王政復古とドイツ (6)3月革命とドイツ (7)普墺戦争とドイツ (8)ドイツ帝国 (9)オーストリア＝ハンガリー帝国 (10)第1次世界大戦とドイツ (11)第2次世界大戦とドイツ (12)二つのドイツ国家とオーストリア (13)アドルフ・ヒトラーとドイツ (14)ドイツと日本 (15)ドイツと日本 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習]各回のテーマについてあらかじめ予備的な理解をすること [復習]各回のテーマの理解を深めるために追加的な資料に当たること	歴史学関連	政治学関連	思想学関連	開講時に決定します	必要ときに紹介します	授業での成果(30%)と中間・期末レポート(70%)を総合的に評価します	演習	演習形式	特になし	月曜7・8時限 または休休み時間	yoshihiko(at)hiroasaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし
71	71	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	文化人類学A (Cultural Anthropology A)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	杉山 祐子	-	レベル5	文化人類学の基本的な考え方や方法についての理解を深めること 現代における文化人類学の課題と可能性を知ること 上記をふまえ、自身の研究を展開するための視構想を豊かにすること	今年度は、生業を切り口とした諸研究や事例の検討を通して、地域の文化や社会およびその変化を把握する方法や視座を学びます。まず、人類学における基本的な考え方や調査研究の方法を確認し、その学説的背景をふまえて、現代における諸課題を整理します。さらに、具体的な調査に基づく民族誌の講義をとおして、生業の多様性や地域の文化社会の具体的な姿を理解します。また、近代化や現金経済の浸透による生業の変化と社会的再編の様相についての事例研究を通して、今後の課題と展望について検討します。	1回 イントロダクション 2回 人類学の考え方や方法 3回 学説的背景 4回 環境の多様性と生業をどうみるか:人類学的視点から 5回～7回 さまざまな生業と社会のありかた 8回 中間まとめとディスカッション 9回～11回 生存戦略と共存の手法 12回～14回 近代化による変化と社会的再編 15回 総合まとめ *内容や順番は受講者の基礎知識や理解度をみて変更することがあります	予習として指定された文献を読み込み、レジュメを作成してください。復習はノートやレジュメ、ディスカッションの内容を見直して理解を深めてください。	文化人類学関連	社会学関連	民俗学関連	1回目の授業時にリストを配布します。英語文献も含まれます。	春日直樹編『資源人類学05 貨幣と資源』弘文堂、ジェームズ・スコット『モーラルエコノミー』小馬徹編『カネと人生』雄山閣ほか、進行にあわせて随時紹介します。	授業における発表とディスカッションへの参加、ディスカッションの内容を総合的に評価します。各期末レポートを課すこともあります。	講義及び演習	1～3回は講義形式、4回以降は講義・演習形式で行います。	予習が必要です。	事前連絡をうけて調整	yukos(at)hiroasaki-u.ac.jp	とくになし
72	72	人文社会科学部 文化科学研究科 総合文化社会研究コース	文化人類学B (Cultural Anthropology B)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時限	諏訪 淳一郎(国際連携本部)	-	レベル5	人間の条件の多様性について、異文化におけるフィールドワークから得た知見をもとにして理解すること	おもに音楽・芸能・儀礼が生活にもたらす文化作用について、文献や発表を通して詳細に議論していきます。	概説(1回) 『パフォーマンスの音楽人類学』講義とそれに基づいた発表(9回程度) その他の文献に基づいた発表(5回程度)	理解が難しい概念は個別に関連文献をさがして学習しておいてください。	文化人類学関連	芸術学関連	思想学関連	諏訪淳一郎『パフォーマンスの音楽人類学』助産書房2012年	授業で紹介いたします。	発表を含むゼミ参加。	演習	毎回担当の院生が所与の課題について発表を行い、それをたたき台に議論します。	教科書は必ず入手しておいてください。	水曜日9・10時限目(要予約)	suwa@hiroasaki-u.ac.jp	なし
74	74	人文社会科学部 文化科学研究科 地域人材育成コース	北東北歴史論 (History of North Tohoku)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	武井 紀子	地域志向科目	レベル5	史料の輪読を通じて、北東北(津軽地方)の歴史について理解を深めること。菅江真澄の目を通して見た北東北について考え、地域の歴史・文化を継承する視点を身につけること	菅江真澄の随筆を年代順に追いつながり、寛政年間の津軽地方の様相について、関連文献も含めながら読解していきます。また、同時代の弘前藩の様子や江戸後期の社会の様子にも言及していきます。	津軽地方に逗留した菅江真澄の随筆の記載をてがかりに、津軽地方の歴史文化について考察します。今年度は寛政九年五月から順に時系列に沿って読み進めます。 1. ガイダンス ― 授業の進め方 ― 2～3 寛政九年五月～七月(『選辞責栞波末』第三部) 4 寛政十年正月(『追柯呂能通度』第一部) 5～9 寛政十年三月～七月(『外浜奇勝』) 10～14 寛政十年七月下旬～(『選辞責栞波末』第四部・第一部・第二部・第五部、 『雪の道奥雪の出羽路』) 15. まとめ	【予習】参加者は講義で読み進めていく分のテキストを事前に読んで授業にのぞんでください。その際、分からない用語がある場合には、辞書を引いておくこと。 【復習】講義で読み進めた内容を再読しておくこと。	歴史学関連	民俗学関連	地理学関連	菅江真澄全集第三巻、第1回授業の時にまとめて配付します。	内田武志・宮本常一編『菅江真澄遊覧記』三(平凡社、1967年) 菊池勇夫『菅江真澄』(吉川弘文館、2007年) そのほか、授業中に適宜紹介していきます。	出席と報告による平常評価(40%)、学期末レポート(60%)により評価する。報告は、史料読解や内容、討論への積極的な参加を総合的に判断します。	演習	担当を決めての史料輪読と講義形式、関連論文の講義や史料の紹介などを組み合わせて行います。	特になし。予備知識は特に必要としませんが、読解の上で、辞書や地図などで内容を調べていく必要があります。	火曜10:00-12:00、そのほか研究室(人文333)在室時にはいつ来てもかまいません。	n-takei(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)を@に置き換えて下さい。	菅江真澄が津軽に滞在した時期の紀行文をもとに、近世津軽の様相を考えていきます。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
91	91	人文社会科学部国際人材育成コース	古代地中海文化論 (Material Culture of the Ancient Mediterranean World)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	宮坂 朋	-	レベル5	ローマ時代の文化芸術全般を学術的知見と科学的手法を用いて、多角的に理解すること ローマ時代の文化資源(建築・都市計画・美術・碑文等)を適切に取り扱うための専門的能力・技術を習得するとともに、その価値を的確に見極めるための眼識を養うこと ①ローマ時代の各地域の文化財を考古学・美術史・建築史・碑文学などの方法を用いて、包括的多角的に理解する。 ②各種の文化資源(都市・浴場・劇場・公共浮彫・住宅)を適切に取り扱うための専門的能力・技術を習得するとともに、その価値を的確に見極めるための眼識を養う。 ③ローマ時代の文化資源の様々あり方についての知識を我が国の文化資源の学術的評価や利活用に関する国・地方自治体の文化振興のための施策につなげる能力を養うこと	①ローマ時代の各地域の文化財を考古学・美術史・建築史・碑文学などの方法を用いて、包括的多角的に理解する。 ②各種の文化資源(都市・浴場・劇場・公共浮彫・住宅)を適切に取り扱うための専門的能力・技術を習得するとともに、その価値を的確に見極めるための眼識を養う。 ③ローマ時代の文化資源の様々あり方についての知識を我が国の文化資源の学術的評価や利活用するための施策につなげる能力を養う。	授業計画 第1回:導入 第2回:ローマの文化財 第3回:マグナ・グラエキアの文化財 第4回:シチリアの文化財 第5回:サルデーニャの文化財 第6回:東地中海沿岸の文化財 第7回:シリアの文化財 第8回:小アジアの文化財 第9回:マケドニアの文化財 第10回:ギリシアの文化財 第11回:エーゲ海の文化財 第12回:北アフリカの文化財 第13回:エジプトの文化財 第14回:ガリアの文化財 第15回:まとめ 第16回:定期試験 (内容や順番は受講者の関心や進度に合わせて変更する可能性があります)	予習:教科書を必ず精読すること。 復習:教科書と配布資料を参考にして授業内容の理解を徹底すること。	芸術関連	考古学関連	博物館学関連	ウオード・パーキンス、J.B. 「ローマ建築」本の友社、1996年。 Ling, R. Roman Painting, Cambridge University Press,1991. Kleiner, D.E.E. Roman Sculpture, Yale University, Press,1992.	参考書・参考資料等授業中に適宜資料を配布します。	授業中の質疑応答(50%)と期末試験(50%)	講義	講義を中心としますが、講義の中で扱う碑文資料の読解や文化財に関する基礎知識などの質問を積極的に行います。	ラテン語初級程度	火曜日5/6限目	研究室電話番号 0172-39-3243 メールアドレス tomoto※ hirosaki-u.ac.jp (記号はアットマークです)	特になし。
92	92	人文社会科学部国際人材育成コース	ヨーロッパ古典文化論 (European Classical Culture)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 5・6時限	今井 正浩	-	レベル5	西洋古典古代の人間観の展開に着目することによって、現代ヨーロッパの歴史文化的源流の一つにあたる西洋古典古代についての専門的理解を深めつつ、西洋古典古代の歴史文化遺産が有する普遍的価値を正しく理解するための専門的な見識を獲得すること	この授業は、文学・哲学・自然科学等、多様な原典資料の精読を通して、西洋古典古代の人間観の特質と展開についての専門的理解を深めることを目的としています。	ホメロスからアウグスティヌスにいたる西洋古典古代の人間観について、文学・哲学・自然科学等の原典資料等を手がかりとして、その特質を理解するとともに、その歴史的展開を辿ります。 第1回 現代ヨーロッパの歴史文化的源流の一つとしての西洋古典古代 第2回 ホメロスとギリシア人の伝統的人間観(1)(原典読解・発表・討論) 第3回 ペシオドスとギリシア人の伝統的人間観(2)(原典読解・発表・討論) 第4回 哲学の誕生—「最初の哲学者」タレス(原典読解・発表・討論) 第5回 初期ギリシア哲学の展開(原典読解・発表・討論) 第6回 ギリシア悲劇の人間観(資料読解・発表・討論) 第7回 古代ギリシア医学思想における人間観(原典読解・発表・討論) 第8回 ソクラテスの哲学的人間観(原典読解・発表・討論) 第9回 プラトンの哲学的人間観(1)(原典読解・発表・討論) 第10回 プラトンの哲学的人間観(2)(原典読解・発表・討論) 第11回 アリストテレスの哲学的人間観(1)(原典読解・発表・討論) 第12回 アリストテレスの哲学的人間観(2)(原典読解・発表・討論) 第13回 ヘレニズム期の哲学者たちの人間観—エピクロス派とストア派—(原典読解・発表・討論) 第14回 プロティノスと新プラトン主義の人間観(原典読解・発表・討論) 第15回 アウグスティヌスとキリスト教の人間観(原典読解・発表・討論) なお、授業の進行状況等によってシラバスの内容と異なってくる場合は、その都度説明をします。	各回の授業後に復習点、次回の予習点を伝えます(なお、予習・復習は、最低でも各2時間とることが必要です)。	歴史学関連	思想関連	-	授業中に配布する資料等をもとに授業を実施しますので、教科書は指定しません。	授業中に、適宜紹介していきます。	平常評価(授業への参加度)(50パーセント)+学期末に提出するレポートの評点(50パーセント)を合算して評価します。	演習	西洋古典のテキストの精読を中心に、講義の要素を一部に取り入れた演習形式の授業です。 受講にあたって、古典ギリシア語・ラテン語等の知識は問いませんが、語学力が理解を深めるのに役立つことは言うまでもありません。日本語で書かれた代表的な古典ギリシア語・ラテン語の基礎文法書を紹介しますので、ぜひ挑戦してみてください。 (1)水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』(岩波書店刊、1990年) (2)田中利光著『ラテン語初歩/改訂版』(岩波書店刊、2002年)	毎週月曜日の午後4時~6時をオフィスアワーの時間帯に設定しています。	Eメールアドレス masahiro@hirosaki-u.ac.jp	なし	
93	93	人文社会科学部国際人材育成コース	日本思想論 (Study on Japanese Thought)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 7・8時限	原 克昭	-	レベル5	日本思想文献の講読を通して、読解力・思索力の涵養をめざすこと 日本思想文献の講読を通して、報告方策・意見提示の方策を修得すること	日本思想史を形成する基盤の一端に「対話・論争・問答」があります。本講では、古代から近現代にいたる「対話・論争」の諸相と展開をたどり「日本対話論争思想史」を描きだしてゆきます。	配布された基本論文および講読文献に事前に目を通しておいてください。 また、学期末に講読内容をふまえたレポートを仕上げてもらいます。	思想関連	歴史学関連	文学関連	レクチャー資料・基礎論文・講読文献資料とともに、プリントを配布します。 ・今井淳・小澤富夫編『日本思想論争史』(ベリかん社、1979年) ・丸山眞男『忠誠と反逆—転換期日本の精神史的位相』(ちくま学芸文庫、1998年) ・阿部泰郎『中世日本の世界像』(名古屋大学出版会、2018年) ・末木文美士編『妙真問答』(法蔵館、2014年)	・今井淳・小澤富夫編『日本思想論争史』(ベリかん社、1979年) ・丸山眞男『忠誠と反逆—転換期日本の精神史的位相』(ちくま学芸文庫、1998年) ・阿部泰郎『中世日本の世界像』(名古屋大学出版会、2018年) ・末木文美士編『妙真問答』(法蔵館、2014年)	平常評価(授業・講読への参加度50%)および期末評価(レポート50%)による総合評価とします。	講義	講義(基礎知識と情報共有)+本論文講読+思想文献輪読を進めます。	日本の思想・文学・歴史・文化に対する興味関心と学習意欲さえ持たあわせていけば、予備知識の有無は問いません。ひろく「日本文学」研究の基盤として活用してください。	木曜日15:00~17:00/その他、在室時に随時対応します。研究室:人文社会科学棟402(日本倫理思想史研究室)	harakあつと hirosaki-u.ac.jp	なし	
94	94	人文社会科学部国際人材育成コース	現代倫理学 (Modern Ethics)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 1・2時限	横地 徳廣	-	レベル5	受講生のみなさんは以下の哲学テキストを読む。Kendal Walton, Fearing Fiction, in: Journal of Philosophy, vol. 75, no. 1, January 1978 この読解を通じ、ホラー映画や悲劇といった虚構を哲学的に考察する仕方を修得すること	受講生のみなさんはケンダル・L・ウォルトンの論文「虚構を恐がる」の英語テキストを読みます。今回は、映画に夢中になることで虚構複合の世界が開かれる仕方と、そうした世界のなかで虚構への恐怖が成り立つ仕方とを学びます。	授業予定は、以下のとおりです。変更の場合は授業で事前に知らせます。 1 ガイダンス(読解箇所と担当の決定) 2 テキスト読解と解説 (1)恐怖 3 テキスト読解と解説 (2)恐怖 4 テキスト読解と解説 (3)恐怖 5 テキスト読解と解説 (4)現実 6 テキスト読解と解説 (5)現実 7 テキスト読解と解説 (6)現実 8 テキスト読解と解説 (7)虚構 9 テキスト読解と解説 (8)虚構 10 テキスト読解と解説 (9)虚構 11 テキスト読解と解説 (10)道具 12 テキスト読解と解説 (11)道具 13 テキスト読解と解説 (12)指示 14 テキスト読解と解説 (13)指示 15 テキスト読解と解説 (14)まとめ	配布テキストを授業前後に読むことが準備学習になります。	思想関連	文学関連	芸術関連	原書の一部がコピーで配布されます。	適宜、紹介されます。	平常評価(読解参加):100% 上記をもとに最終的な成績評価が行われる予定です。	演習	読解しながら、段落ごとに要旨をまとめていきます。	なし	オフィスアワーは在室時です。西洋倫理思想史研究室(人社414)まで。必ずメールで面会予約をとってください。	メールアドレスは人社414研究室に掲載されます。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
95	95	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	日本近現代文学 (Modern and Contemporary Japanese Literature)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 5・6時限	尾崎 名津子	地域志向科目	レベル5	日本近現代文学研究に関する問題設定の方法を理解すること その解決のために必要かつ適切な調査方法を選択できるようにすること その解決のために必要かつ適切な読解方法を選択できるようにすること 文学作品の精緻な読解を習得すること	日本近現代文学研究には多様な方法論があり、論者は立論の時点でそれをある程度峻別・選択しなくてはならない。あまたある方法論のうちの一つ、あるいはいくつかを選択することは、「文学」なるものをどのように規定するかを問われていることと同義である。その点から見ると、太宰治という作家、あるいは彼の作品は、これまで実に様々な「方法論」を以て「読解」されてきた。この授業では太宰治とその作品がいかに論じられてきたかを理解すると同時に、履修者自らが立論し、方法論に意図的になるという実践を通して、近現代文学研究の基礎的な作業を体得することを旨とする。	第1回 太宰治作品の読まれ方(1)—伝記的事実と作品の評価 第2回 太宰治作品の読まれ方(2)—テキスト分析導入後の評価 第3回 問題設定の方法(1)—先行研究の踏まえ方 第4回 問題設定の方法(2)—オリジナリティとは何か 第5回 旧制弘前高校在学中の作品 第6回 「前期・中期・後期」という枠組み 第7回 1930年代後半の作品 第8回 1940年代前半の作品 第9回 敗戦後から1948年までの作品 第10回 女性独白体小説 第11回 (文壇)との関係 第12回 津軽との関係(1)—葛西善蔵に対する敬意のありよう 第13回 津軽との関係(2)—「津軽」を読む 第14回 検閲による処分 第15回 まとめ	[予習]各回で扱う作品を事前に読了しておくことが必要。 [復習]各回の内容を徐々に積み重ねながら展開するため、毎回の内容を各自で振り返り、不明点は早期に解消することが必要。	文学 学問 思想 社会	『太宰治全集』(筑摩書房、1998年)など。より具体的な授業で紹介する。 木村小夜『太宰治の虚構』(和泉書院、2015年)など。その他の必要な文献については授業で紹介する。	平常点(授業への参加度)50% 発表内容50% 上記を合算し総合的に判断する。	演習	第1回から第4回までは講義が中心となるが、第5回以降は履修者の発表によって授業を進める。	高校卒業程度の近現代文学史を知っていることが望ましい。また、積極的な発言を求める。	月～金の昼休み。但し不在にすることもあるため、事前にメールで連絡をもらえると確実です。	ozaki(at)hirosaki-u.ac.jp	なし			
96	96	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	中国文化論 (Chinese Culture)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	植木 久行 (非常勤講師)	-	レベル5	詩跡の概念とその形成を理解し、高度の専門知識を習得すること 詩跡研究における基礎的な文献を理解し、研究の手法を習得し、文化の振興に寄与する実践力を身につけること	詩跡とは歴代の詩人たちに詠みつかれて、新しい変奏を積み重ねて著名になり、詩歌の創造に点火して、表現の核となる力をたえた地名(古典詩語)をいう。それは単なる名勝・古跡とは異なり、詩歌を主体とした新しい概念であり、詩歌によって生み出された独特の理想作用を瞬間に喚び起こす。風雅な詩心の伝承を宿す場所であった。この授業では、詩跡の概念と機能、その形成と展開、詩跡を著録する地理書—総志(全国性地域志)・方志(行政区域を単位とする地方志)について述べ、著名な詩跡—寒山寺と鶴鶴楼に対する具体的な研究事例をあげて、その研究方法を考える。	第1回 オリエンテーション(本講義の目的と概要の説明) 第2回 詩跡の概念と機能—風土からの発想— 第3回 詩跡の形成とその展開—詩歌による地誌— 第4回 尾形幼の「俳枕」考 第5回～第7回 歴代の地理総志に見る詩跡の著録とその展開—宣城の敬亭山— 第8回～第10回 蘇州第一の詩跡、楓橋・寒山寺考 第11回～第14回 唐代の鶴鶴楼位置考 第15回 まとめ	配付教材の該当箇所を予習することが必要です。	文学 学問	-	プリントを配付する。 松浦友久編著『漢詩の事典』(大修館書店、1999年)、『III 名詩のふるさと(詩跡)』、植木久行編著『中国詩跡事典—漢詩の歌枕・俳枕—』(研文出版、2015年)、いずれも附属図書館所蔵。	授業への参加度(評価全体の30%)、訓読・解釈担当(評価全体の30%)、および授業終了時提出の期末レポート(評価全体の40%)を総合して、成績評価を行う予定です。	演習	受講生に少しづつ訓読・解釈してもらい、問題点を検討します。	特になし。	なし。	なし。	なし。		
97	97	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	現代中国論 (Modern China Studies)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	城本 るみ	-	レベル5	現代中国史における中国、アメリカ、ソ連の三国関係を理解できること 現代中国の政治や外交の歴史的背景を理解できるようにすること 一国の歴史としてではなく、多国間の関係性なかで中国現代史を分析する視点を獲得できること 修得した知識に基づいて、地域や国際社会の振興に役立つ能力を養うこと	○テキストを使用し、中華人民共和国建国前後からのアメリカ・ソ連との協調や対決の軌跡をたどっていく。 ○中国現代史をアメリカ、ソ連、中国の三国の動向から読み解き、個々の事象を一国内の問題としてだけでなく、グローバルな視点によって検討していく。	第1回: 導入…20世紀の中国に対する視角 第2回: 建国までの背景(1)…ソ連の「革命の輸出」と中国共産党 第3回: 建国までの背景(2)…抗日戦争の影響と毛沢東政権の誕生 第4回: 大戦後の米ソ関係(1)…大戦後の中国とソ連の関係 第5回: 大戦後の米ソ関係(2)…大戦後の中国とアメリカの関係 第6回: 共産党政権の誕生と中ソ関係(1)…中ソ友好同盟相互援助条約 第7回: 共産党政権の誕生と中ソ関係(2)…スターリンと毛沢東 第8回: 中ソ関係の決裂(1)…フルシチョフ報告の影響と反右派闘争 第9回: 中ソ関係の決裂(2)…周恩来の平和外交と台湾海峡危機 第10回: 1960年代の中ソ・中米関係(1)…文化大革命の背景としての三国関係 第11回: 1960年代の中ソ・中米関係(2)…ベトナムをめぐる中・米・ソ関係 第12回: 米中関係の新たな展開(1)…中ソ関係悪化による対米接近 第13回: 米中関係の新たな展開(2)…林彪事件の背景 第14回: 改革開放時代(1)…鄧小平時代の到来 第15回: 改革開放時代(2)…第二次天安門事件とその影響	(予習)発表担当者は自分の担当する範囲について、他の文献や論文等も参照しながらよく調べてレジュメを作成する。当日発表担当でない者は、テキスト資料を読み込んで事前に質問事項を整理しておく。 (復習)当日の討論内容について、疑問を残さないようもう一度よく調べて考える。	社会 学問	-	『中国安全保障全史』(アンドリュー・J・ネイサン他著 河野純治訳 みすず書房 2016) 『現代中国年表 1941-2008』(安藤正士著 岩波書店 2010) 『新中国の60年』(日本現代中国学会編 創土社 2009) 『中国外交の新思考』(王逸舟著 天児慧・青山瑠紗編訳 東京大学出版会 2007) その他、授業中に適宜紹介する。	授業における報告や質疑応答(50%)、授業終了後のレポート(50%)	演習	テキストの内容についてレジュメを作成し、それに基づいて発表を行う。またその発表に対する質疑応答を行い、討論形式で授業を進めていく。	特になし。	火曜・水曜 12:00-12:40	rum(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。	特になし。		
98	98	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	イギリス近代文化論A (English Modern Culture A)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 9・10時限	小野寺 進	-	レベル5	小説の構造を理解する上で必要なナラトロジーの最新を論文や書物で読みます。それと同時に、英語での読解を通じて英語力の向上を図ります。今年度はMonika FludernikのAn Introduction to NARRATOLOGYを読みます。	小説の構造を理解する上で必要なナラトロジーの最新を論文や書物で読みます。それと同時に、英語での読解を通じて英語力の向上を図ります。今年度はMonika FludernikのAn Introduction to NARRATOLOGYを読みます。	第1回: 第1章「Narrative and narrating」を読む。 第2回: 第2章「The Theory of Narrative」を読む。 第3回: 第3章「Text and Authorship」を読む。 第4回: 第4章「The Structure of Narrative」を読む。 第5回: 第4章「The Structure of Narrative」を読む。 第6回: 第5章「The Surface of Narrative」を読む。 第7回: 第5章「The Surface of Narrative」を読む。 第8回: 第6章「Realism, Illusionism and Metafiction」を読む。 第9回: 第7章「Language, the Representative of Speech and Stylistics of Narrative」を読む。 第10回: 第7章「Language, the Representative of Speech and Stylistics of Narrative」を読む。 第11回: 第8章「Thoughts, Feelings and the Unconscious」を読む。 第12回: 第9章「Narrative Typologies」を読む。 第13回: 第9章「Narrative Typologies」を読む。 第14回: 第9章「Narrative Typologies」を読む。 第15回: 第10章「Diachronic Approaches to Narrative」を読む。	授業計画に基づいた予習が必要。	文学 学問	言語 学問	-	Monika Fludernik, An Introduction to NARRATOLOGY (Routledge)	適宜紹介いたします。	レポート(80%)、授業でのパフォーマンス(20%)	演習	輪読式による演習	十分な予習が不可欠です。	水曜日 5・6時限	susumu(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。	なし
99	99	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	イギリス近代文化論B (English Modern Culture B)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	澤田 真一	-	レベル5	イギリスとその植民地であったニュージューランドの文学作品を丹念に読み、その内容を深く理解することを通じて、文化・伝統・民族の問題を植民者/被植民者の立場から複眼的に捉え、多文化共生に対する洞察を深めることのできる能力を養うこと	19世紀にイギリスの植民地として出たニュージューランドの白人作家でありイギリスで活躍したキャサリン・マンスフィールドと先住民マオリの作家を取り上げます。彼らの作品を講義しながら、植民地主義、二文化の共存の問題について考察します。	第1回: イントロダクション 第2回: キャサリン・マンスフィールド(1) 第3回: キャサリン・マンスフィールド(2) 第4回: キャサリン・マンスフィールド(3) 第5回: 映画「Bliss」の鑑賞 第6回: 映画「Bliss」の解釈 第7回: ウィティ・イヒマエラ(1) 第8回: ウィティ・イヒマエラ(2) 第9回: ウィティ・イヒマエラ(3) 第10回: ケリ・ヒューム(1) 第11回: ケリ・ヒューム(2) 第12回: アラン・ダフ 第13回: バトリシア・グレイス 第14回: ロイド・ジョーンズ 第15回: まとめ 定期試験	授業計画に基づき配布される英文資料の読解のための予習を行う必要があります。	文学 学問	思想 学問	-	講義時にプリントを配布します。	講義時に適宜紹介いたします。	平常評価(授業への参加度): 20% 中間評価(レポート): 30% 期末評価(期末試験): 50% 上記を合算して、最終的な評価を行います。	講義	講義形式ですが、内容の理解度を確認しながら授業を進めていきます。	十分な予習が必要です。	金曜日 7・8時限	ssawada@hirosaki-u.ac.jp	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
100	100	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	イギリス文学・文化研究 (English Culture and Literature)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	畑中 杏美	-	レベル5	イギリス小説を読むことを通して、英語で書かれた文章を正確に読む力を身に着けること 英語運用能力を高めるとともに、作品が書かれた時代の社会的・文化的背景を理解すること	・20世紀以降のイギリス文学を講読し、イギリス小説の作品舞台となる場所の地域特性を理解する ・様々なテクストについて比較考察しながら、イギリス社会の変容をたどっていく ・ただ単に作品や資料の文字を追うだけでなく、自分の視点から作品を読み解き、議論を通して理解を深める	授業計画 第1回： 導入 第2回： Virginia Woolf, "Modern Fiction" を読む 第3回： H. G. Wells, The Island of Dr. Moreau を読む: "In the Dingley of the 'Lady Vain'" から "The Parley" まで 第4回： H. G. Wells, The Island of Dr. Moreau を読む: "Doctor Moreau Explains" から "The Man Alone" まで 第5回： Virginia Woolf, Between the Acts を読む: A summer's night 第6回： Virginia Woolf, Between the Acts を読む: The laughter died away 第7回： Virginia Woolf, Between the Acts を読む: Digging and delving 第8回： "Jackie Kay on Between the Acts" と "Lisa Jardine on Between the Acts" を読み、ディスカッション 第9回： Graham Greene, The End of the Affair を読む: Bendrix and Sarah 第10回： Graham Greene, The End of the Affair を読む: A bomb blasts 第11回： Graham Greene, The End of the Affair を読む: Sarah's diary 第12回： Muriel Spark, The Prime of Miss Jean Brodie を読む: Brodie set and Sandy Stranger 第13回： Muriel Spark, The Prime of Miss Jean Brodie を読む: Ms Brodie's Love 第14回： Muriel Spark, The Prime of Miss Jean Brodie を読む: Transfiguration of Commonplace 第15回： ディスカッションとまとめ—20世紀イギリス文学について ※授業の進行状況等により、シラバスと授業内容が異なる際には、その都度説明します。	毎週、予習箇所を指示しますので、必ず予習をしてください。また、授業後に、興味を持った点について調べるなどして復習をしてください。	文学関連	言語学関連	-	初回授業時に指示する。	A Companion to the British and Irish novel, 1945-2000. Ed. by Brian W. Shaffer, Blackwell, 2005 その他、配布する資料などを含め、授業時に適宜示す。	平常点(20%)、授業での口頭発表(40%)、レポート(40%)によって評価する。	演習	予習箇所についてまとめたレジュメを作成してもらい、それをもとにディスカッションをします。	受講にあたって特別な予備知識は必要としません。	初回授業時に指示する。	初回授業時に指示する。	なし
101	101	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	アメリカ近代文化論 (Modern American Culture)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 9・10時限	堀 智弘	-	レベル5	アメリカ文学の代表的作品を詳細に読解し、作品をおして映し出される文化的な諸問題について深く考察を行うことによって、人間社会の真相を明らかにする能力を養うこと	アメリカ文学の古典であるNathaniel HawthorneのThe Scarlet Letter (1850)を読んでいます。	第1回 ガイダンス(授業の説明) 第2回 "The Custom-House" 第3回 第1章～第2章 第4回 第3章～第4章 第5回 第5章～第6章 第6回 第7章～第8章 第7回 第9章～第10章 第8回 第11章～第12章 第9回 第13章～第14章 第10回 第15章～第16章 第11回 第17章～第18章 第12回 第19章～第20章 第13回 第21章～第22章 第14回 第23章～第24章 第15回 まとめ	毎回テキスト(英文)の指定された範囲を読んで授業に臨むことが必要となります。	文学関連	思想関連	芸術関連	Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter. (Oxford World's Classics)	授業時に適宜紹介します。	担当、授業参加、期末レポートから総合的に評価します。	演習	学生の担当を中心とした演習形式です。	受講にあたっては特段の予備知識は必ずしも必要ではありませんが、文学作品を英語で読解しますので、相応の英語力は必要となります。	水曜日12:00～13:00	horitomo(at)hirosaki-u.ac.jp * (at)は@に置き換えてください。	なし
102	102	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	アメリカ社会研究 (Vietnam War and American Society)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 1・2時限	南 修平	-	レベル5	アメリカ社会と戦争の関係を多面的に検証し、共生社会に向けた課題を明らかにすること 英語の文献や各種資料による学びを通じて英語運用能力を高めること	アメリカ社会と戦争の関係をマイノリティや記念碑、空爆論、兵士という様々な視点から考察し、日常における軍隊の存在や戦争を通じて文化的な特性を学び、文化間の相違を比較検討する。	第1回 ガイダンス 第2回 第2次世界大戦—マイノリティと戦争①: 日系移民と強制収容 第3回 第2次世界大戦—マイノリティと戦争②: "Go for Broke" 日系移民2世の「戦争」 第4回 第2次世界大戦—マイノリティと戦争③: 「帰米2世」アメリカ人と戦ったアメリカ人 第5回 記憶されるGood War 第6回 記念碑から考える戦争の記憶 第7回 戦略爆撃の思想—精密爆撃から無差別空爆への道 第8回 原爆投下の思想—スミソニアン論争から考える日米戦争観比較 第9回 ヴェトナム戦争とアメリカ—アメリカの本格介入から敗北へ 第10回 Working-Class War—徴兵制度が映すアメリカ社会 第11回 Working-Class War—軍隊とつくれる兵士たち 第12回 Working-Class War—軍隊の社会的機能を考える 第13回 アメリカ社会にうづく戦争後遺症①: Winter Soldier の告発 第14回 アメリカ社会にうづく戦争後遺症②: 病んでいく兵士、請負化される戦争 第15回 「好戦の共和国」アメリカ—21世紀の共生社会を展望する	予習: 毎回のアサイメントを読むことはもちろん、注釈で言及されている重要な関連文献にもできるだけ目を通すこと 復習: 議論の中心部分を読み直すとともに、それらに関連する文献やウェブサイト、視覚資料にも目を通して理解の範囲を深め、広げる努力をすること	歴史学関連	政治学関連	社会学関連	Christian G. Appy, Working-Class War: American Combat Soldiers and Vietnam (Chapel Hill: University of North Carolina Press, 1993). その他の教材は講義内で指示する。	講義の中で必要に応じて文献資料・ウェブサイト・視覚資料等を紹介します。	課題への取り組みと講義内容でのパフォーマンス(50%)、最終レポート(50%)	講義	毎回アサイメントやテキストに基づいて議論する。報告担当者が内容を確認するとともに議論すべきポイントを提起する。他の受講生もそれぞれ当該範囲についての意見や疑問を提示し、積極的に議論に参加することが求められる。担当教員は必要に応じて講義形式による概要の提示や補足をを行う。	アメリカに関する専門科目のため、予備知識はあることが望ましい。毎回アサイメントが課されることから、それらを読解する英語力と読書量が必要となる。	火曜日9・10時限。ただし、不在の場合もあるので、事前にアポイントメントをとることが望ましい。	初回講義にて伝える。	特になし。
103	103	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	ヨーロッパ現代文化論 (European Contemporary Culture)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 3・4時限	熊野 真規子	-	レベル5	現代ヨーロッパの言語政策の変遷を知ることをフランス語文庫の講読力を向上させること	現代ヨーロッパの言語政策の変遷を知るために、CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)フランス語版を講読形式で読みます。分析・討論を行って、ヨーロッパ現代についての理解も深めます。	・導入(受講生に応じて3文献を決定します) ・文献講読(3回) ・分析・討論(2回) ・文献講読II(2回) ・分析・討論II(2回) ・文献講読III(2回) ・分析・討論III(2回)	各回の授業終了後に次回の予習箇所についてお知らせします。(予習、復習は、最低でも各2時間程度行う必要があります。)	芸術関連	思想関連	文学関連	プリントを配布します。	開校時に紹介します。	講読・討論形式をとるため、予習の準備度、授業参加度などを総合的に判断して評価します。	演習	導入+講読形式9回+分析・討論6回	フランス語既習者であっても、授業には必ず仏和辞典を持参して下さい。	火曜日17:30-18:30	kumano(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
104	104	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	フランス文芸論 (French Literature)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 7・8時限	泉谷 安規	-	レベル5	フランス語の正確な読解ができること フランスの批評家・小説家モーリス・ブランショの代表的評論『文学空間』を読んで、20世紀の文学・思想の特徴とその問題性を理解すること	20世紀の批評家・小説家であるモーリス・ブランショの『文学空間』をテキストとして読みながら、ブランショの文学観、そして批評とは何かを考察していきます。	1. イントロダクション 2. モーリス・ブランショについての基本的考察 3. ブランショにとって、文学・思想・言語とは何か:『文学空間』に至るまで 4. 『文学空間』:本質的孤独(以下『文学空間』の内容にそくして) 5. 『文学空間』:文学空間の接近 6. 『文学空間』:作品の空間と作品の要請 7. 『文学空間』:作品と伝達 8. 『文学空間』:靈感 9. 『文学空間』:作品と伝達 10. 『文学空間』:文学と本源的体験 11. 『文学空間』:補遺 12. 『文学空間』: 13. ブランショの小説について 14. ブランショの批評について 15. まとめ	予習は、ブランショの『文学空間』をあらかじめ読んでおくことです。復習は、授業内でやったことをもう一度、自分で考えなおし、疑問点があれば次の授業で質問してください。必要に応じて、事前の下調べをしてもらうことがあるかもしれません。	文学関連	思想関連	-	上述のモーリス・ブランショ『文学空間』(現代思潮社)とL'Espace litteraire, Folio です。ただし、長編の評論です。授業にあつては全てあつかいませんので、必要な箇所をこちらでコピーして配布します(原文も翻訳も)。	開講時に指示します。	平常点(出席点)50パーセントと期末時のレポートの50パーセントで評価します。	演習	基本的に、演習方式で、原文と翻訳を突き合せて読んでいきます。	フランス語の既習者が望ましいでしょう。ただし、フランス語を学んでない人、あるいは学んだが自信のない人はあらかじめ申し出てください。	木曜日7・8時限	-	なし
105	105	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	言語類型論 (Linguistic Typology)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 7・8時限	山本 秀樹	-	レベル5	古今東西を問わず、広範な世界諸言語の資料を基に、言語の普遍性と変異のあり方を探求する言語類型論による具体的な研究に触れることにより、一言語内部の研究では明らかにならないような人類言語の深層を明らかにし、種々の普遍特性、変異のあり方を探求する手法を身につけること	種々の言語特性に関して、ある特定の個別言語よりもむしろ世界諸言語全般に見られる普遍特性及び多様性のあり方を探求し、さらに、それらに対する説明原理を追求していきます。それによって、世界の言語には、種々の普遍性が存在し、多様性が見られる場合にも、恣意的に異なっているわけではなく、ある一定の普遍的な法則に従って変異していることを論じます。	第1回 授業の概要説明および受講生との打ち合わせ 第2回 言語普遍性について 第3回 言語類型論について 第4回 基本的概念 第5回 語順類型論 第6回 語順の地理的・系統的分布 第7回 語順の再建と変遷 第8回 主語 第9回 格標示 第10回 関係節 第11回 使役構文 第12回 有生性 第13回 言語類型論と歴史言語学との関連 第14回 類型論的に見た言語の違い類縁関係 第15回 まとめ	授業内容を復習した上で、次回扱うプリントの内容をよく読んでおいてください。	言語学関連	-	-	バーナード・コムリー著(松本克己・山本秀樹訳)『言語普遍性と言語類型論』(ひつじ書房) 山本秀樹著『世界諸言語の地理的・系統的語順分布とその変遷』(漢水社)(いずれも附属図書館所蔵)	毎回の授業における参加度や出来具合およびレポートを総合して、最終的な評価を行う予定です。	講義	研究室において、プリントを使いながら言語現象を考察していきます。	原則として種々の言語や言語学の知識を持っていることが望まれますが、実際に受講を希望してきた学生の予備知識を考慮して授業内容等を調整することがあります。	金曜日:12時から13時	hideyama@hiroasaki-u.ac.jp	特になし	
106	106	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	国際文書規格論 (International Document Standard Theory)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	内海 淳	-	レベル5	様々な文書規格における多言語処理の基本的な仕組みを概観し、その規格に基づく多言語の文書を実際に処理・作成することを通じてその規格への理解を深めること	XMLを中心とした多言語での文書作成を可能にする文書規格を考察し、その処理技術、実践を通して、理解します。	【予習】事前に指定する資料等を読んでおく 【復習】各自の研究関心に応じたデータに、講義で学んだことを当てはめてみる	言語学関連	情報科学関連	情報工学関連	必要に応じてプリント等を配布します。	授業時に指示します。	通常の授業での評価と、中間及び期末のレポートによって総合的に評価します。	講義	講義形式に、演習形式を取り入れて行います。	受講生の予備知識等に応じて、相談のうえ、授業内容予定を変更する場合があります。	水曜日 12:00から12:40	utsumi(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	
107	107	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	言語文化論 (Language and its Structure)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 9・10時限	木村 宣美	-	レベル5	構造と範疇を意識した文献の精読を通じて、コミュニケーションツールとしての外国語(英語)の運用能力の一部である読解力の向上を図ること 生成文法理論(統論・意味論)に基づく言語分析の基礎を身につけること 英語の情報ラッピング構文(Information-Packaging Constructions)の特性を理解すること	Huddleston, Rodney & Geoffrey K. Pullum 2002. The Cambridge Grammar of the English Language. (Cambridge University Press) の第16章 Information packaging [pp. 1363-1447] を精読する。	第1回 生成文法理論の目標と方法 第2回 Information Packaging: Concepts and General Principles (情報のラッピング:概念及び一般原理) 第3回 Non-focus Complement Preposing (非焦点補文前置) 第4回 Focus Complement Preposing (焦点補文前置) 第5回 Postposing (後置文) 第6回 Subject-Dependent Inversion (主語依存前置) 第7回 Existential Construction (存在文) 第8回 Presentational Construction (提示文) 第9回 Extra-position (外置文) 第10回 Left Dislocation (左方転移) 第11回 Right Dislocation (右方転移) 第12回 It-Clefts (It 分裂文) 第13回 Pseudo-Clefts (擬似分裂文) 第14回 Syntax of the Passive (受動態の統語論) 第15回 Passive Voice: Pragmatic Factors (能動態と受動態の選択に関わる語用論的要因)	【予習】授業の内容予定に従い、文献(Huddleston, Rodney & Geoffrey K. Pullum 2002. The Cambridge Grammar of the English Language, Cambridge University Press. の第16章 Information packaging)の精読が予習として求められる。 【復習】文献の内容を深く理解し、レポートを作成するために、復習が求められる。	言語学関連	-	-	神尾昭雄・高見健一 1998『談話と情報構造』研究社出版 久野謙 1978『談話の文法』大修館書店 高見健一 1995『機能的構文論』による日英比較-受身文、後置文の分析-『くろしお出版 Chomsky, N. 1995. The Minimalist Program. The MIT Press. 島山雄二・本田謙介・田中江扶 2015.『日英比較構文研究』開拓社 福地肇 1985『談話の構造』大修館書店 Rochemont, M. S. 1986. Focus in Generative Grammar. John Benjamins Publishing Company. ※必要に応じて適宜紹介する。	【授業のテーマ及び到達目標】がどの程度達成できているかという観点で、平常評価(質疑応答(発言)(20%)・発表(30%)・レポート(50%))の結果を総合して、評価する。	演習	演習形式(文献講読及び解説)	言語文化論(英語学・統語論・言語構造論)の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化教育科目『英語学B』『英語学演習B』及び英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。	火曜日 5・6 時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし	
108	108	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	語彙意味論 (Lexical Semantics)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	木村 宣美	-	レベル5	生成文法の語彙概念構造に基づく意味理論(語彙意味論)の基礎を身につけること	動詞の意味研究を通じて、生成文法の語彙概念構造に基づく意味理論への理解を深める。	【予習】授業の内容予定に従い、文献(影山太郎著 1996『動詞意味論-言語と認知の接点-』くろしお出版)の精読が予習として求められる。 【復習】文献の内容を深く理解し、レポートを作成するために、復習が求められる。	言語学関連	-	-	影山太郎著 1996『動詞意味論-言語と認知の接点-』くろしお出版 小野尚之 2005『生成語彙意味論』くろしお出版 中石実 1994『認知意味論の原理』大修館書店 中村捷 2003『動詞意味論』開拓社	【授業としての具体的到達目標】がどの程度達成できているかという観点で、平常評価(質疑応答(発言)(20%)・発表(30%)・レポート(50%))の結果を総合して、評価する。	演習	演習形式(文献講読及び解説)	語彙意味論(英語学・意味論)の理解を深める上で、人文学部人間文化課程欧米文化コース開設の英語学・言語学関連専門教育科目を履修していることが望ましい。	火曜日 5・6時限 [12:40-14:10]	hukimura(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし		

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英名〕	(5)対象年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形態・授業方法	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
109	109	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	日本語史論 (Japanese Language History)	1, 2	選択科目	2	前期集中	集中講義	川瀬 卓 (非常勤講師)	-	レベル5	語彙史を記述するうえで必要な観点、アプローチの方法を身につけること それをふまえたうえで、語彙史に関する課題を自ら見出し、解決することができるようになること	語彙史に関して多角的観点から検討した、安部清哉他(2009)『シリーズ日本語史2 語彙史』(岩波書店)を読み進めていきます。	第1回 導入 第2回 第1章 語彙史研究と語彙のカテゴリー(1) 第3回 第1章 語彙史研究と語彙のカテゴリー(2) 第4回 第2章 語彙史としての語構成史(1) 第5回 第2章 語彙史としての語構成史(2) 第6回 第3章 意味から見た語彙史(1) 第7回 第3章 意味から見た語彙史(2) 第8回 第4章 漢語から見た語彙史(1) 第9回 第4章 漢語から見た語彙史(2) 第10回 第5章 文体・位相から見た語彙史(1) 第11回 第5章 文体・位相から見た語彙史(2) 第12回 第6章 計量語彙論から見た語彙史(1) 第13回 第6章 計量語彙論から見た語彙史(2) 第14回 第7章 文化から見た語彙史(1) 第15回 第7章 文化から見た語彙史(2) ※授業の進度に応じて、内容を変更することがあります。	[予習]集中講義です。授業開始時までに教科書をあらかじめ読んでおいてください。また、授業で直接取り扱うのは語彙史ですが、日本語史全般の基礎知識を身につけるために、何か1冊日本語史の入門書・概説書(シラバスの参考文献にあげてあるものなど)を読んでおくことが望ましいです。 [復習]講義期間中は、毎日授業内容の要点を見直すようにしてください。また、必要に応じて参考文献(『(22)参考文献』)に挙げられているものに限らず、教科書で紹介されているものや自分で探したものも含む)に当たり、理解を深めてください。	言語学関連	文学関連	安部清哉・斎藤倫明・岡島昭浩・半沢幹一・伊藤雅光・前田富謀(2009)『シリーズ日本語史2 語彙史』岩波書店 沖森卓也編著(2010)『日本語史概説』朝倉書店 木田章義編(2013)『国語史を学ぶ人のために』世界思想社 仁田義雄 他著(2009)『改訂版 日本語要説』ひつじ書房 その他、授業時に随時紹介します。	授業の参加度(30%)、レポート(70%)	講義及び演習	質疑応答、討論を交えながら、講義形式で進めていきます。	概念や用語を単に覚えるだけではなく、それらの関係性やある結論に至るまでの考え方を理解するようにしてください。また、自分なりの問題意識を持つように心がけてください。	なし	なし	ksuguru_posaune42(at)yahoo.co.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	
110	110	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	国際言語研究 (International Language Studies)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	バトラー、アラステア	-	レベル5	Undertaking research work into international language studies can involve spending a lot of time doing simple, mechanical data manipulation – collecting data, checking its validity, finding items with some property, viewing words in context, and the like. This course will show you how to mechanise such tasks. This will save you hours of time and empower you to take your language studies further than is otherwise possible.	The course will focus on what is possible from the UNIX command line and with the AWK programming language.	Week 1: Basic UNIX programming. Week 2: Learning to use the command line. Week 3: The AWK programming language (one-liners). Week 4: The AWK programming language (input-output). Week 5: The AWK programming language (functions). Week 6: Data Processing Week 7: Data Processing Week 8: Reports and Databases Week 9: Reports and Databases Week 10: Processing Words Week 11: Processing Words Week 12: Little Languages Week 13: Little Languages Week 14: XML Week 15: XSLT	Students should be ready to participate in the class activities using English. 英語を使って授業に参加できるように準備してきてください。	言語学関連	学際・新領域	思想関連	A・エイホ、B・カーニハン・P・ワインバーガー『プログラミング言語 AWK』足立高徳訳、ユニバーサル・シュル・プログラミング研究所、2010年1月。ISBN 978-4-904807-00-2。ユニバーサル・シュル・プログラミング研究所から3度目の復刊がなされた。	References will be provided during the course.	In course participation 30%, exercises 30%, final report 40%.	演習	You will be studying example programs and writing programs of your own.	毎回の受講前に十分に予習し、何を理解し、理解できなかったかを明確にしておくことが重要で、疑問点等は授業の中で明らかにするように努めましょう。	4:00 PM-5:30 PM on Monday Students need to make an appointment in advance.	ajb129(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
111	111	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	現代フランス研究 (Research on France)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 5・6時限	奈蔵 正之	-	レベル5	フランスの社会、政治、外交などについて基本的な知識を獲得した後、さまざまな今日のトピックについて検討を行い、以上について主体的な考察を行うこと	この授業の眼目は「フランスの現在」を理解することにあります。そのために、フランス社会のさまざまな特色や、政治の仕組み、外交のありかたなどについて多角的に学びます。 それに加えて、フランスの新聞やテレビニュースなどからホットな話題を抽出し、それについて検討や議論を行います。 2018年の大統領選挙で当選した若き大統領エマニュエル・マクロンは、大胆な改革とEUとの強調を掲げましたが、その改革路線は痛みも多く、以前からの社会的矛盾も加わって、「黄色いベスト運動」に見られるような反発を引き起こしています。他方、Brexit(英EU離脱問題)の行方によっては、EU内におけるフランスの役割が大きく変化する可能性があります。 国際的な視点を養うために、フランスをケーススタディとして多角的な学習を行います。	第1回: フランスの概要 第2回: フランスの政治システム 第3回: フランス第五共和制の歴史 第4回: フランス政治の現状 第5回: フランス外交の特色 第6回: フランス外交の課題 第7回: フランス社会の特色 第8回: フランスにおける少子化対策 第9回: フランスの教育システムと教育問題 第10回: フランスの社会保障 第11回: フランスにおける移民問題 第12回: テロ問題とフランス 第13回: フランス文化の特色 第14回: 20世紀のフランス文化 第15回: 現代のフランス文化	授業で指示します。	社会学関連	政治学関連	現時点では特に決まっていません。受講生と相談して適宜テキストを選びます。	授業中に適宜支持されます。	平常の授業活動、および、数回の小レポートを合計して評価されます。	講義	受講生が多くないので、ゼミ形式に近くなります。毎回簡単な課題を提示し、それについて調べてきたことを次の授業で発表し、それを足がかりにディスカッションを行い、必要となる知識や情報を教員が補います。	1) 受講生の持つ予備知識に応じて、授業内容の難易度、専門性が変化します。かなり専門性の高い事柄について研究するような授業になることもあれば、基礎的な知識の習得を促すような授業になるかもしれません。 2) 受講生全員がフランス語既修者の場合、フランス語の文献や新聞記事の抜粋が使用されることがあります。	月曜7・8時限 それ以外の時間でも随時受け付けますので、まずメールに よってアポイントメントを取って下さい。	nagura@hirosaki-u.ac.jp	特になし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
112	112	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	ヨーロッパ文明論 (European Civilization Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 7・8時限	齋藤 義彦	-	レベル5	現代国際社会に近代文明をもたらしたヨーロッパ文明の普遍性を、歴史的資料やヨーロッパ思想史の資料を検討することにより、その歴史的特殊性から理解・考察し、専門的な視点を獲得すること	アルファベット、欧州諸語、活版印刷術、新聞、ラジオ、テレビ、デジタル機器などのメディア史に留意して近代文明の理解を深める。また、この近代化の過程の中でヨーロッパが自己主張するに至った文明プロセスを検証する。	(1)ヨーロッパ文明とは何か (2)アルファベットとヨーロッパ (3)古代ギリシャ文明とヨーロッパ (4)古代ローマ文明とヨーロッパ (5)フランク王国とヨーロッパ (6)欧州諸語とヨーロッパ (7)活版印刷術とヨーロッパ (8)新聞とヨーロッパ (9)ラジオとヨーロッパ (10)テレビとヨーロッパ (11)デジタル時代のヨーロッパ (12)ヨーロッパとアメリカ (13)ヨーロッパと日本 (14)ヨーロッパと世界 (15)総括	【予習】各回のテーマについて関心を持ち講義にのぞむようにする。 【復習】各回の講義内容を振り返り、関連する事柄を調べるなど、各自積極的な復習を必要とする。	歴史学関連	文化人類学関連	思想関連	開講時に決定します	マクルーハン『メディア論』	授業での成果(30%)とレポート(70%)を総合的に評価します	演習	演習形式	特になし	月曜7・8時限または昼休み時間	yosihiko@hiroasaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください	なし
113	113	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	ジェンダー人類学 (Gender Anthropology)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	杉山 祐子	-	レベル5	ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究の流れを理解すること 人類学研究におけるジェンダー視点の可能性と課題を知ること 上記を総合して、自身の研究を展開する上での手がかりを得ること	この授業ではさまざまな「差異」の文化性・社会性を考える手がかりとして、ジェンダーを取り上げます。日本を含むアジア諸地域、欧米、アフリカなどさまざまな地域における事例をもとに、ジェンダーのありようの多様性を理解するとともに、ジェンダーの視点を組み込んだ諸研究を概観することによって、人間の社会や文化の多様性にせまるアプローチを考えます。さらに、ジェンダー視点を組み込むことによる研究の展開可能性と課題について考え、開発が日常化した現代におけるジェンダーのありようその他の差異について検討します。	(1)概論 1回 イントロダクション 2回 ジェンダーをめぐる議論の展開(1):前史 3回 ジェンダーをめぐる議論の展開(2):生成 4回 ジェンダーをめぐる議論の展開(3):展開 (2)社会とジェンダー、セクシュアリティ 5回 組織化と帰属 6回 権利と継承、地位をめぐる議論 7回 生産と再生産? 8回 中間まとめ (3)文化を語ることとジェンダー、セクシュアリティ 9回 事例紹介1:現金獲得と生計におけるジェンダー 10回 事例1の検討 11回 事例紹介2:開発とジェンダー 12回 事例2の検討 13回 事例紹介3:新たな組織化とジェンダー 14回 事例3の検討 15回 まとめと総合討論	予習として、指定したテキストや文献、資料を十分に読み込み、質問やディスカッションでのコメント等を用意してきてください。	文化人類学関連	社会学関連	学際・新領域	宇田川 妙子・中谷文美編『ジェンダー人類学』(世界思想社)、松園万亀雄編『性の文脈』雄山閣、田中由美子『近代化は女性の地位をどう変えたか?』その他、授業進行に伴い紹介します。	授業での発表、ディスカッションの内容および適宜課する課題等を総合的に評価します。	演習	講義、演習方式で進めます。授業時間内でのディスカッションに積極的に参加してください。	予習、復習を十分にしてください。	水曜12:00-12:30	yukos@hiroasaki-u.ac.jp	とくになし	
114	114	人文社会科学部 文化科学研究科 国際人材育成コース	平和構築論 (Peace Building)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 1・2時限	フルト、フォルカー	-	レベル5	英語の専門書の読解と考察を通じて、紛争の解決手段としての平和構築の科学的なアプローチ、実績と問題点を理解すること	授業内容の予定と形式・方法を参照。	1) 平和構築への入門、テキストの紹介 第2回～第6回 平和構築の概要と理論的なアプローチ 2) The evolution of peacebuilding (平和構築の発展) 3) International relations theory and peacebuilding (国際関係理論と平和構築) 4) Social psychology and peacebuilding (社会心理学と平和構築) 5) Sociology and peacebuilding (社会学と平和構築) 6) History and peacebuilding (歴史学と平和構築) 第7回～第11回 平和構築のコンセプトと方法 7) Securitization and peacebuilding (安全保障化と平和構築) 8) Peacekeeping and humanitarian intervention (平和構築と人道的介入) 9) Security sector reform (治安部門改革) 10) DDR (disarmament, demobilization and reintegration) (武装解除・動員解除・社会復帰) 11) Peacebuilding, law and human rights (平和構築・法・人権) 第12回～第15回 平和構築のインフラストラクチャー 12) The international architecture of peacebuilding (平和構築の国際構造) 13) The political economy of peacebuilding (平和構築の政治経済学) 14) Statebuilding (国家建設) 15) Civil society (市民社会)	専門的な文献に対応できる程度の英語読解力が必要です。予習:毎回事前に指定の1章を準備すること。 復習:授業で取り上げたテキストについての考察・議論に基づいて、指定のテーマについてのレポートの提出(2~3回)	政治学関連	社会学関連	社会学関連	Roger Mac Ginty (ed.): Routledge Handbook of Peacebuilding (Abingdon et al.: Routledge, 2013) Jeffrey Haynes et al.: World Politics, International Relations and Globalization in the 21st Century (2nd Edition, London et al.: Sage, 2017)	篠田英朗『平和構築入門 その思想と方法を問う』筑摩書房2013年 藤原一他(編)『平和構築入門』有斐閣2011年	授業への積極的な参加とレポートの提出(2~3回)	演習	対話形式(日本語)で専門的な英語文献分析。第2回から毎回の授業の前に15-20ページ程度の上記のテキストの部分を準備することが必須です。	(17)準備学習(予習・復習)等の内容を参照	木曜日3・4時限(昼休みを含む)または予約で随時	fuhrt(at)hiroasaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
115	115	人文社会科学部 地域社会学 (Urban and Rural Sociology)	地域社会学 (Urban and Rural Sociology)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	白石 社一郎	地域志向科目	レベル5	論文6-7本分ほどの内容を基礎知識とともに平易に噛み砕きながら学び、そこから議論する力、まとめて書く力をつけていくこと	後期近代以降に顕著となったUターン・Jターンなどの人口還流。現在に至るまでのその質的転換と、近年言われる若年層の地元志向について学ぶ。	参考文献を各自が予習(レジュメ担当での講義はなし)	社会学関連	文化人類学関連	テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。	適宜紹介する。	講義への参加、議論、短いレポート	講義	文献内容をもとにした講義が6割、それをふまえた議論が4割	予習をふまえて聴講と議論をする。	水曜日昼休み~14:00。なお、履修希望者は第1回講義前に白石研究室(人文331)まで。	http://hiroasaki.ums.ac.jp/spot.com	なし		

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英文)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
117	117	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	応用社会学 (Applied Sociology)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	平井 太郎 (地域社会研究科)	地域志向科目	レベル5	社会のありかたを複眼的に捉え洞察する能力を養うこと 修得した専門知識により持続可能な社会形成に資する能力を養うこと	持続可能な将来像という地域のビジョンの実現には、社会科学から自然科学に至る広範な学問的知見を、現場の当事者が地域の文脈に沿って位置づけなおす必要がある。そうした学問的知見のローカルな文脈化に求められる方法論については、社会学分野では「応用社会学」や「公共社会学」といった名の下に試行錯誤が続いている。本授業では、そのような現在進行的な学問的探究の背景を理解するとともに、それらの方法論を受講者自身も駆使し、さらには自ら更新したりできるよう、実践的に修得する。	授業計画 第1回:オリエンテーション:「応用社会学」と「公共社会学」について概観する。 第2回:応用社会学が目指したもの:1940年代から60年代までのP・ラザースフェルドによる応用社会学の試みを確認する。 第3回:公共社会学の問題提起と日本的展開:2000年代以降の米国での公共社会学の提起とそれを受けた日本での議論を概観する。 第4回:初期のアクション・リサーチ(AR)の射程:1940年代、K・レヴィンが提唱・展開したARの企図とその背景を確認する。 第5回:アクション・リサーチの拡張:1950年代以降、Tグループなどを経て、小集団から拡張されたARの展開を確認する。 第6回:アクション・リサーチの4つの手法:ARの基本的な諸手法を学ぶ。 第7回:地域の経験知を言語化する地元学:ARの手法の1つである地元学について、提唱された背景や具体的手法、それによる地域社会の変化について確認する。 第8回:集団のビジョンを言語化するコンセプト・マッピング:ARの手法の1つであるコンセプト・マッピングについて学ぶ。 第9回:集団のビジョンを行動に結びつけるワークショップ:ARの手法の1つであるワークショップについて、その背景や基本的な考え方を確認する。 第10回:参加型調査としてのワークショップ:ワークショップがもつ参加型調査としての側面を学び、実践と研究への展開手法を議論する。 第11回:参加型調査を成立させる研究者の関わり方:第三者としてではなく当事者の1人として現場に関わることはどういうことなのかを確認する。 第12回:ケーススタディ『アクション・リサーチ』:社会心理学におけるARの具体例を素材に議論する。 第13回:ケーススタディ『「新しい野の学問」の時代へ』:民俗学におけるARの具体例を素材に議論する。 第14回:ケーススタディ『人びとの自然再生』:社会学におけるARの具体例を素材に議論する。 第15回:総括と展望:講義の内容を総括すべく振り返りを行う。	[予習]出された課題に取り組み。 [復習]出された課題に取り組み。	社会学関連	政治学関連	社会学関連	『ふだん着の地域づくりワークショップ』(平井太郎著、筑波書房、2017年刊) 『応用社会学』(P・ラザースフェルド他著、松下武志他訳、恒里社、1989年刊)	『「新しい野の学問」の時代へ』(菅豊著、岩波書店、2013年刊) 『人びとの自然再生』(宮内泰介著、岩波書店、2017年刊) 『アクション・リサーチ』(矢守克也、新曜社、2010年刊)	課題提出 100%	演習	演習	なし	of-hirai@nifty.com に問い合わせること。	of-hirai@nifty.com	なし
118	118	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	財政学 (Public Finance)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	金目 哲郎	-	レベル5	現代財政をめぐる諸論点について、理論・制度・実証の視角から検討します。財政学の視点から、現代社会が直面する諸問題の現状分析と将来展望を行います。	第1回 ガイダンスおよび講義、現代財政を学ぶ視点 第2回 受講生による報告と討論(現代財政の課題と特徴) 第3回 受講生による報告と討論(財政思想と財政社会学) 第4回 受講生による報告と討論(近現代財政の展開) 第5回 受講生による報告と討論(財政の政策決定過程、予算と税制改革) 第6回 受講生による報告と討論(経費) 第7回 受講生による報告と討論(租税の理論) 第8回 受講生による報告と討論(租税の国際比較と日本税制) 第9回 受講生による報告と討論(公債) 第10回 受講生による報告と討論(政府間財政関係) 第11回 受講生による報告と討論(日本の地方財政) 第12回 受講生による報告と討論(公企業と財政投融資) 第13回 受講生による報告と討論(社会保障と教育の財政制度) 第14回 受講生による報告と討論(経済政策と財政金融) 第15回 受講生による報告と討論(グローバル化と財政) 授業の進行状況や選定する文献等により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。	毎回、報告用のレジュメを作成する必要があります。	経済学関連	-	-	第1回目の授業で指示します。なお、受講生の関心に基づき、下記の参考文献や他のテキストを購読することも可能です。初回ガイダンス時に相談のうえテキスト等を選定します。このほか、必要に応じて資料を配付します。	門野圭司編著『生活を支える社会のしくみを考える』(2019)日本経済評論社 池上岳彦編『現代財政を学ぶ』(2015)有斐閣ブックス 井手英策『経済の時代の終焉』(2015)岩波書店 上記のほか、必要に応じて授業時に提示します。	レジュメの報告:80% 討論の内容:20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	演習	輪読方式です。受講生によるレジュメ報告に基づき、討論します。このほか、必要に応じて教員が配付資料を用意し、財政学に関する基本的事項を説明する場合があります。	特になし。	水曜日12時~13時(他の曜日・時限でも可)	kaname-t(at)hiroshiro-aki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし。	
119	119	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	日本経済論 (The Japanese Economy)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	黄 孝春	-	レベル5	りんごの輸出拡大の課題をよく理解したうえでそれを解決するための政策立案につなげる能力を養うこと、りんごの輸出拡大につなげる実践力を身につけること	第1回 イントロダクション 第2回 農水産物の生産と流通 第3回 農水産物の貿易 第4回 東アジア経済共同体と農業 第5回 世界のりんご産業(生産・流通・貿易)(1) 第6回 世界のりんご産業(生産・流通・貿易)(2) 第7回 日本のりんご産業(1) 第8回 日本のりんご産業(2) 第9回 戦後日本の農水産物貿易とりんご 第10回 台湾向けりんご輸出(1) 第11回 台湾向けりんご輸出(2) 第12回 中国大陸市場への取り組み 第13回 東南アジア市場への取り組み 第14回 りんご産業の今後 第15回 まとめ	地元のりんご産業に関する課題を提示して事前に調べてもらいます。	経済学関連	経営学関連	-	黄孝春・平本和博『りんごをアップルとは呼ばせない』弘前大学出版会	授業中で適宜紹介します。	授業への取組とレポートによって評価します。	講義	PPTを使いながら授業を行う予定です。	地元の新聞に出てくるりんごの関連ニュースを読んでほしい。	水曜日12:00~13:00	huang@hiroshiro-aki-u.ac.jp	とくになし	
120	120	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	国際経済学 (International Economics)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 3・4時限	桑波田 浩之	-	レベル5	グローバル化が進み複雑さが増す社会を、経済理論に基に正しく理解することができること 経済理論を応用して、現実の問題に対する解決策を提案することができること	国際経済学の基礎的な理論を学ぶ、制度や歴史的な側面の説明は必要最小限にとどめ、ミクロ経済学の基本的な考え方の応用に重点をおく。具体的には、リカード・モデル、ヘクシャー=オリーンのモデル、完全競争下の貿易政策を扱う。	毎回、事前に教科書を読み、分からない点を明らかにしておくこと。授業後は、授業で配る演習問題を復習して知識の定着を図ること。	経済学関連	応用数学関連	-	若杉隆平『国際経済学 第3版』岩波書店	大川昌幸『国際経済学』新世社 石川城太・椋寛・菊池徹『国際経済学をつかむ 第2版』有斐閣 若杉隆平(編)『現代日本企業の国際化―パネルデータ分析―』岩波書店	定期試験 90%、平常点 10%	講義	講義はスライドによる講義形式とする。	学部レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。	水曜日・2・3・4限(メールを買い入れれば、他の時間帯でも対応可能)	kuwahata@hiroshiro-aki-u.ac.jp	なし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
121	121	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	労働法 (Labor and Employment Law)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時限	成田 史子	-	レベル5	日本における労働法の各テーマについて、その論点を整理し、学説・判例等を分析したうえで理解すること 外国法との比較を行うことで、日本の現行規制の問題点を客観的に捉えること	労働法の各テーマについて、日本法の検討を中心に行う。 その際、文献を用いて学説を整理・検討し、重要判例の検討を行う。 また、必要に応じて外国法、とりわけドイツ法との比較検討を行う。 以上の作業を通じ、日本の現行規制の問題点を客観的に捉え、解釈論または立法論的検討を行う。	第1回: ガイダンス 第2回: 労働時間に関する現行規制 第3回: 労働時間に関する学説 第4回: 労働時間に関する判例 第5回: 就業規則に関する現行規制 第6回: 就業規則に関する学説 第7回: 就業規則に関する判例 第8回: 解雇に関する現行規制 第9回: 解雇に関する学説 第10回: 解雇に関する判例 第11回: 非正規労働に関する現行規制 第12回: 非正規労働に関する学説 第13回: 非正規労働に関する判例 第14回: 比較法検討①(労働時間・就業規則) 第15回: 比較法検討②(解雇・非正規労働) 第15回: 解釈論・立法論的検討 (※講義の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明する。)	報告担当箇所について、毎回レジュメを作成すること。 報告担当ではない場合も、使用する文献・判例等をしっかりと読んでおくこと。	法学関連	-	-	○水町勇一郎『労働法〔第7版〕』(有斐閣、2018年)(3,400円+税) ○村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選〔第9版〕』(有斐閣、2016年)(2,400円+税) ○最新の六法(出版社は問わない) (※その他使用する文献や判例については、適宜指示する。)	特になし。	平常評価: 70% 期末評価(期末レポート): 30%	演習	毎回、割り当てられた文献や判例などをレジュメにまとめ、報告を行う。 その後、受講者全員で議論を行う。	毎回の予習をしっかりと行うこと。	火曜1・2限目。	http://hu.e2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/100000551_ja.html	特になし。
122	122	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	憲法 (Constitutional Law)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 5・6時限	河合 正雄	-	レベル5	日本国憲法を解釈するにあたって、英米独自の憲法学を参照する意義を理解できること 比較憲法の視点を取り入れた上で日本国憲法を解釈できること	日本を代表する憲法研究者の著書を輪読します。英米法・ドイツ法・フランス法の概念が数多く出てきますが、一緒に学んでいきましょう。	第1回: 日本の憲法学と比較憲法の意義(河合)、今後の方針決め 第2回: 広義の人権と狭義の「人」権(7-24頁) 第3回: 歴史のなかの人権(25-42頁) 第4回: 「人」権—個人が解放・放出されることの意味(43-69頁) 第5回: 「人」権と文化の多元性、権利の諸類型(70-89頁) 第6回: 前半部分に関する研究報告 第7回: 基本権論の言説空間(91-114頁) 第8回: 私的自治 v. 憲法価値(115-132頁) 第9回: 市場 v. 公序・家族 v. 公序(133-148頁) 第10回: 宗教 v. 公共社会、マイノリティ v. 個人(149-169頁) 第11回: 制度 v. 個人権、自己決定 v. 人間の尊厳、対立主義 v. 対立主義の相対化(170-189頁) 第12回: 「いかに」の権利論 v. 「なぜ」の権利論、「立憲主義」シンボルの復権(190-203頁) 第13回: 違憲審査制の構造、「法の支配」か「裁判官統治」か(204-233頁) 第14回: 基本権保障の「国際化」(235-263頁) 第15回: 後半部分に関する研究報告 授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	学習効果を高めるために、報告を担当されない場合も、事前にテキストを熟読してください。	法学関連	-	-	樋口陽一『国法学人権原論(補訂)』(有斐閣、2007年)10,800円+税(オンデマンド)	奥平康弘『憲法Ⅲ—憲法が保障する権利—』(有斐閣、1993年)10,800円+税(オンデマンド)	報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。	演習	担当者による20分程度の報告(テキストの要約と検討)の後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。	テキストはやや難解ですが、比較憲法学に興味関心がある方を歓迎します。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らずに在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hu.e2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/100000700_ja.html	特になし。
123	123	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	行政学 (Public Administration)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 9・10時限	児山 正史	-	レベル5	行政に関するさまざまな知識・見方を身につけた上で、行政の諸問題について論じられるようになること	行政に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、行政に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。	詳細については受講者の関心に応じて決定します。 参考までに、例えば、下記のような内容で行います。 (D. オズボーン他『行政革命』を主な教材とする場合。) 第1回 イントロダクション 第2回 アメリカの行政改革 第3回 触媒としての行政 第4回 地域社会が所有する行政 第5回 競争する行政 第6回 使命重視の行政 第7回 成果重視の行政 第8回 顧客重視の行政 第9回 企業化する行政 第10回 先を見通す行政 第11回 分権化する行政 第12回 市場志向の行政 第13回 日本の行政改革 第14回 日本の総合計画 第15回 日本の行政評価	文献を読んだ上で、その要点を発表できるように準備する必要があります。	政治学関連	-	-	受講者の関心に応じて決めます。	授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。	平常評価(文献の理解度、授業中の発言など)。	演習	受講者が文献の要点を発表し、教員が補足説明し、相互に討論します。	初回の授業に出席する際に、行政の何に関心があるかを考えておいてください。	金曜日7・8時限(他の曜日・時限でも可)。	koyamatd@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。
124	124	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	工業経済学 (Industrial Economics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 7・8時限	細矢 浩志	-	レベル5	資本主義工業にかんする基礎知識を習得すること 複雑な経済社会を読み解くための問題設定の方法や経済学的な思考力を身につけること 知識や理解したことを文章として表現できるようになること	資本主義システムにおける工業活動の法則的・体系的把握に関する諸問題を、主要文献・資料の講読・討論を通じて、理論と実証の両面から分析・検討します。	第1回: イントロダクション: 授業内容の紹介 第2回: 現代工業と工業経済論 第3回: 産業革命と工業化の進展(1)~イギリス産業革命と工業化の進展 第4回: 産業革命と工業化の進展(2)~アメリカ産業革命と工業化の進展 第5回: 資本主義的工業の基礎理論(1)~労働過程と価値増殖過程、剰余価値率と労働日 第6回: 資本主義的工業の基礎理論(2)~資本主義的生産様式、協業と分業、機械と大工業 第7回: 独占段階の工業と資本蓄積(1)~資本の集中・集積と独占の形成 第8回: 独占段階の工業と資本蓄積(2)~独占的結合の諸形態・カルテル、トラスト 第9回: 独占段階の工業と資本蓄積(3)~独占的結合の諸形態・金融資本 第10回: 独占段階の工業と資本蓄積(4)~独占による市場支配=競争制限 第11回: 独占段階の工業と資本蓄積(5)~独占的蓄積の社会的性格・フォードシステム 第12回: 独占段階の工業と資本蓄積(6)~独占的蓄積の社会的性格・独占利潤と支配利潤 第13回: 現代日本の工業経済 第14回: グローバル化とアジア工業化 第15回: 小括と展望 *授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	[予習]各テーマについて必要な資料・文献を読みレジュメを用意してください。 [復習]配付資料等を見直しノートを整え知識を確実なものにしてください。	経済学関連	経営学関連	政治学関連	金田重喜編『親版・現代工業経済論』創風社、2000年	仲村静治『現代工業経済論』汐文社、1973年 坂本和一『現代工業経済論』有斐閣、1988年 マルクス、カール(資本論翻訳委員会訳)『資本論』新日本出版社 その他、授業中に適宜指示します	レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合して評価します。	講義及び演習	演習形式(レポート作成・報告、ディスカッション)	標準的な経済学(政治経済学、マクロ・ミクロ経済学)にかなう基礎知識を修得していることが前提となります。	月17:40~18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
125	125	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	労働経済学(Labor Economics)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	李 永俊	-	レベル5	労働経済学の基礎的な理論の枠組みを理解し、労働政策の経済学的な評価ができるようになること	本講義では、労働市場の諸問題について文献の輪読と討論を通して検討することを目的とする。日本の労働市場が抱える諸問題の中で、人口減少問題に焦点を当てて講義を進める予定である。また、人口減少に対する対策を経済学の視点で多角的に評価することを試みる。より詳細な内容は開講時に担当教員に確認すること。	第1回 イントロダクション 第2回 労働経済学とは 第3回 労働供給理論 第4回 労働供給理論 第5回 労働市場の均衡 第6～8回 人口減少の実態 第9～10回 若年者の労働移動の実態とその理由 第11～13回 青森県の労働市場 第14～15回 人口減少に対する対策案を考える	毎回の授業で輪読する部分を事前に読んで、報告レジメを準備するようにしてください。	経済学関連	-	-	特になし	太田聡一(2010)『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社 太田聡一(2010)『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社 石黒・李・杉浦・山口(2012)『東京』に出る若者たち—仕事・社会関係・地域間格差—ミネルヴァ 書房 増田寛也(2014)『地方消滅—東京—極集中が招く人口急減』中公新書 川口大司(2017)『労働経済学—理論と実証をつなぐ』有斐閣	平常評価(平常の発表など):20% 中間評価(中間発表など):30% 期末評価(最終報告、期末レポート):50%	講義	講義形式と演習形式を併用します。	特になし	毎週水曜日 午前10時00分～12時00分	yilee@hiro-saki-u.ac.jp	特になし
126	126	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	刑法(Criminal Law)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 3・4時限	平野 潔	-	レベル5	刑法に関する高度な専門知識を身につけ、それに基づいて現実社会において生じている問題を刑法的な視点から分析することができること 刑法の基本的な考え方を身につけた上で課題に取り組むことにより、刑法の意味や国家刑罰権の在り方などに対する深い洞察を行うこと	刑法の最新の話題に関する論文・判例を素材として、まずは専門知識を会得します。その上で、現在問題になっている種々の問題についての解決方法を、受講者同士で議論し、洞察を深めていきます。	(予習)次回の課題文献・判例に目を通し、理解できない部分がないようにしておいてください。 (復習)授業の中で生じた疑問について調べ、より深い理解ができるように努めてください。	法学関連	-	-	とくに指定しません。	川端博『集中講義 刑法総論 第2版』(1997年、成文堂) 川端博『集中講義 刑法各論』(1999年、成文堂) 山口厚=佐伯仁志編『刑法判例百選①総論 第7版』(2014年、有斐閣) 山口厚=佐伯仁志編『刑法判例百選②各論 第7版』(2014年、有斐閣) (4冊とも図書館に配架済みです)	授業における報告および発言(80%)と期末レポート(20%)を合算して評価します。	演習	第1回の講義時に担当者を決めます。その担当者が報告を行い、その報告に基づいて参加者全員で議論します。	少なくとも学部における刑法総論・各論の基本的な知識は必要です。	木曜1・2限(8:40～10:10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただし、その場合には、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにしてもらえると助かります。	k-hirosaki@u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	
127	127	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	マクロ経済学(Macroeconomics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	山本 康裕	-	レベル5	持続的経済成長のメカニズムを理解すること 動学的なマクロ経済モデルにおける国民所得、物価上昇率、利子率の変動を理解すること 上記2点の理解により適切なマクロ経済政策を選択できる実践力を習得すること	まず人口成長を伴わない経済成長論を学び、その後人口成長と技術進歩を導入した経済成長論を学習する。 次に、動学的総供給曲線と動学的総需要曲線から構成されるマクロモデルを検討することで、動学的な枠組みにおける国民所得、物価上昇率、実質利子率の決定メカニズムを学んでゆく。 最後に、より高度な消費理論・投資理論及び経済政策のあり方に関わる理論を検討して、講義を終える。	この講義の予定は下記となる。 第1回 講義のガイダンス 第2回 人口成長を伴わないソローモデル 第3回 人口成長を伴うソローモデル 第4回 人口成長及び技術進歩を伴うソローモデル 第5回 新しい経済成長論 第6回 総需要・総供給分析とフィリップス曲線 第7回 動学的総供給曲線 第8回 動学的総需要曲線 第9回 総供給へのショックと総需要へのショック 第10回 消費理論 第11回 投資理論 第12回 経済安定化政策 第13回 政府負債と財政赤字 第14回 金融危機 第15回 まとめ 第16回 期末試験	予習は、講義にて指定した教科書を読み、その内容をレジメにまとめることである。復習は、講義にて学習した内容にしたがいレジメを加筆・修正することである。	経済学関連	経営学関連	法学関連	講義にて指定する	講義にて紹介する	輪読における参加度30%と期末試験70%で評価します	演習	講義にて指定した教科書を輪読する	人文社会科学部のマクロ経済学II	火曜日7・8時限	公開しません	特になし
128	128	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	ミクロ経済学(Microeconomics)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 7・8時限	小谷田 文彦	-	レベル5	ミクロ経済学の基礎理論である消費者の効用最大化、企業の利潤最大化行動を理解したうえで、ミクロ経済学の理論に基づいた経済問題に対する考え方を理解すること	八田達夫著『ミクロ経済学 Express』を用いて基礎的なミクロ経済学と経済問題への応用を学ぶ。	[予習]次週の講義で取り上げる章を良く読んでください。 [復習]講義内容の理解を確実にし、講義で触れなかった部分について自習して下さい。	経済学関連	-	-	八田達夫著『ミクロ経済学 Express』東洋経済新報社(2013年) 武隈慎一著『ミクロ経済学』新世社(1999年)	講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します	講義	講義及び演習	学部レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。	水曜日10時から11時	koyata(at)hiro-saki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし		

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
129	129	人文社会科学部 人文社会科学専攻 総合文化社会研究コース	経済学史論 (History of Economic Thought)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 9・10時限	福田 進治		レベル5	最新の研究成果を理解し、経済学史の全体像を把握すること 経済学史領域の文献的及び理論的研究の方法を身に付けること	この授業では、18世紀から20世紀に至る経済学の成立と発展の歴史的過程を研究しながら、この期間の主要な経済理論・経済思想・経済政策をめぐる諸問題を検討します。	第1回 概要説明 第2回～第5回 古典派経済学の展開 第6回～第10回 新古典派経済学の形成 第11回～第15回 ケインズ経済学の形成	経済学関連			受講者の関心に基づいて決定します。	小畑二郎『経済学の歴史』慶應義塾大学出版会、2014年	平常評価として、平常の口頭発表及び質疑応答の内容と、それらに組み込む姿勢を評価します(50%) 期末評価として、学期終了時に授業全体に関わるレポートを出題し、その内容、課題意識、論理構成、文章表現を評価します(50%)。	演習	受講者の関心に基づいて授業内容及び課題図書を選定し、受講者による口頭発表と質疑応答を軸に授業を進めていきます。	受講の際は、指導教員及び担当教員と十分に相談して下さい。	火曜日～金曜日 12:00～13:00	shinji[at]hirosaki-u.ac.jp	特になし。	
130	130	人文社会科学部 人文社会科学専攻 総合文化社会研究コース	日本経済史論 (Japanese Economic History)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 7・8時限	池田 憲隆		レベル5	日本経済史に関する基本的知見を確認するとともに、最新の研究動向と成果を理解すること	日本経済に関する論点を歴史的観点から資料やデータに基づき考察する。	第1回 ガイダンスとイントロダクション 第2回 日本近世の世界史的位相 第3回 明治維新 第4回 制度変革 第5回 近代工業化の過程 第6回 日清・日露戦争期 第7回 第1次大戦期 第8回 戦間期 第9回 昭和恐慌 第10回 高橋財政 第11回 戦時経済 第12回 戦後復興期 第13回 高度成長期 第14回 1970～80年代半ば 第15回 バブル経済とその崩壊 なお、授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	予め参考資料を配布しますので、それに基づいて予習してください。授業終了後は、論点整理を中心とした復習をおこなってください。	経済学関連	経営学関連	歴史学関連	受講生と相談の上、決定するが、教科書を使用しない場合もある。	速水融・梅村又次・中村隆英編『日本経済史1～8』(岩波書店、1988～89年)が基本文献です。	発表内容や勉強態度などにより総合的に評価します。	講義	毎回配布するレジュメ(講義要旨)と参考資料に基づいて、要点を解説するという講義形式を基本としますが、受講生と相談のうえ、ゼミナール形式を取り入れることもあります。	特になし	木曜日 13:00～14:00	nikeda[at]hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
131	131	人文社会科学部 人文社会科学専攻 総合文化社会研究コース	経営統計学 (Business Statistics)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	花田 真一		レベル5	統計学の基礎を復習すること 統計学を経済学・経営学の分析に生かせるようになること	理論的に学んだ経営学や経済学を、現実の企業や社会の分析に生かすための統計学の基礎について解説する。 統計学は実験室等で取得されたデータの解析にその主眼があり、いわば「きれいな」データを精緻に扱うことに重点が置かれている。 しかし、経営学や経済学で利用されるデータは実社会において取得されるものであるため、誤差やノイズが含まれたデータとなる。 本講義では、その点を考慮し、誤差を取り除いたうえで分析を行う計量経済学の基礎的な内容を解説する。 なお、名称は計量「経済」学であるが、分析手法は経営学の企業分析において幅広く用いられているため、経営学を研究する上でも重要なものとなる。	第1回:ガイダンス 第2回:統計学の復習1:記述統計を用いたデータの整理 第3回:統計学の復習2:確率統計を用いた検定 第4回:統計学の復習3:区間推定と点推定 第5回:単回帰1:線形回帰式と推定 第6回:単回帰2:推定結果の検定・決定係数 第7回:単回帰3:最小二乗法の諸性質 第8回:演習1 第9回:重回帰1:多変数回帰の回帰式と推定、結果の検定 第10回:重回帰2:説明変数の変換、ダミー変数を用いた質的尺度の定量化 第11回:重回帰3:多重共線性、分散不均一、系列相関 第12回:操作変数法 第13回:パネル推定 第14回:演習2 第15回:講義の復習	【予習】事前に配布する講義資料等を読んでおく 【復習】各自の研究関心に応じたデータに、講義で学んだことを当てはめてみる	経営学関連	経済学関連	応用数学関連	特に指定しない。	初回講義で示す	毎回の講義での活動:10% 小レポート:30% 期末レポート:60%	講義	主に講義形式で行うが、可能であれば数回PC演習も行う。	学部レベルの統計学や計量経済学の知識があることが望ましい。 学部において統計学や計量経済学に関する講義を全く受講したことがない場合は、人文社会科学部の統計学入門もしくは統計データ分析Aの講義を並行履修することを勧める。	月曜日 14:30～15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講者の関心や理解度に応じて内容を変更する場合があります。
132	132	人文社会科学部 人文社会科学専攻 総合文化社会研究コース	金融論 (Monetary Economics)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 5・6時限	飯島 裕胤		レベル5	事業資金の調達や投資による資産形成など、企業や公的機関の金融的意思決定をどのように行うべきか、現代的な経済学的手法を援用して明らかにする。ここでは、資産価値の評価方法やリスクの適切な捉え方など、企業や公的機関において直面するであろう金融にとどまらない一般的な政策の分析・評価に必要な技法も習得できる。この講義を通して、資金調達や投資の場面で考慮すべき項目とその内容を理解し、企業や公的機関における金融的な諸業務を適切に運用することのできる能力を養う。	第1回:導入:ファイナンスと財務担当者 第2回:現在価値と資本コスト 第3回:現在価値の計算 第4回:普通株式の価値 第5回:純現在価値が最善の投資決定基準となる理由 第6回:純現在価値ルールによる投資判断 第7回:リスク、リターン、資本コスト入門 第8回:リスクとリターン 第9回:資産支出予算とリスク 第10回:プロジェクトはブラックボックスにあらうか 第11回:正の純現在価値はどこから生まれるのか 第12回:純現在価値の最大化 第13回:企業の資金調達と企業の効率性に関する6つの教訓 第14回:企業の資金調達の概要 第15回:企業はどのように証券を発行するのか	事前にテキストを一読すること	経済学関連	経営学関連	法学関連	R. A. プリーリー、S. C. マイヤーズ『コーポレートファイナンス(上)』日経BP社 R. A. プリーリー、S. C. マイヤーズ『コーポレートファイナンス(下)』日経BP社	授業における毎回の発表とレポートで評価する。	演習	発表形式	導入科目の経済学を受講することが望ましい	月曜日 11:30～12:30	ijima[at]hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし		
133	133	人文社会科学部 人文社会科学専攻 総合文化社会研究コース	地域科学 (Regional Science)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	大橋 忠宏		レベル5	青森を含む地方都市や東京などの大都市、あるいは地域の諸問題を経済学的に理解するために、都市の存在理由や都市システム、都市交通問題などについて青森等の事例を交えつつ議論する。	予定している内容は以下の通り。 第1回:地域科学とは 第2回:都市はなぜ形成されるか 第3回:都市はどこに形成されるか 第4回:都市内の土地市場 第5回:都市内土地市場と地代の決定:単一中心都市 第6回:サブセンターの形成 第7回:都市の外周性と土地利用の規制 第8回:都市規模と都市システムー市場都市と中心地理論 第9回:工業生産における集積の経済と都市システム 第10回:企業間コミュニケーションと都市規模分布 第11回:都市における交通問題ー交通需要と便益 第12回:都市における交通問題ー交通混雑と道路利用、混雑対策など 第13回:都市における公共サービスー都市経済と政府 第14回:都市における公共サービスー地方政府における公共財の供給、など 第15回:地域間交通と空間経済学	事前に教材を一読して授業に臨み、自分の周りの都市や地域を観察して下さい。	経済学関連	経営学関連		黒田達明・田淵隆俊・中村良平:『都市と地域の経済学(新版)』、有斐閣、佐々木公明・文世一:『都市経済学の基礎』、有斐閣、の上記項目に関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など。	成績の評価は、報告内容及び質疑応答の内容を基に行う。	大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』、佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣、など、適宜紹介する。	講義及び演習	主に輪読形式(資料作成・報告・議論)とする。	学部レベルのミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の知識が必要である。	木曜日・午前10時30分～11時30分	ohashi[at]hirosaki-u.ac.jp (at)を@で置き換えて下さい	なし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(1:主学問分野)	(18)学問分野(2:副学問分野)	(18)学問分野(3:副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
134	134	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	地理情報科学 (Geographic Information Science)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	増山 篤	-	レベル5	空間分析のための基本的な手法全般に習熟すること	英文テキストによって、空間分析のための基本的な手法全般を学ぶ。	第1回導入(空間データ、属性) 第2回空間データに関する留意点 第3回空間データの持つ可能性 第4回伝統的な地図学とジオビジュアライゼーション 第5回ポイント、ポリゴン、フィールドの視覚化 第6回空間に関する確率的过程 第7回空間パターンの記述 第8回空間パターンの統計的評価の枠組み 第9回大域的点分布パターンに関する分析 第10回ポイントの集積箇所を見出す分析 第11回ポリゴンデータと空間的自己相関 第12回局所的パターンに関する統計量(Getis-Ord統計量など) 第13回フィールドタイプデータの分析の基礎 第14回空間的補間(傾向面分析、クリギングなど) 第15回オーバーレイ	各回の前に、テキストの関連する箇所を熟読すること。	学際・新領域	地理学	-	O' Sullivan, D. and Unwin, D. (2010) Geographic Information Analysis, 2nd Edition, Wiley.	必要に応じて紹介する。	最終試験によって採点する。	講義	テキストに沿って担当教員が内容を説明する。	学部レベルの統計学・微積分・線形代数の知識、地理情報科学に関する基礎知識が必要である。	初回に伝える。	masuyama(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えてください。	なし
135	135	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	マーケティング論 (Marketing)	1, 2	選択科目	2	前期	金曜日 3・4時限	保田 宗良	地域志向科目	レベル5	マーケティングの基礎理論、応用理論を修得することにより、国家の役割、社会のありかた、経済のメカニズムを複眼的にとらえる能力を養うこと 青森地域の企業のマーケティング戦略を多角的に分析することにより、地域や国際社会で求められる、社会政策面での諸政策の立案・実施等につなげる実践力・応用力を修得すること	マーケティングの歴史、定義、基礎理論、サービス・マーケティングを多角的に学習し、社会、経済のメカニズムを複眼的に捉えた後、青森地域の企業のマーケティング戦略、特徴のある活動を考察し、地域で求められる諸政策、まちづくりの方針について議論を進めます。	1 マーケティングの歴史、定義 2 コトラ、アーカーの文献から学ぶ 3 サービス・マーケティング研究(観光) 4 サービス・マーケティング研究(医療) 5 経営戦略とマーケティング戦略 6 ウェブ・マーケティング活動の動向 7 青森地域の流通業のマーケティング戦略 8 青森地域の有力商店街のマーケティング戦略 9 青森地域の観光業のマーケティング戦略 10 青森地域の消費者問題 11 青森地域の長寿企業のマーケティング活動 12 マーケティング戦略とイノベーション 13 地域ブランドを活用したまちづくり 14 SDロジックの最新研究 15 半期の総括、レポートの要旨の発表	毎回、復習を行います。次回の予習内容を示唆します。	経営学	邦文、英文の論文、資料のコピーを配布します。	講義時間に紹介します	平常点(40点)+レポート(60点) 平常点は指定した内容を、予習により準備してきたかを重視します。	演習	通常のゼミ形式	地域企業のマーケティング活動を事例に学習します。地域の専門誌を精読すると理解が進みます。	木曜日・金曜日 12時~12時30分	yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)は@に置き換えてください。	青森地域の事例研究は津軽地域を中心に、青森市、八戸市に本社がある企業が対象です。		
136	136	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	イノベーション論 (Innovation)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 5・6時限	熊田 憲	-	レベル5	イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、戦略的なイノベーション・マネジメントに向けて、複雑化した社会経済における実践力・応用力を身につけること	イノベーションという現象が生み出されるシステムやメカニズム、マネジメントを体系的に学び、複雑化したイノベーション・プロセスにおいて発生する諸課題について理論的・実践的に考察します。	【予習】事前に配布する資料を読み、自分なりの考え方や疑問を持って受講してください。 【復習】授業で配布された資料やノートを活用して授業の内容について理解を深めるようにしてください。	経営学	教科書は特に指定しません。	・ジョー・ティッド他『イノベーションの経営学 技術・市場・組織の統合的マネジメント』(2004)NTT出版 ・橋本大学イノベーション研究センター編集『イノベーション・マネジメント入門(第2版)』(2017)日本経済新聞社 ・その他、講義の中で適宜、紹介します。	報告と発言の内容で評価します。	演習	ゼミ形式で行います。	経営学に関する基礎的な知識が必要です。	火曜日:11:50~12:40 事前にメールにてコンタクトを取ってください。	kumata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし			
137	137	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	経営管理論 (Management of Business Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 5・6時限	高島 克史	-	レベル5	経営戦略の概念・考え方・論理について、言葉を超えて、ビジネス記事・新聞・企業のプレスリリースなどの事例を通して理解すること 多様な企業の事例を通じて、戦略の有効性や限界について論理的に指摘できるようにすること	経営管理で扱う主たる問題は「人の問題」「組織の問題」「経営戦略の問題」の3つです。その中でも本講義では「経営戦略の問題」に焦点を当てて講義を進めていきます。そして、経営戦略における概念・考え方・論理を理論的に理解するとともに、実践においてはどのように経営戦略の考え方や論理が展開されているのか事例を通じて理解・考察していきます。	第1回 オリエンテーション 第2回 経営戦略とは何か 第3回 競争優位の実現と維持 第4回 差別化 第5回 顧客価値の実現 第6回 製品ライフサイクル 第7回 競争ポジション 第8回 業界の構造分析 第9回 コスト・リーダーシップ 第10回 多角化 第11回 多角化企業の資源配分 第12回 垂直統合 第13回 事業の定義と企業ドメイン 第14回 企業活動領域の設定と再構成 第15回 経営戦略の策定 第16回 振り返り ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	予習: 毎回講義終了時に、次回講義までに読んでくる文献の範囲を指定します。受講者は指定文献を読んで、任意で事例を選択・分析してください。 復習: 講義で議論した内容を整理し、文献を読み直してください。	経営学	網倉久永・新宅純二郎(2011)『経営戦略入門』日本経済新聞社	講義中に必要に応じて指定します。	平常評価(平常の発表、毎回の提出物):40% 期末評価(期末レポート):60%	演習	事前に読んできた文献と事例をレジュメにまとめて、報告を行ってまいります。	経営学に関する基礎的な知識が必要です。	木曜日8時40分~10時10分	katsushi(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)を@に置き換えてください。	なし		
138	138	人文社会科学部 応用社会科学専攻 総合文化社会研究コース	商法 (Commercial Law)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	長谷河 亜希子	-	レベル5	商法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につけること	商法分野の法律について、論文や判例等(場合によっては外国語文献を含む)について、受講生の皆さんから判例評釈や論文内容の検討を報告していただきながら、理解を深めていきたいと思っております。最終的には、内容については、受講生の皆さんと相談のうえ、決定したいと思います。	現時点では以下が候補です。「フランチャイズ判例を読む」コンビニなどのフランチャイズ(FC)問題に関連する判例等を読み、検討する。以下のような諸問題に関連する判例を取り上げる。 1. 担当決め 2. FC問題概要(教員からの説明) 3. 本部の情報開示義務違反 4. 本部の指導援助義務違反 5. 本部の品質確保義務違反 6. 本部によるFC契約の更新拒絶 7. FC契約の解約を巡る諸問題 8. コンビニのチャージ(ロイヤリティ)訴訟 9. 本部の仕入れ代金報告義務 10. 見切販売の制限に関する損害賠償訴訟 11. コンビニの深夜間営業の強制差止訴訟 12. FC契約終了後の競業禁止義務訴訟 13. コンビニ加盟者(店長等として実際に店舗勤務している加盟者)の労働者性 14. 15 受講者の修論報告など	報告者は、担当する判例や論文について、要約をし、検討を行う。報告者以外の受講生は、判例、論文を熟読してくる。	法学	適宜提示します。	適宜提示します。	授業での、報告(受講者数によっては次回報告を担当することになります)・質問等の発言(毎回発言を求めます)による。	演習	受講生による報告、質疑応答。	特になし	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室	なし			

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(1:主学問分野)	(18)学問分野(2:副学問分野)	(18)学問分野(3:副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
139	139	人文社会科学部 社会科学専攻 総合文化社会研究コース	民法 (Civil Law)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 5・6時限	吉村 顕真	-	レベル5	民法上の契約関係の規定が「契約の成立から終了まで」というプロセスのどの段階で使われるのかを理解することが重要な判例について何が問題であるのか、どのように解釈しているのかなどを理解すること	契約法に関する文献及び重要判例を読んだうえで、それについて検討していきます。	以下のテーマの順に従って授業を進めていきます。 第1回 イントロダクション 第2回 契約の成立、契約の有効性1: 契約主体に対する規制 第3回 契約の有効性2: 契約成立過程における意思表示に対する規制 第4回 契約の有効性3: 契約内容に対する規制 第5回 契約の有効性4: 消費者契約法による規制 第6回 代理人による契約の成立1: 有権代理 第7回 代理人による契約の成立2: 無権代理・表見代理 第8回 履行過程における牽連関係 第9回 契約違反とその救済 第10回 債権の回収1: 弁済 第11回 債権の回収2: 相殺 第12回 債権の回収3: 債権譲渡 第13回 債権の保全1: 債権者代位権 第14回 債権の保全2: 詐害行為代位権 第15回 契約の終了	適宜、指示します。	法学関連	-	-	初回の授業時に指示します。	適宜、指示します。	報告: 80% 提出物: 20%	演習	受講生の人数にもよりますが、毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をするという形で進めていく予定です。	特にありません。	水曜日 10:30～11:30	初回の授業時にお知らせします。	特にありません。
140	140	人文社会科学部 社会科学専攻 総合文化社会研究コース	グローバル経営論 (Global Management)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 5・6時限	森 樹男	-	レベル5	グローバル経営の基礎を修得すること、習得した知識の応用力を身につけること	グローバル時代における企業経営について理論的、実践的な考察を行っていきます。	【予習】テキストを読み、議論したいテーマを用意してください。 【復習】授業で取り上げたトピックに関連した書籍や論文を探し、読んでください。	経営学関連	-	-	山口隆英、古沢昌之編『国際ビジネス入門』(白桃書房)(2017年3月発行予定) 藤澤武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸』(同文館出版) 森樹男『日本企業の地域戦略と組織』(文真堂) 藤澤武史・伊田晶弘編著『新多国籍企業経営管理論』(文真堂) 安室憲一編著『ケースブック ビジネスモデル・シンキング』(文真堂)	適宜、指示します。	授業参加の程度と期末レポートにより評価します。	演習	輪読形式を予定しています。	常に企業経営に関心を持ち、様々なメディアからの情報も得るように努めてください。	木曜日 17時40分～18時30分 事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	
141	141	人文社会科学部 社会科学専攻 総合文化社会研究コース	経営組織論 (Management Organization)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	大倉 邦夫	-	レベル5	経営組織論に関する基本的な諸理論を理解すること。また、修得した知識を踏まえ、企業という組織に関わるさまざまな課題を複眼的に考察し、その改善点を提案していく実践力を身につけていくこと。	この授業では、マイクロ組織論、マクロ組織論の代表的なトピック(例: モチベーション、リーダーシップ、組織デザイン等)を取り上げ、それぞれの主要な理論について学習していきます。また、企業経営における組織の問題を分析する力を養うために、受講者には企業の事例研究に取り組んでもらうことになります。	【予習】課題となる文献を事前に読み込み、要約を作成することが求められます。 【復習】授業での議論の内容をまとめ、関連する文献を読み、理解を深めることが求められます。	経営学関連	-	-	桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論 補訂版』有斐閣	佐藤郁哉・山田真茂留(2004)『制度と文化一組織を動かす見えない力』日本経済新聞出版社	平常評価(授業への参加度): 30% 期末評価(事例研究の発表): 70% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	演習	演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。	自ら考え、自ら調査して実践してもらいますので、予習・復習が必ず求められます。	金曜日 3・4時限	kohkura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし	
142	142	人文社会科学部 社会科学専攻 総合文化社会研究コース	実証会計学 (Demonstrate Accounting)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	加藤 恵吉	-	レベル5	会計論文作成に役に立つ論文を概観すること。統計的手法のスキルを獲得し実証系論文を作成できるようになること	会計学に関する主要な海外ジャーナルの傾向を見ると統計的手法を用いた実証的なアプローチの論文が多数を占めている。また、日本においても、2000年代以降同様なアプローチの論文が多く見受けられるようになってきた。これらをふまえて本講においては、実証的アプローチを用いた論文を実際によりあげ考察を進めていく。	学部レベルの会計学関連科目の復習をしてください。	経営学関連	-	-	開講時に相談の上指す。	石塚博司『実証会計学』中央経済社	授業への参加(50%)、課題の評価(50%)	講義	講義形式と演習形式の併用	講義においては英語の文献も扱うこともあるので留意すること。	月曜日 12:00-12:30	-	なし	
143	143	人文社会科学部 社会科学専攻 総合文化社会研究コース	財務報告論 (Financial Reporting Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 7・8時限	内藤 周子	-	レベル5	財務報告に関する修得した専門知識・技能を横断的に連携させて、地域や国際社会で求められる社会経済面での諸政策の立案・実施等につなげる能力を養うこと。より具体的には次の二点を念頭において、財務会計における基本的な概念を理解すること、財務会計の役割を理解すること	(1)ディスクロージャー制度において開示される会計情報を研究・分析するために習得すべき基礎的な知識と方法について解説する。	講義において扱う財務会計上の概念について整理を行うこと。	経営学関連	経済学関連	-	大日方隆『アドバンスド財務会計(第2版)』中央経済社、2013年。	随時、案内する。	定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)	講義	講義を中心にいきます。随時、ハンドアウトを配布して、計算問題を解いたり論議を行う予定です。	簿記や会計学に関する基礎的な知識があることを前提として講義を行います。	金曜日 5.6時限	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし。	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
144	144	人文社会科学専攻総合文化社会研究コース	原価計算論(Cost Accounting)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	小杉 雅俊		レベル5	原価計算分野の諸領域に関する高度な専門知識・技能を習得していること 修得した専門知識・技能にもとづき、製造業を中心とする実際の企業が直面する経営環境の変化に対応した、経営管理につなげることができる実践力・応用力を身につけていること	○ 品質原価計算(Quality Costing)の学習を通じて、戦略的コスト・マネジメントを理解する ○ 品質原価計算の理論的なフレームワークを中心に、実務適用に際する論点を文献輪読・議論形式で理解していく ○ 理論的な把握に際しては、品質原価計算の史的展開を振り返る。理論が概念形にとどまっていかに検討するために、文献サーベイを通じて、実務適用面についての検討を行っていく ○ 一連の授業を通じて、会計ツールを実務適用するとはどういうことなのか、戦略的コスト・マネジメントとは何か、深く考察していく	基本的にゼミナール形式の授業を行う。指定テキストだけにとどまらず、関連する英語文献などを読み込んでいく。 輪読形式の発表と、発表内容に基づいた議論・討論を通じ、授業を展開する。 以下に各授業回の内容を示す。 第1回授業 ガイダンス・文献紹介とイントロダクション 第2回授業 品質原価計算の史的展開(1)生成段階から1980年代まで 第3回授業 品質原価計算の史的展開(2)1990年代以降 第4回授業 品質原価計算のフレームワークに関する理論的検討 第5回授業 国内におけるPAFアプローチの適用事例 第6回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(1)...製造業における適用事例1 第7回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(2)...非製造業における適用事例2 第8回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(3)...製造業における適用事例3 第9回授業 アメリカにおけるPAFアプローチの適用事例(4)...非製造業における適用事例4 第10回授業 ABC/ABMを取り入れた品質原価計算の適用事例 第11回授業 イギリスにおけるプロセスコストモデルの展開 第12回授業 ヨーロッパにおけるプロセスコストモデルの適用事例(1)...製造業における適用事例 第13回授業 ヨーロッパにおけるプロセスコストモデルの適用事例(2)...非製造業における適用事例 第14回授業 品質原価計算と戦略的コスト・マネジメント 第15回授業 総括	[予習] 教科書・参考文献などを、輪読に向けて読み込む。その上で、各回のテーマや課題について取り組むこと。 [復習] 授業でのディスカッションを中心に、論点をしっかりと整理すること。	経営学 学際領域	学際領域	学問分野3副学問分野	浦田隆広(2011)『アメリカ品質原価計算研究の視座』創成社。	多数により、適宜授業内で紹介していく。	文献輪読発表・議論参加(50%)、課題評価(50%)	演習	輪読形式であり、全受講者は教科書・関連文献の指定範囲を予習することが求められる。	・受講希望者は、このシラバスを事前にしっかりと読み、必ず第1回授業を受講し輪読の割り当てを確認すること。 ・本授業では英語文献を用いた授業を行うが、あくまでも原価計算論の授業である。 ・日商簿記2級レベル以上の工業簿記・原価計算における基礎的な理論を前提として授業を進める。授業開始前までにしっかりと復習すること。	火曜日 12:00-12:30、この時間に限らず随時対応しますのでご相談ください。	k*os*ug*ri[at]hirosaki-u.ac.jp 上記の*を全て削除し、[at]を@に変換してください。	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。
145	145	人文社会科学専攻地域人材育成コース	農村社会史(Agrarian Studies)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	白石 社一郎	地域志向科目	レベル5	論文6-7本分ほどの内容を基礎知識とともに平易に噛み砕きながら学び、そこから議論する力、まとめて書く力をつけていくこと	戦後高度成長期における農村・都市移動(向都離村)の内容と、その後背地である農村社会の変容について学ぶ。	参考文献を各自が予習(レジュメ担当での講読はなし)	文化人類学 学際領域	社会経済学 学際領域	民俗学 学際領域	テキストはとくになし。資料・文献は講義時に適宜配布・紹介する。	適宜紹介する。	講義への参加、議論、短いレポート	講義	文献内容をもとにした講義が6割、それをふまえた議論が4割	予習をふまえて聴講と議論をする。	水曜日昼休み～14:00、なお、履修希望者は第1回講義前に白石研究室(人文331)まで。	http://hir-osakihumanics.blogspot.com	なし	
146	146	人文社会科学専攻地域人材育成コース	地域活動論(Rural Innovation)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 1・2時限	近藤 史	地域志向科目	レベル5	地域活動とそれに関わるさまざまなアクターを総合的にとらえる視野を養い、それを自らの研究に生かせるようになること	地域づくりにどのような仕組みや取り組みが試みられているのか、どうすれば地域内外の人のびとを巻き込みながら活動を展開していけるのか。地域資源をいかした着地型観光の事例を参考にしながら、受講生の関心にに応じたテーマで青森県の課題にアプローチする地域活動の企画を検討する。	この授業では、予習を重視します。当該テーマについて関連文献や統計資料等を用いて青森地域の情報を収集して授業に臨んでください。復習では講義レジュメ・ノートを見直して、理解を深めましょう。	学際領域	文化人類学 学際領域	社会経済学 学際領域	大社充2008『体験交流型ツーリズムの手法』学芸出版社	必要に応じて授業中に指示する	評価方法:文献読解・事例探索の発表内容(60%)と、討論での活動(40%)から評価する。	演習(グループワークを含む)	特になし	火曜日 12:00-12:30、出張や会議で対応できない場合もあります。		なし		
147	147	人文社会科学専攻地域人材育成コース	合意形成論(Consensus Building)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 3・4時限	平井 太郎(地域社会研究科)	地域志向科目	レベル5	社会のありかたを複眼的に捉え洞察する能力を養うこと 修得した専門知識により持続可能な社会形成に資する能力を養うこと	持続可能な将来像という地域のビジョンの実現には、社会科学から自然科学に至る広範な学問的知見を、現場の当事者が地域の文脈に沿って位置づけなおす必要がある。そうした学問的知見のローカルな文脈化に求められる方法論については、社会学分野では「社会的構築論」や「合意形成論」といった名の下に試行錯誤が続いている。本授業では、そのような現在進行的な学問的探究の背景を理解するとともに、それらの方法論を受講者自身も駆使し、さらには自ら更新したりできるように、実践的に修得する。	第1回:オリエンテーション:「社会的構築論」と「合意形成論」について概観する。 第2回:社会的構築主義とは何か:A・シュツによる学問的基礎を確認する。 第3回:構築主義論争:2000年代以降のグローバルな社会的構築主義をめぐる論争の焦点を確認する。 第4回:研究対象と研究主体の相互作用:ホーソン効果などから研究を通じ社会実践が構築される論理を確認する。 第5回:合意形成における参加設定:合意形成の単位に対する参加、排除と包摂などの論点を学ぶ。 第6回:境界的主体と客体:参加の多様性を確保する(研究者や研究の)境界性について議論する。 第7回:合意形成における目標設定:参加を導く目標設定をめぐる論点を学ぶ。 第8回:目標と合理性:合意形成の単位である「社会」の構築原理について再確認する。 第9回:合意形成における時間軸設定:目標設定と不可分な時間軸の設定をめぐる論点を学ぶ。 第10回:正統性:参加・目標・時間軸設定の基準である正統性をめぐる論点を議論する。 第11回:評価:合意形成の社会的構築を展開する原動力となる評価の論点と手法を学ぶ。 第12回:ケーススタディ『対話型組織開発』:経営学における合意形成論の具体例を素材に議論する。 第13回:ケーススタディ『Action Research in Policy Analysis』:政策学における合意形成論の具体例を素材に議論する。 第14回:ケーススタディ『Action Research in Policy Analysis』:社会学における合意形成論の具体例を素材に議論する。 第15回:総括と展望:講義の内容を総括すべく振り返りを行う。	[予習]出された課題に取り組む。 [復習]出された課題に取り組む。	社会学 学際領域	政治学 学際領域	社会経済学 学際領域	『対話型組織開発』(ブッシュ&マーシャル著、中村和彦訳、2018年、英知出版) 『Action Research in Policy Analysis』(Bartels & Wittmayer 編著、2018年、Routledge刊)	『入門組織開発』(中村和彦著、2015年、光文社新書) 『現実はいつも対話から生まれる』(ガーゲン&ガーゲン著、伊藤守訳、2018年、ディスカバートウェンティワン刊)	課題提出100%	演習	演習	なし	of-hirai@nifty.comに問い合わせること。	of-hirai@nifty.com	なし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的な到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
148	148	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	地方財政論(Local Public Finance)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	金目 哲郎		レベル5	地方財政論に関する最新の学問理論と方法論を習得すること 自治体財政をめぐる研究課題を的確にとらえ、具体的な解決の方策を提示する力を養うこと 政策的な視点に立った課題解決の方法を、地方自治体や国に対して提起できる能力を養うこと	政府間財政関係、地方財政、財政と地域経済との関係について、歴史的・制度的な視点から検討します。財政学の視点から、自治体財政にかかる諸問題の現状分析と将来展望を行います。	第1回 ガイダンスおよび講義(現代の地方自治と地方財政) 第2回 受講生による報告と討論(地方財政の歴史的展開) 第3回 受講生による報告と討論(地方自治体の役割と経費) 第4回 受講生による報告と討論(地域経済と地方財政) 第5回 受講生による報告と討論(まちづくりと地方財政) 第6回 受講生による報告と討論(環境・エネルギーと地方財政) 第7回 受講生による報告と討論(災害と地方財政) 第8回 受講生による報告と討論(少子高齢社会と地方財政) 第9回 受講生による報告と討論(地方自治の財政基盤) 第10回 受講生による報告と討論(地方税と課税自主権) 第11回 受講生による報告と討論(地方交付税と国庫支出金) 第12回 受講生による報告と討論(地方債と地域金融) 第13回 受講生による報告と討論(地方公営企業と第三セクター) 第14回 受講生による報告と討論(予算制度と住民自治) 第15回 受講生による報告と討論(総括、政府間財政関係や地方財政をめぐる課題) 授業の進行状況や選定する文献等により、シラバスと実際の内容と異なる場合があります。	毎回、報告用のレジュメを作成する必要があります。	経済学関連			第1回目の授業で指示します。なお、受講生の関心に基づき、下記の参考文献や他のテキストを購入することも可能です。初回ガイダンス時に相談のうえテキスト等を選定します。このほか、必要に応じて資料を配付します。	金澤史男『福祉国家と政府間関係』(2010)日本経済評論社 篠原正博ほか編著『テキストブック地方財政』(2017)創成社 重森映・植田和弘編『Basic地方財政論』(2013)有斐閣ブックス 上記のほか、必要に応じて授業時に提示します。	レジュメの報告:80% 討論の内容:20% 上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	演習	輪読方式です。受講生によるレジュメ報告に基づき、討論します。このほか、必要に応じて教員が配付資料を用意し、地方財政論に関する基本的事項を説明する場合があります。	特になし。	水曜日12時～13時(他の曜日・時限でも可)	kaname-t(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし。
149	149	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	社会保障法(Social Security Law)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 7・8時限	成田 史子		レベル5	日本における社会保障法の各テーマについて、その論点を整理し、学説・判例等を分析したうえで理解すること 外国法との比較を行うこと 日本の現行規制の問題点を客観的に捉えること	社会保障法の各テーマについて、日本法の検討を中心に行う。その際、文献を用いて学説を整理・検討し、重要判例の検討を行う。また、必要に応じて外国法、とりわけドイツ法との比較検討を行う。以上の作業を通じ、日本の現行規制の問題点を客観的に捉え、解釈論または立法論的検討を行う。	報告担当箇所について、毎回レジュメを作成すること。報告担当ではない場合も、使用する文献・判例等をしっかりと読んでおくこと。	法学関連		特になし。	平常評価:70% 期末評価(期末レポート):30%	演習	毎回、割り当てられた文献や判例などをレジュメにまとめ、報告を行う。その後、受講者全員で議論を行う。	毎回の予習をしっかりと行うこと。	火曜日1・2限目。	http://hu-e2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/100000551_ja.html	特になし。			
150	150	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	人権論(Human Rights Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 5・6時限	河合 正雄		レベル5	日本の犯罪者処遇の概要を理解すること 日本の犯罪者処遇の現状から、これからの人権論のあり方を考察すること	今年度は、2冊の文献をテキストとした上で、犯罪者処遇を題材として日本の人権論について考えていきます。	毎週相当な分量になりますが、学習効果を高めるために、報告を担当者されない場合も、事前に文献を熟読してください。	法学関連		<1>掛川直之編著『不安解消! 出所者支援—わたしたちができること』(旬報社、2018年)1,800円+税 <2>浜井浩一編『シリーズ刑事司法を考える第6巻 犯罪者をどう防ぐか』(岩波書店、2017年)3,600円+税	川出敏裕ほか『刑事政策(第2版)』(成文堂、2018年)3,500円+税	報告内容や授業への貢献、受講状況によって評価します。	演習	担当者による20分程度の報告(テキストの要約と検討)の後に、皆で議論をするゼミ形式で行います。	人権論や刑事政策に興味関心がある方が、オフィスアワーに限らずに在室時であれば喜んで対応いたします。	水曜日5・6限ですが、オフィスアワーに限らずに在室時であれば喜んで対応いたします。	http://hu-e2.jm.hirosaki-u.ac.jp/html/100000700_ja.html	特になし		
151	151	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	地方自治論(Local Government)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 9・10時限	児山 正史		レベル5	地方自治に関するさまざまな知識・見方を身につけた上で、地方自治の諸問題について論じられるようになること	地方自治に関わる諸問題について検討します。受講者の関心に応じて、地方自治に関する概説書、研究書、資料など、さまざまな文献を講読し、討論します。	文献を読んだ上で、その要点を発表できるように準備する必要があります。	政治学関連		受講者の関心に応じて紹介します。	授業内容と受講者の関心に応じて紹介します。	平常評価(文献の理解度、授業中の発言など)。	演習	受講者が文献の要点を発表し、教員が補足説明し、相互に討論します。	初回の授業に出席する際に、地方自治の何に関心があるかを考えておいてください。	金曜日7・8時限(他の曜日・時限でも可)。	koyamatd@hirosaki-u.ac.jp	特にありません。		

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名(英名)	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時限	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメール・アドレス・HPアドレス	(28)その他
152	152	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	北東北雇用政策論 (Employment Policies of North Tohoku)	1, 2	選択科目	2	前期	水曜日 3・4時限	李 永俊	地域志向科目	レベル5	本講義では、さまざまな公表データを用いて、北東北の労働市場の問題点を明らかにし、その解決策を検討すること	本講義では労働市場の現状を多角的に把握するために、地域労働市場に関する諸文献を輪読する。その上で、各受講者がデータに基づく北東北労働市場の現状把握と政策提言を行う。	1回 イントロダクション 2~3回 労働市場の見方について 4~5回 失業の経済学 6~7回 北東北労働市場の失業構造 8~9回 北東北の若年者労働市場 10~11回 「東京」に出る若者たち 12~14回 ワークショップ -北東北労働市場の現状と課題- 15~16回 研究成果報告会	毎回の授業で輪読する部分を事前に読んで、報告レジュメを準備するようにしてください。	経済学関連	-	-	特になし	必要に応じて参考文献、論文リストを紹介いたします。	平常評価(平常の発表など):20% 中間評価(中間発表など):30% 期末評価(最終報告、期末レポート):50%	講義	講義形式と演習形式を併用します。	特になし	毎週水曜日 午前10時00分~12時00分	yjlee@hiro-saki-u.ac.jp	特になし
153	153	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	刑事司法論 (Criminal Justice Theory)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 1・2時限	平野 潔	-	レベル5	刑事訴訟法、刑事政策に関する高度な専門知識を身に付け、それに基づいて現実社会において生じている問題を分析することができること 刑事訴訟法、刑事政策の基本的な考え方を身につけた上で課題に取り組み、現在の刑事裁判手続や刑事政策の在り方に対する深い洞察が行えるようになること	論文等を読むことによって刑事訴訟法、刑事政策に関する高度な専門知識をまず身につけます。その上で、あるべき刑事裁判手続、あるべき刑事政策の姿を、受講者同士のディスカッションを通じて考えていきます。	(予習)次回の課題文献・判例に目を通し、理解できない部分がないようにしておく。 (復習)授業の中で生じた疑問について調べ、より深い理解ができるように努めてください。	法学関連	-	-	とくに指定しません。	上口裕『刑事訴訟法[第4版]』(2015年、成文堂) 大谷實『新版 刑事政策論』(2009年、弘文堂) 池田修一合田悦三『安東章『解説 裁判員法[第3版]』(2016年、弘文堂) 原田國男『量刑判断の実際[第3版]』(2008年、立花書房) 武内謙治『少年法講義』(2015年、日本評論社) 松本勝編著『更生保護入門[第4版]』(2015年、成文堂) 最新年版の法務省法務総合研究所編『犯罪白書』、内閣府編『犯罪被害者白書』(すべて図書館に配架済みです)	授業における報告および発言(80%)と期末レポート(20%)を合算して評価します。	演習	第1回の講義時に担当者を決めず、その担当者が報告を行い、その報告に基づいて参加者全員で議論します。	刑事裁判に関する基本的な知識は必要です。可能であれば事前に刑事裁判の裁判傍聴をしておくことをお勧めします。	木曜1・2限(8:40~10:10) ※上記以外の時間でも、研究室にいる場合には対応します。ただし、その場合には、あらかじめメール等でアポイントメントを取るようにしてもらえると助かります。	k-hirano(at)hiro-saki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし	
154	154	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	マクロ経済分析論 (Macroeconomic Analysis)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	山本 康裕	-	レベル5	長期的経済における国民所得、物価の変動を理解すること 短期的経済における国民所得、物価の変動を理解すること 上記の2点を通じて、マクロ経済変動のメカニズムを的確に分析し、適切な財政金融政策を選択できる実践力を習得すること	まずは価格調整が十分に行われている状況(長期的経済)の下で、国民所得、実質利子率、物価、為替相場がいかに変動するかを学習し、次、価格が硬直的な状況(短期的経済)の下で、国民所得、物価、為替相場がいかに変動するかを学習する。これらを通じて、財政金融政策がマクロ経済変数へ与える影響を理解する。	予習は、講義にて指定した教科書を読み、その内容をレジュメにまとめることである。復習は、講義にて学習した内容に合ったレジュメを加筆・修正することである。	経済学関連	経営学関連	法学関連	講義にて指定する	講義にて紹介する	輪読における参加度30%と期末試験70%で評価します	演習	講義にて指定した教科書を輪読する	人文社会科学部のマクロ経済学I	火曜日7・8時限	公開しません	特になし	
155	155	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	産業組織論 (Industrial Organization)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 9・10時限	小谷田 文彦	-	レベル5	ミクロ経済学の基礎理論である企業の利潤最大化行動を理解したうえで、企業の境界、企業の戦略的行動、企業組織に関する基礎理論を理解すること	教科書として用いるテキストの構成に従い、企業理論の基礎、企業の戦略、企業の組織の3つに論点を分け、それぞれに関する経済理論を学ぶ。	[予習]次週の講義で取り上げる章を良く読んでください。 [復習]講義内容の理解を確実にし、講義で触れなかった部分について自習して下さい。	経済学関連	経営学関連	-	小田切宏之(2010)『企業経済学(第2版)』(東洋経済新報社) 泉田成美・柳川隆(2008)『ブラクティカル 産業組織論』(有斐閣) 新庄浩二 編(2003)『産業組織論』(有斐閣ブックス) 植草益 他(2002)『現代産業組織論』(NTT出版)	講義における発表から判断される理解の程度に応じて評価します。	講義及び演習	学部レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。	水曜日10時から11時	koyata(at)hiro-saki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	なし			
156	156	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	経済思想論 (Economic Thought)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 9・10時限	福田 進治	-	レベル5	最新の研究成果を理解し、経済思想の全体像を把握すること 経済思想領域の文献的研究の方法を身に付けること	この授業では、アダム・スミス以降の主要な経済学者の経済思想を研究し、彼らの経済思想がその後の経済理論・経済思想・経済政策に与えた影響を検討します。	第1回 概要説明 第2回~第5回 古典学派の経済学者たち 第6回~第10回 新古典派の経済学者たち 第11回~第15回 ケインズ学派の経済学者たち	予習として、口頭発表の準備の他、授業の進行に沿って参考書を読むなど、基礎知識を身に付けて下さい。復習として、毎回の授業終了後、授業の内容を振り返り、不明な点を調べ、授業のポイントを確認して下さい。	経済学関連	-	-	受講者の関心に基づいて決定します。	太田一廣他(編)『新版経済思想史』名古屋大学出版会、2006年	平常評価として、平常の口頭発表及び質疑応答の内容と、それらに取り組む姿勢を評価します(50%) 期末評価として、学期終了時に授業全体に関わるレポートを出題し、その内容、課題意識、論理構成、文章表現を評価します(50%)。	演習	受講者の関心に基づいて授業内容及び課題図書を決まり、受講者による口頭発表と質疑応答を軸に授業を進めていきます。	受講の際は、指導教員及び担当教員と十分に相談して下さい。	月曜日~金曜日 12:00~13:00	shinj[at]hiro-saki-u.ac.jp	特になし

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
157	157	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	応用経営統計論 (Applied Business Statistics)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	花田 真一		レベル5	連続変数ではない指標についても統計分析を行えるようになること 自身の研究に統計学的な知識を生かせるようになること	経営統計学では、主に連続変数を被説明変数とした回帰分析について学んだ。 しかし、経営学や経済学の分析においては、人々の商品の選択のような数値化が困難なものが指標となる場合や、因果関係ではなくグループ間の類似度などを考察する場合がある。 本講義では、そうした離散選択問題や因子分析などの手法を学ぶ。	第1回: ガイダンス 第2回: 回帰分析の復習と問題点 第3回: 最尤法の基礎概念 第4回: 離散選択モデル<1>: ロジットモデル・プロビットモデル 第5回: 離散選択モデル<2>: 多項ロジットモデル・順序ロジットモデル 第6回: 離散選択モデル<3>: 離散/連続選択モデル 第7回: 演習<1> 第8回: 心理データ分析<1>: 心理測定データの尺度化 第9回: 心理データ分析<2>: 尺度構成法を用いた類似度の分析 第10回: 心理分析データ<3>: 因子分析法 第11回: 演習<2> 第12回: 主成分分析 第13回: クラスタ分析 第14回: 演習<3> 第15回: 講義の復習	【予習】事前に配布する講義資料を読んでおく 【復習】自身の修士論文のテーマに関するデータに講義内容を当てはめて考える	経営学 経済学 心理学	特に指定しない	初回講義で紹介する	毎回の講義での活動:10% 小レポート:30% 期末レポート:60%	講義	主に講義形式で行うが、可能であれば数回PC演習も行う	経営統計学を履修していることが望ましい(単位の取得は問わない)。 未履修の場合は、人文社会科学部の統計データ分析Bとの並行履修を推奨する。	火曜日 14:30-15:30	shanada@hirosaki-u.ac.jp	受講者の関心や理解度に応じて内容を変更する場合があります。		
158	158	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	地域金融論 (Regional Finance)	1, 2	選択科目	2	後期	木曜日 7・8時限	飯島 裕胤		レベル5	企業に関わる諸主体(株主、今年度は地域金融の実践的課題として、企業統治論を扱う。経営者、従業員、外部委託先など)がそれぞれの利害・思惑で動くときに、その行動をいかにコントロールし、その事業目的に近づけるための企業制度・組織・行動を体系的に理解すること。企業に適した制度・組織を立案し、運用することのできる能力を養うこと	企業に関わる諸主体(株主、今年度は地域金融の実践的課題として、企業統治論を扱う。経営者、従業員、外部委託先など)がそれぞれの利害・思惑で動くときに、その行動をいかにコントロールし、その事業目的に近づけるための企業制度・組織・行動を体系的に理解すること。企業に適した制度・組織を立案し、運用することのできる能力を養うこと。	授業前にテキストを一読すること	経済学 経営学 法学	久保克行『コーポレート・ガバナンス: 経営者の交代と報酬はどうか』日本経済新聞社 高橋俊夫『コーポレート・ガバナンスの国際比較: 米、英、独、仏、日の企業と経営』中央経済社	授業における毎回の発表とレポートで評価する。	演習	発表形式	導入科目の経済学を受講することが望ましい	月曜日 11:30-12:30	ijima(at)hirosaki-u.ac.jp ※ (at)は@に置き換えてください	なし				
159	159	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	地域政策評価論 (Regional Policy Evaluation)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 3・4時限	大橋 忠宏		レベル5	都市や地域、交通に関する空間固有の問題に関する基本的な考え方を修得し、青森県を中心として、弘前市の土地利用計画や津軽諸島の公共交通計画、東北・北海道新幹線開業の影響などの具体的な事例を元に各種地域政策の考え方や同評価方法について議論する。	都市や地域、交通に関する空間固有の問題に関する基本的な考え方を修得し、青森県を中心として、弘前市の土地利用計画や津軽諸島の公共交通計画、東北・北海道新幹線開業の影響などの具体的な事例を元に各種地域政策の考え方や同評価方法について議論する。	事前に教科書を読んで授業に臨み、日頃から周りの都市や地域の課題について考えて下さい。	経済学 経営学		佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣・山内弘隆・竹内健蔵『交通経済学』有斐閣。の上記項目の関連する部分及び関連書籍・論文・報告書など。	黒田達明・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学(新版)』、有斐閣。大井尚司・後藤孝夫『交通政策入門』。佐藤泰裕『都市・地域経済学への招待状』有斐閣。など、適宜紹介する。	成績の評価は、報告内容及び質疑応答の内容を基に行う。	講義及び演習	主に輪読形式(資料作成・報告・議論)とする。	学部レベルのマイクロ経済学・マクロ経済学・経済学部の知識が必要である。	木曜日・午前10時30分～11時30分	ohashi(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えて下さい	なし		
160	160	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	都市・地域情報分析論 (Information Analytics of Cities and Regions)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	増山 篤		レベル5	都市・地域に関するデータにはさまざまなものがある。それらデータから都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法を身につけること	都市・地域に関するデータにはさまざまなものがある。それらデータから都市・地域の現況や問題点を詳らかにするための分析手法について、代表的英文テキストから学ぶ。	各回の前に、テキストの関連する箇所を熟読すること。	地理学 社会学		Wang, F. (2014). Quantitative Methods and Socio-Economic Applications in GIS. CRC Press.	必要に応じて紹介する。	最終試験によって評価する。	講義	テキストに沿って担当教員が内容を説明する。	学部レベルの微積分・線形代数・統計学の知識が必要である。地理情報科学に関する基礎知識やGISの操作技術が必要である。ノートパソコンを持参することが望ましい。	初回に伝える。	masuyama(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えて下さい	なし		
161	161	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	北東北商業政策論 (Commercial Policy of the North Tohoku)	1, 2	選択科目	2	後期	金曜日 3・4時限	保田 宗良	地域志向科目	レベル5	商業政策の総論と各論を学習し、買利物弱者を考慮したまちづくりを考察することにより、社会のありかた、経済のメカニズム、人間行動の実態を複眼的にとらえ、それらを洞察する能力を養うこと 青森市、弘前市、十和田市、八戸市、盛岡市、秋田市の商業の課題を学習することにより、地域や国際社会で求められる社会経済面での政策の立案、実施等につながる実践力・応用力を修得すること	商業政策の総論、各論を学習し、買利物弱者を考慮したまちづくりを検討する。地域社会、地域経済のメカニズムを複眼的に把握することを意図して講義を進める。青森市、弘前市、八戸市、十和田市、盛岡市、秋田市の商業事情を把握し、検討課題を考察し、地域で求められる社会経済面に必要な政策を提言することを念頭に置き、レポート作成の作業に入る。	1 流通政策研究(総論) 2 流通政策研究(各論) 3 商業政策とまちづくり(総論) 4 商業政策とまちづくり(各論) 5 商業政策と買利物弱者(総論) 6 商業政策と買利物弱者(各論) 7 青森市の商業研究(大規模店) 8 青森市の商業研究(中小小売商) 9 弘前市の商業研究(大規模店) 10 弘前市の商業研究(中小小売商) 11 八戸市、十和田市の商店街研究 12 盛岡市、秋田市の商店街研究 13 北東北地域の商業政策とまちづくり 14 弘前市の商業と商業政策のあり方 15 半期の総括、レポートの要旨の発表	毎回、復習の項目、予習の範囲を指示します。	経営学 社会学		流通、商業政策の論文のコピーを配布します。	講義時に指示します。	平常点(40点)+レポート(60点)で評価します。レポートは視察をすることを求めます。	講義及び演習	通常のゼミ形式	学習をする地域の、商工会議所発行の資料が参考になります。	木曜日、金曜日 12時～12時30分	yasuda(at)hirosaki-u.ac.jp (at)を@に置き換えてください	なし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
162	162	人文社会科学部 社会科学専攻 地域人材育成コース	起業論 (Entrepreneurship Theory)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	高島 克史	-	レベル5	環境分析や資金調達に基づいて、起業家の行為やそこに隠された意図を読み解けるようになること 本講義で習得した知識に基づいて、事業計画書を作成できるようにすること	ベンチャー企業の誕生・成長・存続という現象を、起業家の行動や発言に注目しながら考察していきます。それを通じて、ベンチャー企業における起業家の役割や必要性について理解していきます。 また起業は学術的のみならず、政策的・実務的にも注目を集めています。なぜ多様な点から注目されているのか実例を通じて理解していきます。	第1回 オリエンテーション 第2回 起業プロセス 第3回 新規事業のアイデア 第4回 起業機会の認識 第5回 起業機会の評価 第6回 起業家精神の理論 第7回 起業家的マネージャー 第8回 ベンチャー企業の経営チーム 第9回 ファミリービジネスとベンチャー企業 第10回 必要資源の調達 第11回 ビジネスプランの策定 第12回 ベンチャー企業の資金調達 第13回 急成長の管理 第14回 収穫と育成 第15回 起業戦略の策定 第16回 振り返り ※授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	予習：毎回講義終了時に、次回講義までに読んでくる文献の範囲を指定します。受講者は指定文献を読んでから、任意で事例を選択・分析してください。 復習：講義で議論した内容を整理し、文献を読み直してください。	経営学関連	経済学関連	-	忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行・五十嵐伸吾・山田二郎(2013)『アントレプレナーシップ入門』有斐閣	講義中に必要に応じて紹介します。	平常評価(平常の発表、毎回の提出物):40% 期末評価(期末レポート):60%	演習	事前に読んできた文献と事例をレジュメにまとめて、報告を行っていただきます。	経営学と会計学の基礎的知識が必要です。	木曜日8時40分～10時10分	katsushi(at)hrosaki-u.ac.jp ※(at)を@に置き換えてください。	なし
163	163	人文社会科学部 社会科学専攻 地域人材育成コース	地域イノベーション論 (Regional Innovation)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時限	熊田 憲	-	レベル5	地域イノベーションを理論的・実践的なレベルで理解するための知識の獲得を目的とし、地域イノベーション・システム構築に向けた、諸政策の立案・実施等における実践力・応用力を身につけること	地域という場において創出されるイノベーションの特性を理解し、地域全体としてダイナミズムを生み出すための地域イノベーション・システムのあり方について理論的・実践的に考察します。	第1回:ガイダンス 第2回:地域産業活性化に関する基礎的諸概念 第3回:地域産業活性化の体系と歴史の展開 第4回:代表的な活力ある地域産業モデル 第5回:地域産業活性化策立案と情報収集 第6回:地域産業活性化策立案の際に分析すべき諸要素 第7回:地域経営資源の整備策の立案 第8回:地域インフラ整備策の立案 第9回:地域イノベーション創出機構の構築策の立案 第10回:地域産業活性化策の新展開の可能性 第11回:地域産業活性化策の今後の諸課題 第12回:イノベーションと地域に関する諸理論 第13回:地域イノベーションに関する政策動向と先行事例 第14回:科学技術型イノベーションと地域に関する考察 第15回:地域イノベーション論まとめ *授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容と異なる場合には、その都度説明します。	【予習】事前に配布する資料を読み、自分なりの考え方や疑問を持って受講してください。 【復習】授業で配布された資料やノートを活用して授業の内容について理解を深めるようにしてください。	経営学関連	-	-	野長瀬裕二(2011). 地域産業の活性化戦略～イノベーター集積の経済性を求めて～, 学文社 野澤一博(2012). イノベーションの地域経済論, ナカニシヤ出版 *その他、講義の中で適宜、紹介します。	報告と発言の内容で評価します。	演習	ゼミ形式で行います。	経営学に関する基礎的な知識が必要です。	火曜日:11:50～12:40 事前にメールにてコンタクトを取ってください。	kumata(at)hrosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。	特になし	
164	164	人文社会科学部 社会科学専攻 地域人材育成コース	経済法制論 (Economic Law and Policy)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 5・6時限	長谷河 亜希子	-	レベル5	経済法分野の問題に関して、基礎的知識の修得に留まらず、研究論文を読みこなしたうえで分析し、私見を述べる能力を身につけること	経済法分野の法律について、論文や判例等(場合によっては英語論文を含む)について、受講生の皆さんから判例評釈や論文内容の検討を報告していただきながら、理解を深めていきたいと思います。 対象となる法分野は、独占禁止法、規制産業関連法規、知的財産権法、消費者法、その他商事関連の法と幅広く設定します。最終的には、内容については、受講生の皆さんと相談のうえ、決定したいと思います。	現時点では以下が候補です。 公正取引委員会事務総局競争政策研究センター(CPRC)「人材と競争政策に関する検討会」の報告書(2018年3月公表)及びそれに関連する論文・報告書を基に、いわゆる「事業者」に分類されているものの「労働者」的な性質も有する働き方をしている人達に関して独禁法関連の問題を中心に検討する。 主たる検討対象となる報告書・論文は以下の通り *公取委CPRC「人材と競争政策に関する検討会」報告書(2018年3月公表) https://www.jftc.go.jp/cprc/conference/index_files/180215jinza01.pdf *連合総研「働き方の多様化と法的保護のあり方～個人請負業者とクラウドワーカーの就業実態から～」「曖昧な雇用関係の実態と課題に関する調査研究報告書～(連合・連合総研共同調査研究)」(2017年12月) 1 担当決め 2～6 公正取引2018年5月号の各論文 7～13 ジュリスト2018年9月号の座談会及び各論文 14・15 上記の2報告書の検討 など。	報告者は、担当する判例や論文について、要約をし、検討を行う。 報告者以外の受講生は、判例・論文を熟読してください。	法学関連	-	-	適宜提示します。	適宜提示します。	授業での、報告(受講者数によっては数回報告を担当することになります)、質問等の発言(毎回発言を求めます)による。	演習	受講生による報告、質疑応答。	特になし	火曜日7・8時限。研究室は人文棟3階の323研究室	-	なし
165	165	人文社会科学部 社会科学専攻 地域人材育成コース	民事司法論 (Civil Justice Theory)	1, 2	選択科目	2	前期	月曜日 5・6時限	吉村 顕真	-	レベル5	親族法に関する基礎的知識を修得すること 現代の家族が抱える問題について法的に考える力を身につけること	民法典の第4編「親族」に焦点を絞って検討していきます。その際、新聞などを使って、現代の家族をめぐる法的問題を補充します。	以下の順に従って授業を進めていきます。 第1回 イントロダクション 第2回 親族法を学ぶための前提知識 第3回 夫婦<1>:婚姻の成立 第4回 夫婦<2>:婚姻の効果 第5回 夫婦<3>:離婚の成立 第6回 夫婦<4>:離婚の効果(財産分与) 第7回 夫婦<5>:離婚の効果(親権・監護権、面会交流、養育費) 第8回 夫婦<6>:婚姻外の関係 第9回 親子<1>:民法上の実親子関係 第10回 親子<2>:人工生殖と親子関係 第11回 親子<3>:養親子関係(里親制度を含める) 第12回 親子<4>:親権・児童虐待防止 第13回 後見<1>:未成年後見 第14回 後見<2>:成年後見 第15回 扶養:親族の扶養	適宜、指示します。	法学関連	-	-	初回の授業時にお知らせします	適宜、指示します。	報告80% 提出物20%	演習	毎回、1人の報告者に報告してもらった上で、それに対して参加者による質疑・応答をすすめていく予定です。	特にありません。	水曜日10:30～11:30	初回の授業時にお知らせします。	特にありません。

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野(主学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(18)学問分野(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)メールアドレス・HPアドレス	(28)その他
166	166	人文社会科学部 応用社会科学専攻 地域人材育成コース	会計システム論 (Accounting System)	1, 2	選択科目	2	前期	火曜日 3・4時限	小杉 雅俊	-	レベル5	会計学分野の諸領域に関する高度な専門知識・技能を習得していること 修得した専門知識・技能にもとづき、実際の企業が直面する経済環境の変化に対応した、経営管理につなげることのできる実践力・応用力を身につけていること	○ 会計システムについて、管理会計の立場から、実務適用する際、どのような点が問題とされているのかを考察する。 ○ 管理会計学の観点から会計システムを捉え、該当する技法・ツールの構造を理解するだけにとどまらず、その実務適用面に重きを置いて考察していく。 ○ 今回の授業では、文献ベースで、主にアメーバ経営のケースを題材に、会計システムが直面する現実的な実態や課題を深く検討していく。 ○ 理論上で考えられていることが、実務適用の際にそのまま当てはまることもあれば、全く当てはまらないこともある。その際にどうすればよいのだろうか。何を論点として考えればよいのだろうか。本授業は、まさにこの点を議論・検討していくものである。	基本的にはゼミナール形式で、教科書の順に授業を進めていく。関連する英語文献を加える予定である。 輪読形式の発表と、発表内容に基づいた議論・討論を通じ、授業を展開していく。 以下に各授業回の内容を示す。 第1回授業 ガイダンス・文献紹介とイントロダクション 第2回授業 プロフィットセンターについて 第3回授業 アメーバ経営の史的展開 第4回授業 アメーバ経営の導入と効果(1):日本航空1—経営再建に向けた取り組み— 第5回授業 アメーバ経営の導入と効果(2):日本航空2—サービス品質の向上— 第6回授業 アメーバ経営の導入と効果(3):医療組織 第7回授業 アメーバ経営の導入と効果(4):ホテル 第8回授業 アメーバ経営の導入と効果(5):学校組織 第9回授業 トヨタ生産システムとアメーバ経営 第10回授業 アメーバ経営と原価・収益計算構造 第11回授業 アメーバ経営の導入と効果(6):製造業 第12回授業 フィロソフィとアメーバ経営 第13回授業 責任会計論の観点から見たアメーバ経営 第14回授業 アメーバ経営の適用実態調査にみる効果と影響について 第15回授業 総括	[予習] 教科書・参考文献などを、輪読に向けて読み込む。その上で、各回のテーマや課題について取り組むこと。 [復習] 授業でのディスカッションを中心に、論点をしっかりと整理すること。	経営学関連	学際・新領域	アメーバ経営学術研究会(2017)『アメーバ経営の進化』中央経済社。	多数につき、適宜授業内で紹介していく。	文献輪読発表・議論参加(50%)、課題評価(50%)。	演習	輪読形式であり、全受講者は教科書・関連文献の指定範囲を予習することが求められる。	・受講希望者は、このシラバスを事前にしっかりと読み、必ず第1回授業を受講し輪読の割り当てを確認すること。 ・本授業では英語文献を用いた授業を行うが、あくまでも会計システム論の授業である。 ・日簿簿記2級レベル以上の基礎的な理論を前提として授業を進める。授業開始前までにしっかりと復習すること。	火曜日 12:00~12:30、この時間に限らず随時対応しますのでご相談ください。	k*os*ug*hi[at]hirosaki-u.ac.jp 上記の*を全て削除し、[at]を@に変換してください。	授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	
167	167	人文社会科学部 応用社会科学専攻 国際人材育成コース	アジア経済論 (Asian Economy)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時限	黄 孝春	-	レベル5	この授業はこのアジア地域における経済発展の実態を明らかにしながら、多様性に富むこの地域の経済成長のメカニズムとダイナミクスを複眼的にとらえる能力を養うこと	この授業は主に東アジアと東南アジアという二つの地域の経済発展や主要国の経済発展の過程と特徴、相互間の経済交流と統合の実態および経済発展に伴う諸問題について考察する予定。日本を先頭に、韓国やアセアン諸国、中国などの国と地域を中心とする東アジアは急速な経済発展を遂げ、経済の一体化が進んでいます。一方、これらの国と地域は経済の発展段階や文化(言語、宗教など)及び政治制度においてさまざまな違いを有し、多様性に富んでいます。この授業はこの地域における経済発展の実態を明らかにしながら、このような多様性をもたらすダイナミクスと摩擦の両面をより深く理解することを目指しています。	第1回 アジア経済の分析視点 第2回 東南アジア経済発展の歴史 第3回 工業化政策の動向 第4回 東アジアの経済発展と所得格差 第5回 アジア経済危機から学ぶ 第6回 アジア金融危機 第7回 アジアの環境問題 第8回 日本の経済発展 第9回 東アジア新興地域の経済発展 第10回 移行経済の理論と中国の実践 第11回 移行経済の理論とベトナムの実践 第12回 地域統合の意義と課題 第13回 リージョナリズムの台頭とAFTAの新展開 第14回 日本と東アジアの関係 第15回 アジア経済の発展とその諸問題	授業で指示します	経済学関連	経営学関連	北原淳・西澤信善編著『アジア経済論』ミネルヴァ書房	随時プリントを配布します。	授業への取組とレポートで評価します。	講義	演習形式と講義形式の併用	アジア経済に関する新聞記事を読んでほしい。	水曜日 12:00~13:00	huang@hirosaki-u.ac.jp	とくになし	
168	168	人文社会科学部 応用社会科学専攻 国際人材育成コース	産業立地論 (Theory of Industrial Location)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 3・4時限	桑波田 浩之	-	レベル5	グローバル化が進み複雑さが増す社会を、経済理論に基に正しく理解すること 経済理論を応用して、現実の問題に対する解決策を提案すること	国際貿易理論を学ぶ。制度や歴史的な側面の説明は必要最小限にとどめ、ミクロ経済学の基本的な考え方の応用に重点をおく。具体的には、不完全競争下の貿易政策、規模経済性と貿易、戦略的貿易政策、海外直接投資、国際貿易ルール、空間経済学、重力モデル等について扱う。	第1回: ガイダンス 第2回: 不完全競争下における貿易政策 <1>(国内企業の独占) 第3回: 不完全競争下における貿易政策 <2>(外国企業の独占) 第4回: 不完全競争下における貿易政策 <3>(最適関税) 第5回: 規模経済性と産業内貿易 <1>(マーシャルの外部性) 第6回: 規模経済性と産業内貿易 <2>(独占的競争) 第7回: 戦略的貿易政策 <1>(静学ゲーム、数量競争の動学ゲーム) 第8回: 戦略的貿易政策 <2>(価格競争の動学ゲーム) 第9回: 直接投資と多国籍企業 <1>(生産要素の国際移動) 第10回: 直接投資と多国籍企業 <2>(海外直接投資) 第11回: 技術移転と国際貿易 第12回: 国際貿易と企業 <1>(企業の異質性と国際貿易) 第13回: 国際貿易と企業 <2>(産業集積と国際貿易) 第14回: 国際貿易ルール: GATT/WTO、環境保護、地域統合 第15回: まとめ 定期試験	毎回、事前に教科書を読み、分からない点を明らかにしておくこと。授業後は、授業で配る演習問題を通じて知識の定着を図ること。	経済学関連	応用学関連	若杉隆平『国際経済学 第3版』岩波書店 若杉隆平(編)『現代日本企業の国際化』岩波書店 藤田昌久・クルーグマン・ベナブリス『空間経済学』東洋経済新報社	清田耕造・神事直人『実証から学ぶ国際経済』有斐閣	定期試験 90%、平常点 10%	主に講義形式で一部演習	講義はスライドによる講義形式とする。	学部レベルのミクロ経済学の知識があることが望ましい。	水曜1・2・3・4限(メールを貰えば、他の時間帯でも対応可能)	kuwahata@hirosaki-u.ac.jp	なし	
169	169	人文社会科学部 応用社会科学専攻 国際人材育成コース	産業発展論 (Industry Development Theory)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 7・8時限	細矢 浩志	-	レベル5	経済活動としての産業の発展や構造変化にかなう基礎知識を習得すること 複雑な経済社会を読み解くための問題設定の方法や経済学的な思考力を身につけること 知識や理解したことを文章として表現できるようになること	資本主義経済社会における産業発展をめぐる諸問題について、主要文献・資料の講読・討論をつづいて、理論と実証の両面から分析・検討します。	第1回: グローバル化と日本のものづくり 第2回: 「ものづくり」とは何か 第3回: 統合型ものづくり組織力 第4回: 設計構造としてのアーキテクチャ 第5回: 日本製造業の競争力の変遷 第6回: 日本製造業の苦境と海外生産の展開 第7回: 「ものづくり」の基盤と中小企業の技術 第8回: 中小企業の海外生産とその特徴 第9回: オープンシステムとしての工場:オペレーションの安定と進化 第10回: グローバル生産体制における海外シニア工場 第11回: 既存工場能力再評価とグローバル生産体制 第12回: 東アジアの国際分業の動向と日本企業のものづくり 第13回: 新興市場戦略とものづくり 第14回: 新時代の技術経営とものづくり 第15回: 日本のものづくりの今後の展望と課題 *授業の進行状況等により、シラバスと実際の内容が異なる場合には、その都度説明します。	[予習]各テーマについて必要な資料・文献を読み、レジュメを用意してください。 [復習]配付資料等を見直しノートを整理し知識を確かなものにしてください。	経済学関連	経営学関連	政治学関連	藤本隆宏・(新訂)グローバル化と日本のものづくり』NHK出版、2015年	柴田友厚『日本企業のすり合わせ能力』NTT出版、2012年 その他、授業中に適宜指示します	レポートの作成・報告や出席等の学習態度を総合的に評価します。	講義及び演習	標準的な経済史(世界[西洋]経済史)と現代史(第二次世界大戦後～現代)にかなう基礎知識を修得していることが前提となります。	月17:40～18:30	hosoya(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし	
170	170	人文社会科学部 応用社会科学専攻 国際人材育成コース	比較経済論 (The Comparative Economy)	1, 2	選択科目	2	前期	木曜日 7・8時限	池田 憲隆	-	レベル5	日本と欧米の経済について、主として歴史的・制度的観点から比較・検討する。	日本と欧米の経済について、主として歴史的・制度的観点から比較・検討する。	予習については第1回の授業で説明します。また、毎回の授業内容と論点を確認する復習が必要です。	経済学関連	経営学関連	政治学関連	受講生と相談の上、決定します。	馬場宏二『シリーズ世界経済1～4』(御茶の水書房、1986～89年)I. ウォーラーステイン『近代世界システム I～IV』(名古屋大学出版会、2013年)。 授業内容に応じて適宜指示するほか、プリントを配布する場合があります。	発表内容や勉強態度などにより総合的に評価します。	演習	一定の課題について予め決められた受講生が発表し、それに基づいて討論をおこなうゼミナール形式を主とします。	特になし	木曜日 13:00～14:00	nikedata(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし	

(1)整理番号	(2)区分番号	(3)科目種別	(4)授業科目名〔英文名〕	(5)対象学年	(6)必修・選択	(7)単位数	(8)学期	(9)曜日・時間	(10)担当教員(所属)	(11)地域志向科目	(12)難易度(レベル)	(14)授業としての具体的到達目標	(15)授業の概要	(16)授業の内容予定	(17)準備学習(予習・復習)等の内容	(18)学問分野1(主学問分野)	(18)学問分野2(副学問分野)	(18)学問分野3(副学問分野)	(20)教材・教科書	(21)参考文献	(22)成績評価方法及び採点基準	(23)授業形式	(24)授業形態・授業方法	(25)留意点・予備知識	(26)オフィスアワー	(27)Eメールアドレス・HPアドレス	(28)その他
171	171	人文社会科学部 国際人育成コース	国際ビジネス論 (International Business)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 9・10時	森 樹男	-	レベル5	さまざまな事例を通じて理解を深め、国際ビジネスの現状と課題について理解できるようになること	グローバル企業のさまざまな事例を取り上げ、国際ビジネスの現状の理解を深めていきます。また、ビジネスモデルの有効性について、ディスカッションをしながら考察を行います。	テキストにしたがい、さまざまな多国籍企業の経営について考察していきます。以下はテキストの目次を示したものです。 第1回 イントロダクション 第2回 日本型ビジネスモデルの中国展開 第3回 中国における日本企業 第4回 コマツ 第5回 ダイキン工業 第6回 クボタ 第7回 日産自動車 第8回 京セラドキュメントソリューションズ 第9回 顧客インターフェイスの機能 第10回 補助的サービスの中核性 第11回 思考・感情ベースという意外なファクター 第12回 モデルの背後に流れる原理 第13回 ビジネスモデルの再構成 第14回 まとめ<1> 第15回 まとめ<2>	〔予習〕テキストを読み、議論したいテーマを用意してください。 〔復習〕授業で取り上げたトピックに関連した書籍や論文を探し、読んでください。	経営学関連	-	-	伊丹敬之(編著)『日本型ビジネスモデルの中国展開』有斐閣、2013年。	特になし	講義への参加と期末レポートにより総合的に評価し、集計します。	演習	輪読およびディスカッション	常に企業経営に関心を持ち、様々なメディアからの情報も得るように努めてください。	木曜 17時40分～18時30分 事前にメールで連絡があれば、その都度対応	mori(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし
172	172	人文社会科学部 国際人育成コース	企業社会論 (Companies and Society)	1, 2	選択科目	2	後期	月曜日 7・8時	大倉 邦夫	-	レベル5	企業社会論という、企業を社会との関係から捉える理論について理解を深めること。また、そうした視点に基づき、企業が社会の中でどのような責任が求められるか、またいかにしてその責任を果たしていくことができるのか、という点について実践的な提案を行うための力を身につけていくこと	近年、企業と社会の関係は変化しており、企業に期待される役割や責任も変化しています。そのような中で、この授業では企業社会論における代表的なトピックとして、環境経営、CSR経営、ソーシャル・ビジネスなどを取り上げ、それぞれの最新の研究を学習していきます。また、特にCSR経営をいかに進めていくのか、その課題を分析する力を養うために、受講者には企業の事例研究に取り組んでもらうこととなります。	【予習】課題となる文献を事前に読み込み、要約を作成することが求められます。 【復習】授業での議論の内容をまとめ、関連する文献を読み、理解を深めることが求められます。上記を合算して、最終的な成績評価を行う予定です。	経営学関連	-	-	谷本寛治(2006)『CSR—企業と社会を考える—』NTT出版	谷本寛治(2013)『責任ある競争力—CSRを問い直す—』NTT出版	平常評価(授業への参加度):30% 期末評価(事例研究の発表):70%	演習	演習形式とします。具体的には1人の報告者が事前に割り当てられた箇所について、レジュメを作成し、報告をします。	自ら考え、自ら調査するということを実践してもらいます。予習・復習が必ず求められます。	金曜日3・4時	k_ohkura(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	特になし	
173	173	人文社会科学部 国際人育成コース	国際管理会計論 (International Management Accounting)	1, 2	選択科目	2	後期	水曜日 5・6時	加藤 恵吉	-	レベル5	国際管理会計システムの機能や構造を検討すること	国際管理会計システムの機能やその学問体系の本質について教授する。	学部レベルの管理会計、原価計算、税務会計を復習しておくこと。	経営学関連	経済学関連	-	開講時に相談して決定する。また、必要なその他文献レジュメ等は配布する。	桜井久勝『会計利益情報の有用性』千倉書房	講義への参加状況(発言、参加度)50%、課題の評価50%	講義	講義形式及び演習形式の併用	少人数の受講の場合、できるだけ要望に応えるように配慮しますので事前に問い合わせいただけます。(開講後でも構いません。)	月曜12:00-12:30	-	なし	
174	174	人文社会科学部 国際人育成コース	国際会計論 (International Accounting)	1, 2	選択科目	2	後期	火曜日 7・8時	内藤 周子	-	レベル5	財務報告に関する修得した専門知識・技能を横断的に連携させて、地域や国際社会で求められる社会経済面での諸政策の立案・実施等につなげる能力を養うこと。より具体的には、財務諸表に関する基礎的な知識を習得し、グローバル化が進む企業活動を写像した財務報告に関する最新の理論と方法論を学ぶこと。	本講義では、企業活動のグローバル化の進展を背景とした国際財務報告に関する基礎的な概念と財務報告に関する諸問題を解決するための分析手法について概説する。	国際化が進化する企業活動を写像する財務報告についての、基礎的な概念を整理すること。	経営学関連	経済学関連	-	ウィリアム・R・スコット著・太田康広、椎葉淳、西谷順平訳『財務会計の理論と実証』中央経済社、2008年。	Scott, William R., Financial Accounting Theory, 7th Edition, Pearson Prentice Hall, 2015.	定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)	講義	講義を中心にいきます。随時、ハンドアウトを配布して、計算問題を解いたり論述を行う予定です。	財務会計に関する基礎的な知識があることを前提として講義をすすめます。	金曜日5.6時	naito-s(at)hirosaki-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください	なし。	